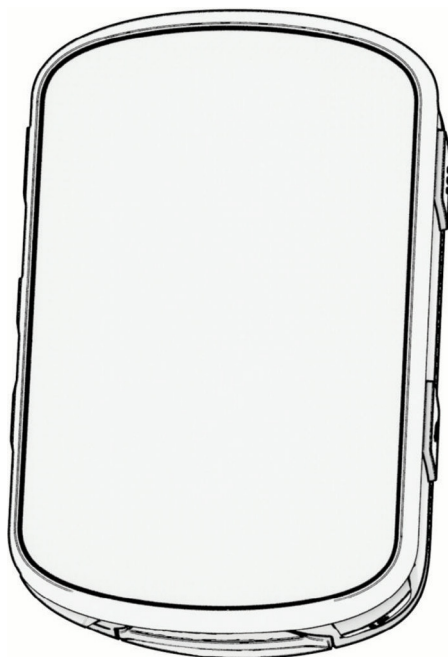




EDGE 540

操作マニュアル

目次

はじめに.....	1
デバイス概要.....	1
ホーム画面.....	2
ウィジェットを表示する.....	2
ホーム画面の概要情報を確認する.....	2
衛星信号を受信する.....	3
トレーニング.....	4
ライドを開始する.....	4
アクティビティを自己評価する.....	4
統合トレーニングステータス.....	4
トレーニングプラン.....	5
Garmin Connect のトレーニングプランを利用する.....	5
トレーニングカレンダーを確認する.....	5
パワーガイド.....	5
パワーガイドを作成する.....	6
パワーガイドを使用してトレーニングを開始する.....	6
ワークアウト.....	6
Garmin Connect アプリでワークアウトを作成する.....	6
ワークアウトをデバイスにダウンロードする.....	7
今日のおすすめワークアウト.....	7
今日のおすすめワークアウトを実行する.....	7
今日のおすすめワークアウト通知をオン / オフにする.....	7
ワークアウトを開始する.....	7
ワークアウトを停止する.....	7
ワークアウトを削除する.....	8
セグメント.....	8
Strava セグメント.....	8
Garmin Connect からセグメントをダウンロードして実行する.....	8
セグメントを有効にする.....	8
セグメントを実行する.....	8
セグメントの詳細を確認する.....	9
セグメントオプション.....	9
セグメントを削除する.....	9
屋内トレーニング.....	9
屋内トレーナーをペアリングする.....	9
屋内トレーナーを使用する.....	10
インターバルワークアウト.....	10
インターバルワークアウトを作成する.....	10

インターバルワークアウトを開始する.....	11
レース.....	11
レースに向けてトレーニングする.....	11
レースカレンダーとプライマリレース.....	11
ターゲットトレーニング.....	12
マイデータ.....	13
パフォーマンス測定機能.....	13
トレーニングステータスのレベル.....	14
VO2 Max (最大酸素摂取量).....	14
短期的負荷.....	15
負荷バランス.....	16
サイクリング能力を確認する.....	17
トレーニング効果.....	17
リカバリータイム.....	18
運動負荷を確認する.....	18
FTP (機能的作業閾値パワー).....	19
リアルタイムスタミナを確認する.....	19
ストレススコア.....	20
パワーカーブ.....	20
アクティビティとパフォーマンス測定結果を同期する.....	21
パフォーマンス通知の有効 / 無効を設定する.....	21
トレーニングステータスを一時停止する.....	21
トレーニングステータスを再開する.....	21
フィットネス年齢.....	21
週間運動量.....	21
自己ベスト.....	22
自己ベストを確認する.....	22
自己ベストを前回の記録に変更する.....	22
自己ベストを削除する.....	22
トレーニングゾーン.....	22
ナビゲーション.....	23
ポイント.....	23
現在地をポイント登録する.....	23
地図上の地点をポイント登録する.....	23
ポイントを編集する.....	23
ポイントを削除する.....	23
ナビゲーション.....	23
ナビゲーションを開始する.....	23
現在のアクティビティのスタート地点へナビゲーションする (トラックバック).....	24
共有された地点へのナビゲーションを開始する.....	24

ライド中に共有された地点へのナビゲーションを開始する	25	GroupRide セッションを終了する	37
ナビゲーションを中止する	25	GroupRide セッションのヒント	37
Garmin Connect アプリでマップ上の地点を共有する	25	ライブイベント共有	37
危険箇所を報告する	26	ライブイベント共有をオンにする	37
コース	26	観客メッセージ	38
アクティビティデータからコースを作成する	26	観客メッセージをブロックする	38
コースをデバイスに転送する	26	バイクアラーム	38
コースの詳細を確認する	27	バイクアラームを設定する	38
コースを地図上に表示する	27	オーディオアラート	38
コースオプション	27	ミュージックコントロール	38
コースから外れたときにルートを再計算する	27	Garmin シェア	39
コースナビゲーションを中止する	27	Garmin シェアでデータを共有する	39
コースを削除する	27	Garmin シェアでデータを受信する	39
Trailforks	28	Garmin シェア設定	39
ClimbPro を使用する	28	Wi-Fi 接続機能	39
Climb Explore ウィジェットを使用する	28	Wi-Fi 接続設定を行う	39
クライムカテゴリー	29	Wi-Fi 設定	40
地図設定	29	ワイヤレスセンサー	41
地図の外観設定	29	ハートレートセンサーを装着する	41
ルート探索方法	30	心拍ゾーンを設定する	42
ワイヤレス接続機能	31	トレーニングの目標と心拍ゾーン	42
スマートフォンとペアリングする	31	心拍データが不規則な値を示す場合の対処法	42
Bluetooth 接続機能	31	スピードセンサーを装着する	43
セーフティ&トラッキング機能	31	ケイデンスセンサーを装着する	43
事故検出	32	スピードセンサー・ケイデンスセンサーについて	44
事故検出の有効 / 無効を設定する	32	ケイデンスまたはパワーデータの平均値	44
援助要請	32	スピードセンサーのタイヤ周長を設定する	44
援助要請を送信する	32	ワイヤレスセンサーをペアリングする	44
緊急連絡先を追加する	33	ワイヤレスセンサーのバッテリー残量	44
緊急連絡先を確認する	33	パワー計	45
事故検出メッセージ送信をキャンセルする	33	パワーゾーンを設定する	45
無事を知らせるメッセージを送信する	33	パワー計を校正する	45
LiveTrack	33	サイクリングダイナミクス	45
LiveTrack を開始する	33	サイクリングダイナミクス機能をカスタマイズする	47
GroupTrack を開始する	34	Edge デバイスで Rally / Vector のソフトウェアを更新する	47
GroupTrack のヒント	34	Varia センサー	47
GroupRide を使用する	34	Varia デバイスのカメラ機能を使用する	48
GroupRide を作成する	35	グリーンレベル接近トーンをオンにする	48
GroupRide セッションに参加する	36	電動シフター	48
GroupRide メッセージを送信する	36	e- バイク	48
GroupRide 地図ステータス	37	e- バイクのセンサー詳細を確認する	48

inReach リモート	48	拡張ディスプレイモード	59
inReach リモートを使用する	48	拡張ディスプレイモードを終了する	59
履歴.....	50	デバイス情報.....	60
履歴を確認する.....	50	デバイスを充電する.....	60
心拍ゾーン / パワーゾーンのゾーン別タイムを確認する	50	バッテリーについて	60
履歴を一件削除する	50	ハンドル / ステムマウントを取り付ける	60
合計を確認する.....	50	アウトフロントマウントを取り付ける	61
合計を削除する	50	マウントから取り外す	62
Garmin Connect.....	50	マウンテンバイクマウントを取り付ける	62
ライドデータを Garmin Connect に送信する	51	ストラップを取り付ける	63
データの記録	51	製品のアップデート	64
データ管理.....	51	Garmin Connect アプリでソフトウェアをアップデートする	64
デバイスを PC に接続する	51	Garmin Express でソフトウェアをアップデートする	64
デバイスにファイルを転送する	51	仕様.....	65
デバイスからファイルを消去する	51	デバイスの情報を確認する	65
USB 接続時の取り外し方法.....	51	電子ラベルの規制および準拠情報.....	65
設定.....	52	お取り扱い上の注意事項.....	66
Connect IQ 機能.....	52	デバイスのクリーニング方法	66
PC から Connect IQ をダウンロードする	52	USB ポートのクリーニング方法	66
ユーザープロフィール	52	ハートレートセンサーのお取り扱い上の注意事項	66
ジェンダー設定	52	センサーの電池を交換する	67
ライドプロフィール.....	52	ハートレートセンサー (HRM-Dual) の電池を交換する	67
ライドプロフィールを新規追加する	52	スピードセンサー Dual のバッテリーを交換する	67
ライドプロフィールの各種設定を行う	53	ケイデンスセンサー Dual のバッテリーを交換する	68
トレーニングページを追加する	53	トラブルシューティング.....	69
トレーニングページのデータ項目を編集する	53	デバイスを再起動する	69
トレーニングページを並べ替える	54	全設定リセット.....	69
アラートとプロンプトの設定	54	デモモードを終了する	69
自動ラップ.....	55	バッテリーの稼働時間を長くするには	69
自動スリープモード	56	バッテリー節約モードを有効にする	69
自動ポーズ.....	56	デバイスとスマートフォンが接続できません	69
自動スクロール	56	ソーラー充電対応デバイスのためのヒント	70
タイマースタート	56	GPS 受信精度の向上	70
衛星受信モードを変更する	57	日本語で表示されません.....	70
スマートフォン設定.....	57	高度を校正するには.....	70
システム設定	57	気温の計測値について	71
ディスプレイ設定	57	気圧高度計を校正する	71
ホーム画面の概要情報を管理する	58	コンパスを校正する	71
ウィジェットを管理する	58	マウント固定用バンドを交換するには	71
データ記録設定	58		
単位設定	58		
タイムゾーンについて	58		

デバイスに関するその他の情報.....	71
付録.....	72
データ項目.....	72
スピード	72
距離	72
タイム	72
高度	72
ナビゲーション	73
MTB パフォーマンス	73
グラフィック表示	73
その他	74
ケイデンス.....	74
心拍	74
パワー	74
サイクリングダイナミクス	75
ギア	76
ライト	76
ワークアウト	76
スマートトレーナー	77
e- バイク	77
スタミナ	77
V02 Max レベル分類表	77
FTP レベル分類表	78
心拍ゾーン参考表	78
タイヤサイズと周長.....	78
商標について	79

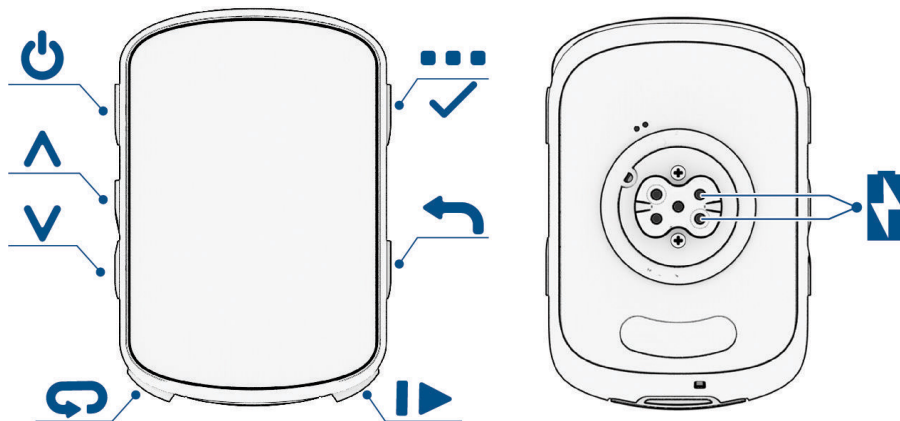
はじめに

警告

本製品を安全にご使用いただくために、同梱のクイックスタートマニュアルの「安全および製品に関する警告と注意事項」に記載される内容を必ずお読みください。

トレーニングを開始または計画する際には、事前にかかりつけの医師にご相談ください。

デバイス概要



	押す：スリープモード移行 / 解除 長押し：電源オン / オフ
	押す：トレーニングページ / オプション / 設定のスクロール ホーム画面で押す：ステータスページを表示
	押す：トレーニングページ / オプション / 設定のスクロール ホーム画面で押す：ウィジェット一覧を表示
	押す：ラップ取得 (アクティビティ実行中)
	押す：アクティビティのタイマー開始 / 停止
	押す：前の画面に戻る 長押し：ホーム画面に戻る
	押す：決定 長押し：メインメニューを表示
	外部電源アクセサリ用充電端子

注意：別売のアクセサリの購入については、[Garmin.co.jp](https://www.garmin.co.jp) をご確認ください。

ホーム画面

ホーム画面から各機能へアクセスします。

	バッテリーステータス
	GPS 信号強度
	Bluetooth® 接続ステータス
	同期中
	ライドプロフィールを選択してライドを開始 ▲ または ▼ でライドプロフィールを変更
ナビゲーション	地図、ポイント登録、検索などのナビゲーション機能を表示
トレーニング	セグメント、ワークアウトなどのトレーニング機能を表示
履歴	アクティビティの履歴と合計を表示
	メニューを表示

ウィジェットを表示する

デバイスには数種類のウィジェットがプリインストールされています。一部ウィジェットを利用するには、スマートフォンとのペアリングや対応するデバイスとの接続が必要です。

- 1 ホーム画面で、ウィジェットが表示されるまで ▲ を押します。
- 2 ▲ または ▼ でウィジェットをスクロールします。



設定ウィジェットが表示されます。設定ウィジェットでは、各種センサーの接続状態が確認できます。センサー検索中は、各アイコンが点滅します。また、各オプション表示部を選択すると、設定などの関連するメニューが表示されます。

次にウィジェットを表示したときは、前回表示していたウィジェットが初めに表示されます。

ホーム画面の概要情報を確認する

ホーム画面でヘルスデータやアクティビティの概要情報などを確認できます。

- ホーム画面で ▼ を押すと、概要情報をスクロールできます。
- 概要情報を選択すると、詳細を確認できます。
-  を選択すると、ホーム画面に表示する概要情報をカスタマイズできます。(58 ページ [ホーム画面の概要情報を管理する](#))

衛星信号を受信する

衛星信号の受信は、上空の開けた屋外で行います。GPS の位置情報に基づいて、日時が設定されます。

ヒント：GPS について、詳しくは Garmin.com/ja-JP/aboutGPS/ をご参照ください。

- 1 上空の開けた屋外へ出ます。
デバイスの表面を上空に向けます。
- 2 衛星信号の受信が完了するまで待ちます。
通常、30 ～ 60 秒ほどかかります。

トレーニング

ライドを開始する

デバイスに同梱されているワイヤレスセンサーは、出荷時にデバイスにペアリング済みです。(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))

- 1 を長押ししてデバイスの電源を入れます。
- 2 屋外へ出て、GPS の受信を完了させます。
受信が完了すると、GPS アンテナが緑色に点灯します。
- 3 ホーム画面で **...** を押します。
- 4 ライドプロフィールを選択します。
- 5 を押してアクティビティのタイマーを開始します。

スピード 18.2^{km}_h	🔥 合計カロリー 750
⚡ パワー 193	
⌚ タイム 1:24:14	
距離 22.4^k_m	▲ 高度 2214_m

注意：アクティビティのデータはタイマー計測中のみ記録されます。

- 6 または でトレーニングページをスクロールします。
- 7 **...** を押してアラートやデータ項目などのオプションメニューを表示します。
- 8 タイマーを停止するには、 を押します。

ヒント： を選択すると、データを保存して Garmin Connect アカウントにアップロードする前にライドタイプを変更できます。

- 9 **[保存]** を選択します。
- 10 を選択します。

アクティビティを自己評価する

ライドプロフィール設定で自己評価設定をカスタマイズできます。(53 ページ [ライドプロフィールの各種設定を行う](#))

- 1 アクティビティ終了後、**[保存]** を選択します。
- 2 または を選択して、エフォートを評価します。
注意：**[スキップ]** を選択して評価をスキップすることができます。
- 3 フィーリング評価を選択します。
- 4 **[OK]** を選択します。

自己評価は、Garmin Connect アカウントで確認できます。

統合トレーニングステータス

Garmin Connect アカウントで2つ以上の Garmin デバイスを使用する場合、日常的な使用とトレーニングでの使用で、どのデバイスを優先データソースとするかを選択することができます。

Garmin Connect アプリで **...** > **[設定]** の順に開きます。

優先トレーニングデバイス：トレーニングステータスやトレーニング負荷バランスなどのトレーニング指標の優先データソースとするデバイスを選択します。

優先ウェアラブル：ステップ数や睡眠などの毎日の健康指標の優先データソースとするデバイスを選択します。最も頻繁に装着するウォッチを選択してください。

ヒント：より良い結果を得るため、Garmin Connect アカウントと定期的に同期してください。

トレーニングプラン

Garmin Connect アカウントでトレーニングプランをセットアップして、トレーニングプランのワークアウトをデバイスに送信できます。デバイスに送信したスケジュール済みのワークアウトは、トレーニングカレンダーに表示されます。

Garmin Connect のトレーニングプランを利用する

トレーニングプランを利用するには、Garmin Connect アカウントが必要です(50 ページ [Garmin Connect](#))。また、Garmin Connect アプリでデバイスとスマートフォンをペアリングする必要があります。(31 ページ [スマートフォンとペアリングする](#))

- 1 Garmin Connect アプリで詳細(•••)を開きます。
- 2 **【トレーニングと計画】>【トレーニングプラン】**を選択します。
- 3 トレーニングプランを選択してスケジュールします。
- 4 画面に表示される指示に従って操作します。
- 5 カレンダーでトレーニングプランを確認します。

トレーニングカレンダーを確認する

トレーニングカレンダーで日付を選択すると、スケジュールされたワークアウトを確認して開始したり、保存済みのアクティビティのデータを確認できます。

- 1 ホーム画面から**【トレーニング】>【トレーニングプラン】**の順に選択します。
- 2 を選択します。
- 3 スケジュール済みのワークアウトや保存済みのアクティビティデータを確認する日付を選択します。

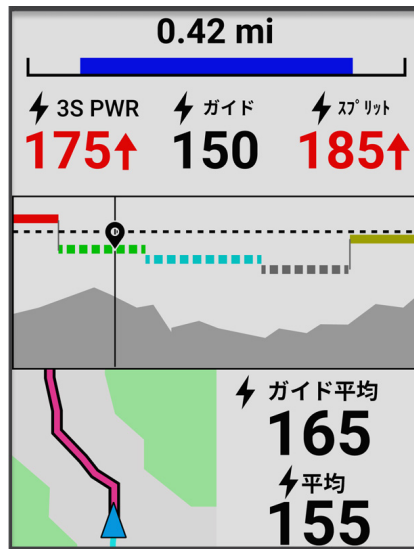
パワーガイド

コースの標高やコース走破にかかる予想タイム、FTP などをもとに自身の能力に合ったパワー戦略を作成し、コース走破をサポートします。パワーガイドは任意の目標タイム達成を支援する機能ではありません。

より正確なパワーガイドを作成するには、目標運動量を正しく設定する必要があります。目標運動量が高いとパワーターゲットは高く、目標運動量が低いとパワーターゲットは低くなります。目標運動量はライド中に変更できます。(6 ページ [パワーガイドを作成する](#))

パワーガイドはコース走破のためのパワー戦略作成機能です。ワークアウトやセグメントではパワーガイドは使用できません。作成したパワー戦略は Garmin Connect で表示・編集し、パワーガイド機能対応の Garmin デバイスに転送することができます。

パワーガイド機能を使用するには、デバイスとパワー計をペアリングする必要があります(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))。パワー計との接続が完了すると、トレーニングページに表示可能なデータ項目が追加されます。(72 ページ [データ項目](#))



パワーガイドを作成する

デバイスでパワーガイドを作成するには、あらかじめパワー計とペアリングする必要があります。(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]** > **[パワーガイド]** > **+** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・ 保存済みのコースデータを使用する場合は、**[保存したコースを使用]** を選択します。
 - ・ コースを新規作成する場合は、**[ルートプランナー]** からコースを作成し、**⋮** > **[パワーガイドの作成]** の順に選択します。
- 3 パワーガイド名を入力し、**✓** を選択して決定します。
- 4 ライドポジションを選択します。
- 5 ギア重量を選択します。
- 6 **[保存]** を選択します。

パワーガイドを使用してトレーニングを開始する

パワーガイドを使用してトレーニングを開始するには、あらかじめパワーガイドを作成する必要があります。(6 ページ [パワーガイドを作成する](#))

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]** > **[パワーガイド]** の順に選択します。
- 2 使用するパワーガイドを選択します。
- 3 **[ライド]** を選択します。
- 4 **▶** を押してアクティビティのタイマーを開始します。

ワークアウト

ワークアウトとは、様々な達成値や維持目標を設定したトレーニングステップを組み合わせる行うトレーニングメニューです。ワークアウトは、Garmin Connect アカウントで作成してデバイスに転送することができます。ワークアウトのスケジュールを設定してデバイスに転送することもできます。

Garmin Connect アプリでワークアウトを作成する

Garmin Connect アプリでワークアウトを作成するには、Garmin Connect アカウントが必要です。(50 ページ [Garmin Connect](#))

- 1 Garmin Connect アプリで詳細(⋯)を開きます。
- 2 **[トレーニングと計画]** > **[ワークアウト]** > **[ワークアウトの作成]** の順に選択します。
- 3 アクティビティを選択します。
- 4 各項目を編集しワークアウトを作成します。
- 5 **[保存]** を選択します。
- 6 ワークアウト名を入力し、**[保存]** を選択します。
作成したワークアウトが一覧で表示されます。

Garmin Connect アカウント上で作成したワークアウトはデバイスに転送することができます。(7 ページ

ワークアウトをデバイスにダウンロードする

デバイスにワークアウトをダウンロードするには、Garmin Connect アカウントが必要です。(50 ページ [Garmin Connect](#))

Garmin Connect アプリからワークアウトをデバイスにダウンロードする

- 1 Garmin Connect アプリで詳細(●●●)を開きます。
- 2 **[トレーニングと計画]** > **[ワークアウト]** の順に選択します。
- 3 ダウンロードするワークアウトを選択し、 を選択します。
次回デバイスと同期したときに、ワークアウトがデバイスにダウンロードされます。

Garmin Connect からワークアウトをデバイスにダウンロードする

- 1 PC にデバイスを接続します。
- 2 connect.garmin.com にアクセスし、サインインします。
- 3 Garmin Connect のメニューから **[トレーニングと計画]** > **[ワークアウト]** の順に選択します。
- 4 ダウンロードするワークアウトをクリックし、**[デバイスへの送信]** を選択して、画面の指示に従い操作します。

今日のおすすめワークアウト

今日のおすすめワークアウトは、Garmin Connect アカウントに保存された過去のアクティビティの履歴を基に提案されます。レースに向けてトレーニングを行っている場合は、毎日のおすすめワークアウトはトレーニングカレンダー(5 ページ [トレーニングカレンダーを確認する](#))に表示され、予定しているレースに合わせたワークアウトが提案されます。(11 ページ [レースに向けてトレーニングする](#))

注意：おすすめワークアウトの機能を利用するには、ハートレートセンサー(心拍計)とパワー計(別売)を使用して一週間トレーニングを行う必要があります。

今日のおすすめワークアウトを実行する

おすすめワークアウトの機能を利用するには、ハートレートセンサー(心拍計)とパワー計(別売)を使用して一週間トレーニングを行う必要があります。

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]** > **[ワークアウト]** > **[今日のおすすめワークアウト]** の順に選択します。
- 2 **[ライド]** を選択します。

今日のおすすめワークアウト通知をオン / オフにする

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]** > **[ワークアウト]** > **[今日のおすすめワークアウト]** > **⋮** の順に選択します。
- 2 **[ホーム画面に表示]** を選択します。

ワークアウトを開始する

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]** > **[ワークアウト]** の順に選択します。
- 2 ワークアウトを選択します。
- 3 **[ライド]** を選択します。
- 4  を押してアクティビティのタイマーを開始します。

ワークアウトを開始すると、ワークアウトページに各ステップの内容と目標値(目標値が設定されている場合)、現在のワークアウトデータが表示されます。

各ステップ終了時にアラーム音でお知らせします。次のステップ開始前には、メッセージが表示され、カウントダウンが開始します。

ワークアウトを停止する

-  を押すと、現在のステップを中断して次のステップへ移行します。
- ワークアウトページで ●●● を長押しすると、次のオプションが表示されます。
 -  現在実行中のワークアウトステップを一時停止します。
 -  前のステップに戻り、ステップの最初からやり直します。
 -  次のステップに移行します。
-  を押すと、アクティビティのタイマーを停止します。
- ワークアウトを中止するには、●●● を長押しして **[ワークアウト中止]** >  の順に選択します。

ワークアウトを削除する

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]>[ワークアウト]>⋮>[選択削除]** の順に選択します。
- 2 削除するワークアウトを選択します。
- 3 **✓** を選択して削除します。

セグメント

セグメントとは、仮想のレースコースです。セグメントとして設定したコースを自身や Garmin Connect 上のユーザー、グループのメンバーなどが走行することで、そのタイムを競います。セグメントデータをあらかじめ転送しておくことで、リアルタイムに仮想のレースを行うことが可能です。

セグメントを利用するには、Garmin Connect アカウントからセグメントデータを転送する必要があります。

注意：Garmin Connect アカウントからダウンロードしたコースデータに含まれるセグメントデータは、デバイスに自動でダウンロードされます。

Strava セグメント

Strava の星印のセグメントを Garmin Connect アカウントに同期することができます。Garmin Connect のダッシュボードのセグメントパネルから Strava アカウントに接続して Strava セグメントの表示に切り替えると、次回同期時に Strava セグメントがデバイスに送信されます。(Strava のサブスクリプションのご購入が必要です。)

Strava セグメントエクスプローラーウィジェット

Strava セグメントエクスプローラーウィジェットでは、現在地に近いセグメントを検索することができます。

Strava セグメントエクスプローラーウィジェットで、セグメントを選択します。

セグメントが地図上に表示されます。

Garmin Connect からセグメントをダウンロードして実行する

デバイスにセグメントをダウンロードするには、Garmin Connect アカウントが必要です。(50 ページ [Garmin Connect](#))

注意：Strava の星印のセグメントは、デバイスと Garmin Connect アプリの同期時に自動でデバイスに転送送信されます。

- 1 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ デバイスとペアリング済みのスマートフォンで、Garmin Connect アプリを開きます。
 - ・ PC にデバイスを接続して、connect.garmin.com にアクセスし、サインインします。
- 2 メニューから **[トレーニングと計画]>[セグメント]** の順に選択します。
- 3 地図またはリストから転送するセグメントを選択します。
- 4 **📄** または **[デバイスへの送信]** を選択し、画面の指示に従い操作します。
- 5 デバイスを操作します。ホーム画面から **[トレーニング]>[セグメント]** の順に選択します。
- 6 セグメントを選択します。
- 7 **[ライド]** を選択します。

セグメントを有効にする

デバイスに保存されているセグメントの有効 / 無効を設定します。有効に設定すると、セグメント開始地点に到達したときに自動でセグメントのレースが開始します。

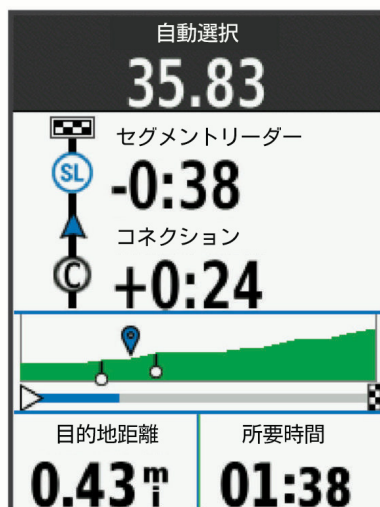
- 1 ホーム画面から **[トレーニング]>[セグメント]>[セグメントオプション]>[有効 / 無効]>[セグメント一覧]** の順に選択します。
- 2 セグメントを選択して有効 / 無効を切り替えます。

セグメントを実行する

- 1 **▶** を押してライドを開始します。

アクティビティ実行中にデバイスに転送済みのセグメントの開始地点に到達すると、自動でセグメントが開始します。
- 2 セグメントのレースを開始します。

トレーニングページにセグメントページが表示されます。



3 ...を押して、セグメントの目標(競争相手)を変更できます。

セグメントリーダーや自己ベスト、コネクションのユーザーとレースを競うことができます。セグメントの競争相手は、現在のあなたのパフォーマンスにより自動選択されます。

4 セグメントが完了すると、メッセージが表示されます。

セグメントの詳細を確認する

1 ホーム画面から【トレーニング】>【セグメント】の順に選択します。

2 セグメント一覧から、詳細を確認するセグメントを選択します。

3 次のオプションを選択します。

- ・【地図】 セグメントを地図上で確認します。
- ・【高度】 セグメントの高度グラフを確認します。
- ・【リーダーボード】 セグメントのリーダーボードを確認します。セグメントの目標(競争相手)を選択できます。
- ・【有効】 セグメントの自動開始の有効/無効を設定します。

セグメントオプション

1 ホーム画面から【トレーニング】>【セグメント】>【セグメントオプション】の順に選択します。

2 次のオプションを選択します。

- ・【コースナビゲーション】 転換点案内の有効/無効を設定します。
- ・【エフォート自動選択】 セグメントの競争相手の自動選択の有効/無効を設定します。
- ・【検索】 セグメントを名前検索します。
- ・【有効/無効】 セグメントの有効/無効を設定します。有効に設定すると、セグメントに接近した際にメッセージが表示され、開始地点に到達すると自動でセグメントのレースが開始します。
- ・【リーダー初期設定】 セグメントのレースをしているときに、目標にするリーダーの順番を選択できます。
- ・【削除】 複数のセグメントを削除します。

セグメントを削除する

1 ホーム画面から【トレーニング】>【セグメント】の順に選択します。

2 削除するセグメントを選択します。

3 ❏ > ✓ の順に選択します。

屋内トレーニング

このデバイスには、屋内アクティビティとして GPS をオフで使用するライドプロフィールがあります。GPS がオフになっている場合、速度と距離のデータをデバイスに送信できる互換性のあるセンサー、または屋内トレーナーがない限り、速度と距離は計測できません。

屋内トレーナーをペアリングする

1 デバイスとトレーナーを 3m 以内に近づけます。

2 屋内向けのライドプロフィールを選択します。

3 屋内トレーナーで、ペダルを漕ぐか、ペアリングボタンを押します。

詳しくは、屋内トレーナーの取扱説明書等をご参照ください。

- 4 Edge デバイスにメッセージが表示されます。

注意：メッセージが表示されない場合は、 > **[センサー]** > **[センサー追加]** の順に選択します。

- 5 画面に表示される指示に従って操作します。

屋内トレーナーとデバイスの ANT+ 接続が完了すると、接続済みセンサーとして表示されます。トレーニングページをカスタマイズして、トレーナーのデータを表示できます。

屋内トレーナーを使用する

屋内トレーナー(別売)を使用するには、あらかじめデバイスとトレーナーを ANT+ 接続でペアリングする必要があります。(9 ページ [屋内トレーナーをペアリングする](#))

ご使用の屋内トレーナーにより、利用可能な設定や機能が異なります。詳しくはトレーナーの取扱説明書等をご確認ください。

屋内トレーナーを使用して、コースまたはアクティビティ、ワークアウトのレジスタンスシュミレーションを実行できます。屋内トレーナー使用中は、GPS は自動でオフになります。

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]** > **[スマートトレーナー]** の順に選択します。
- 2 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ **[フリーライド]** 手動で負荷レベルを調整するフリーライドを実行します。
 - ・ **[コースを選択]** 保存済みコースを選択します。(26 ページ [コース](#))
 - ・ **[アクティビティを選択]** 保存済みアクティビティを選択します。(4 ページ [ライドを開始する](#))
 - ・ **[ワークアウトを選択]** 保存済みのワークアウトを選択します。(6 ページ [ワークアウト](#))
 - ・ 利用可能な場合は、**[勾配設定]**/**[負荷設定]**/**[目標パワー]** を選択してカスタマイズします。

注意：トレーナーの負荷は、コースまたはライド情報に基づいて増減します。

- 3 コースまたはアクティビティ、ワークアウトを選択します。
- 4 **[ライド]** を選択します。
- 5  を押してアクティビティのタイマーを開始します。

負荷を設定する

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]** > **[スマートトレーナー]** > **[負荷設定]** の順に選択します。
- 2  または  を選択して負荷を設定します。
- 3  を押してアクティビティのタイマーを開始します。
- 4 必要に応じて、 > **[負荷設定]** を選択して負荷を調整します。

勾配を設定する

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]** > **[スマートトレーナー]** > **[勾配設定]** の順に選択します。
- 2  または  を選択して負荷を設定します。

目標パワーを設定する

- 1 ホーム画面から **[トレーニング]** > **[スマートトレーナー]** > **[目標パワー設定]** の順に選択します。
- 2 ターゲットパワー値を設定します。
- 3 ライドプロフィールを選択します。
- 4  を押してアクティビティのタイマーを開始します。

スピードに応じた一定のパワー出力を維持するため、トレーナーの負荷は自動調整されます。
- 5 必要に応じて、 > **[負荷設定]** を選択して目標パワーを調整します。

インターバルワークアウト

インターバルワークアウトとは、トレーニングステップと休息ステップを一つのセットとして、そのセットを設定した回数繰り返して行うトレーニングメニューです。

各ステップは時間または距離で達成値を設定することができます。達成値をオープンに設定すると、 を押した任意の時点でステップを切り替えることができます。

作成したインターバルワークアウトの内容は、新たに編集するまでデバイスに保存されます。

インターバルワークアウトを作成する

デバイスにプリインストールのデフォルトのインターバルワークアウトは、カスタマイズして使用することができます。

- 1 ホーム画面から**【トレーニング】**>**【インターバル】**>>**【インターバル】**>**【目標タイプ】**の順に選択します。
- 2 表示されるオプションから目標タイプを選択します。
ヒント：**【オープン】**を選択すると、達成条件のないインターバルを作成できます。
- 3 必要に応じて、**【下限値】**と**【上限値】**を設定します。
- 4 **【達成値】**を選択し、インターバルの時間を設定します。
- 5 設定が完了したら、で前の画面に戻ります。
- 6 **【休息】**>**【目標タイプ】**の順に選択します。
- 7 表示されるオプションから目標タイプを選択します。
- 8 必要に応じて、**【下限値】**と**【上限値】**を設定します。
- 9 **【達成値】**を選択し、休息インターバルの時間を設定します。
- 10 設定が完了したら、で前の画面に戻ります。
- 11 次のオプションを設定します。(任意)
 - ・**【ウォームアップ】** インターバルワークアウト開始前のウォームアップのオン/オフを選択します。
 - ・**【リピート】** 繰り返し回数を設定します。
 - ・**【クールダウン】** インターバルワークアウト終了前のクールダウンのオン/オフを選択します。
- 12 すべて設定し終えたら、で前の画面に戻ります。

インターバルワークアウトを開始する

- 1 ホーム画面から**【トレーニング】**>**【インターバル】**>**【開始】**の順に選択します。
 - 2 を押してアクティビティのタイマーを開始します。
 - 3 ウォームアップがオンのインターバルワークアウトの場合は、を押してウォームアップを終了します。
 - 4 画面に表示される指示に従い、インターバルワークアウトを実行します。
- インターバルワークアウトのすべてのステップを完了すると、メッセージが表示されます。

レース

レーストレーニングとは、過去のアクティビティの記録またはコースデータの記録と比較しながら走行することを目的としたトレーニングメニューです。

- 1 ホーム画面から**【トレーニング】**>**【レース】**の順に選択します。
- 2 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・**【履歴】** デバイスに保存済みのアクティビティデータを利用してレースを行います。
 - ・**【保存済みコース】** デバイスに保存済みのコースデータを利用してレースを行います。
- 3 一覧からレースに利用するアクティビティデータまたはコースデータを選択します。
- 4 **【ライド】**を選択します。
- 5 を押してアクティビティのタイマーを開始します。

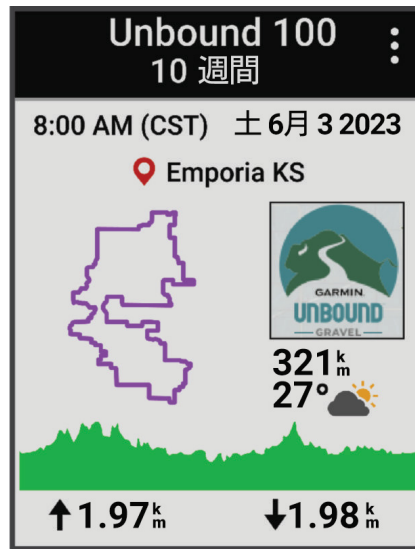
レースに向けてトレーニングする

レースに向けてトレーニングするときに役立つおすすめのワークアウトを提案します。おすすめワークアウトを表示するには、VO2 Max の計測(14 ページ [VO2 Max\(最大酸素摂取量\)](#))と心拍数とパワーを計測した一週間分のライドデータが必要です。

- 1 スマートフォンまたは PC で Garmin Connect のカレンダーにアクセスします。
- 2 イベントの日を選択し、レースイベントを追加します。
地域のイベントを検索したり、個人でイベントを作成することができます。
- 3 イベントの詳細を入力して、利用可能な場合はコースを追加します。
- 4 デバイスを Garmin Connect アカウントに同期します。
- 5 デバイスのプライマリレースウィジェットで、次のイベントまでのカウントダウンを確認できます。

レースカレンダーとプライマリレース

Garmin Connect のカレンダーにレースイベントを追加すると、デバイスのプライマリレースウィジェットでイベントを確認できます。イベント日は 365 日以内で設定します。イベント日までのカウントダウンと、イベントの日時と場所、コース詳細(利用可能な場合)、天気情報が表示されます。



注意：過去の日付の天気情報はすぐに確認できます。現地の天気予報データは、イベントの約 14 日前から確認できます。

プライマリレースイベントウィジェットで **✓** を押して、コース情報と天気情報を確認できます。イベントのコースデータに含まれる高度情報とコースマップ、コースのニーズ、クライム詳細を確認できます。

ターゲットトレーニング

ターゲットトレーニングは、バーチャルパートナー機能と連携します。距離やタイム、スピードまたはペースなどで達成目標を設定してトレーニングします。アクティビティ実行中は、目標達成にどのくらい近づいているかを知らせるリアルタイムのフィードバックが提供されます。

1 ホーム画面から **【トレーニング】** > **【ターゲット】** の順に選択します。

2 次のいずれかのオプションを選択します。

- ・ **【距離のみ】** プリセットの距離を選択するか、カスタムで任意の距離を設定します。
- ・ **【距離とタイム】** プリセットの距離を選択するか、カスタムで任意の距離を設定し、目標タイムを設定します。
- ・ **【距離とスピード】** プリセットの距離を選択するか、カスタムで任意の距離を設定し、目標スピードを設定します。

ターゲットトレーニングページが表示され、ユーザーの予想終了タイムが表示されます。予想は現在のユーザーのパフォーマンスと残りタイムに基づいて計算されます。

3 **✓** を選択します。

4 **▶** を押してアクティビティのタイマーを開始します。

5 ライドを終了するには、**▶** を押して **【保存】** を選択します。

マイデータ

ユーザーのパーソナルデータやパフォーマンスデータを確認します。パフォーマンスの測定には、ハートレートセンサーやパワー計またはスマートトレーナーが必要です。

パフォーマンス測定機能

自身のパフォーマンスやフィットネスレベルの把握、記録に役立つ各種パフォーマンス測定機能が搭載されています。パフォーマンス測定機能を利用するには、ペアリング済みのハートレートセンサー(心拍計*)とパワー計(別売)をデバイスに接続してトレーニングを行う必要があります。

* 光学式心拍計搭載 Garmin デバイスの心拍転送モードで取得した心拍データの利用も可能

これらの機能は Firstbeat Analytics により提供・サポートされています。詳しくは Garmin.co.jp/minisite/garmin-technology/cycling/ をご参照ください。

注意：初めのうちは測定値が不正確な場合があります。アクティビティを複数回行うことで精度が向上します。

トレーニングステータス：V02 Max と短期的負荷のデータを基に、トレーニングが自身のパフォーマンスにもたらす効果を示します。

V02 Max：V02 Max(最大酸素摂取量)とは、人が体内に取り込むことのできる酸素の一分間あたりの最大量です。

単位は ml/kg/ 分で、一分間で体重 1 キログラムあたり何ミリリットルの酸素を摂取できるかを表します。

短期的負荷：運動の時間や強度などの最近の運動負荷を加重合計したスコアを表示します。

負荷バランス：トレーニングを低強度有酸素運動、高強度有酸素運動、無酸素運動の 3 つのカテゴリーに分類して、各カテゴリーの過去 4 週間分のトレーニング量と負荷のバランスを示します。

リカバリータイム：トレーニング後の身体が十分に回復して、次のトレーニングを行うのに最適な状態になるまでの時間を示します。

FTP(機能的作業閾値パワー)：FTP の測定には、ユーザープロフィールの情報が使用されます。より正確な FTP を求めるには、自動検出機能をオンにしてアクティビティを実行します。

ストレススコア：ストレススコアの測定には、別売の胸部に装着するハートレートセンサーが必要です。3 分間の安静中の心拍数変動(HRV)を記録して、総合的なストレスのレベルを測定します。スコアは 1 ~ 100 で示され、数値が低いほどストレスが低いことを表します。

パフォーマンスコンディション：アクティビティ中のリアルタイムのコンディションを、ユーザーの平均的なフィットネスレベルと比較して評価します。パフォーマンスコンディションをトレーニングページのデータ項目に設定すると、アクティビティの開始から 6 ~ 20 分後に数値が表示されます。

パワーカーブ：直近 1 か月、3 か月、12 か月のパワー出力を示します。

フィットネス年齢：実年齢や活動量、安静時の心拍数、BMI または体脂肪率を基に身体の年齢を推定します。

週間運動量：一週間に実施した中強度以上の運動量をスコア化して表示します。また、週間運動量ゴールとその達成率を表示します。

トレーニングステータスのレベル

トレーニングステータスは、VO2 Max とトレーニング負荷の長期間のデータを基に、トレーニングが自身のパフォーマンスにもたらす効果を示します。トレーニングステータスを参考にすることで、トレーニングの計画やフィットネスレベルの向上に役立てられます。

- **(ステータスなし)**：利用可能なトレーニングデータがありません。トレーニングステータスを表示するには、2 週間分の複数のトレーニングデータが必要です。

ディトレーニング(トレーニング不足)：一週間またはそれ以上、通常よりトレーニングを行っていません。フィットネスレベルに影響を及ぼし始めています。トレーニング負荷を増やして改善を試みてください。

リカバリー(回復に適した負荷)：ハードトレーニングで消耗した身体の回復に適したトレーニング負荷です。十分な回復を感じたら、負荷の高いトレーニングを再開しましょう。

キープ(レベル維持)：現在のフィットネスレベルを維持するのに適したトレーニング負荷です。今よりもワークアウトのバリエーションやトレーニングのボリュームを増やすことで、フィットネスレベルの向上が期待できます。

プロダクティブ(レベルアップ)：フィットネスレベルとパフォーマンスが良い方向に推移しています。フィットネスレベルを維持するためにトレーニングに休息期間を取り入れることも重要です。

ピーキング(ベストコンディション)：これまでのトレーニングでの疲労も上手く回復ができた、理想的なレースコンディションです。このコンディションは長く続かないため、その際はトレーニングプランを改めて計画し、実行しましょう。

オーバーリーチ(オーバーワーク)：トレーニング負荷が高すぎるため、フィットネスレベルの向上には逆効果です。十分な休息が必要です。適度に軽い運動を行いながら、時間をかけて身体を休めてください。

アンプロダクティブ(ヘルスコンディション低下)：トレーニング負荷は適切なレベルですが、フィットネスレベルが低下しています。休息や栄養状態、ストレスなどの健康面に低下の要因があるかもしれません。

疲れている：リカバリーとトレーニング負荷のバランスが悪い状態です。ハードなトレーニングを行った後や、レースの後に通常起こり得る状態です。身体の回復を助けるため、全体的な健康状態に注意してください。

トレーニングステータスを表示するには

トレーニングステータスは、1 週間に最低 1 回の VO2 Max の測定値を含むユーザーのフィットネスレベルのデータを基に評価されます。最大心拍数の 70% 以上の心拍数を数分間維持する強度でパワーを計測して屋内または屋外バイクアクティビティを行うと、VO2 Max の測定値が更新されます。

- トレーニングステータスを表示するには、週に 1 回以上の頻度で、心拍計とパワー計を使用して、最大心拍数の 70% 以上の心拍数を 10 分間以上維持する強度のトレーニングを行います。
デバイスを 1 週間使用すると、トレーニングステータスが表示されます。
- デバイスにユーザーのパフォーマンスを学習させるため、優先トレーニングデバイスにすべてのフィットネスアクティビティを記録してください。(21 ページ [アクティビティとパフォーマンス測定結果を同期する](#))

VO2 Max(最大酸素摂取量)

VO2 Max(最大酸素摂取量)とは、人が体内に取り込むことのできる酸素の一分間あたりの最大量です。単位は、ml/kg/ 分で、一分間で体重 1 キログラムあたり何ミリリットルの酸素を摂取できるかを表します。つまり VO2 Max は運動能力の指標であり、自身のフィットネスレベルを向上させるために増やす必要があります。VO2 Max 測定機能は、Firstbeat により提供・サポートされています。VO2 Max の測定には、対応するハートレートセンサー(心拍計)とパワー計(別売)をデバイスにペアリングして接続する必要があります。

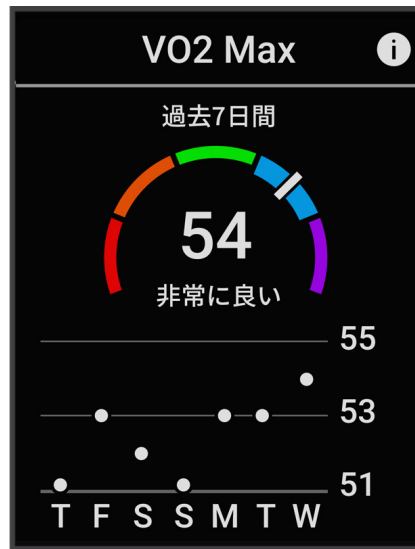
VO2 Max を測定する

VO2 Max の測定には、対応するハートレートセンサー(心拍計)とパワー計(別売)をデバイスにペアリングして接続する必要があります(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))。測定精度向上のため、ユーザープロフィール(52 ページ [ユーザープロフィール](#))と心拍ゾーン(42 ページ [心拍ゾーンを設定する](#))を正しく設定してください。

注意：初めのうちは測定値が不正確な場合があります。トレーニングを複数回行うことで、デバイスがユーザーのパフォーマンスを学習し、測定精度が向上します。

- 1 屋外でライドを開始し、一定のペースで高強度のトレーニングを 20 分間以上行います。
- 2 トレーニングを終了し、アクティビティのデータを保存します。
- 3 ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[トレーニングステータス]** の順に選択します。
- 4  を押して VO2 Max を確認します。

VO2 Max は、数値とレベル別に分類されたカラーゲージで表示されます。



カラーゲージ	レベル
パープル	優れている
ブルー	非常に良い
グリーン	良い
オレンジ	普通
レッド	悪い または 非常に悪い

本データは、The Cooper Institute® の許可のもと提供されています。詳しくは、[77 ページ VO2 Max レベル分類表](#) および www.CooperInstitute.org をご覧ください。

サイクリング VO2 Max 測定に関するヒント

より正確な VO2 Max 測定のため、次のことをご確認ください。

- デバイスおよびペアリング済みの心拍計とパワー計が正常に動作することを確認し、バッテリー残量が十分な状態でトレーニングを行ってください。
- 心拍数やパワー出力の変動が激しいトレーニングでは、正確な値が測定できないことがあります。一定のペースを維持してください。
- 20 分間のトレーニングの間、最大心拍数の 70% よりも高い心拍数を維持してください。
- 20 分間のトレーニングの間、一定のパワー出力を維持してください。
- 起伏の多い地形の走行は避けてください。
- ドラフティング走行を多用するグループ走行は避けてください。

パフォーマンスの高度適応と暑熱適応

高地で測定された VO2 Max は低地で測定された値より低くなるといったように、標高または気温などの環境要因はユーザーのパフォーマンスに影響を及ぼします。デバイスは、標高や気温の影響を考慮して VO2 Max の測定値とトレーニングステータスの測定結果を補正します。標高が 800m を超える環境にいる場合と、気温が 22°C より高い環境下でトレーニングした場合に、高度適応・暑熱適応が適用されデバイスに通知されます。

注意：暑熱適応は、接続済みスマートフォンで取得した気象データに基づいて、気温が 22°C より高い環境で GPS がオンのアクティビティを実行したときに適用されます。

短期的負荷

短期的負荷は、過去数日間の EPOC (運動後過剰酸素消費量) の加重合計値で表されます。ゲージは、現在の負荷の高さと、最適な負荷の範囲を示します。最適な負荷の範囲は、ユーザーのフィットネスレベルとトレーニング履歴に基づきます。トレーニングの時間や強度が変わると、最適な負荷の範囲も変動します。

短期的負荷を確認する

トレーニング負荷の測定には、対応するハートレートセンサー (心拍計) とパワー計 (別売) をデバイスにペアリングして接続する必要があります ([44 ページ ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))。測定精度向上のため、ユーザープロフィール ([52 ページ ユーザープロフィール](#)) と心拍ゾーン ([42 ページ 心拍ゾーンを設定する](#)) を正しく設定してください。

注意：初めのうちは測定値が不正確な場合があります。トレーニングを複数回行うことで、デバイスがユーザーのパフォーマンスを学習し、測定精度が向上します。

- 1 7 日間に 1 回以上の頻度でトレーニングを行います。
- 2 ホーム画面から **≡** > **[マイデータ]** > **[トレーニングステータス]** の順に選択します。
- 3 **✓** を押して短期的負荷を確認します。



カラーゲージ	トレーニング負荷
ブルー	低い
グリーン	最適
レッド	高い

トレーニング負荷の最適の範囲は、ユーザーのフィットネスレベルとトレーニング履歴を基に算出され、トレーニングの時間や強度の増減にともない変動します。

負荷バランス

トレーニングの効果とパフォーマンスを向上させるためには、低強度と高強度の有酸素運動と、無酸素運動をバランスよく行う必要があります。トレーニング負荷バランスは、トレーニングを低強度有酸素、高強度有酸素、無酸素の3つのカテゴリーに分類して、各カテゴリーの過去4週間分のトレーニング量と目標を示します。トレーニング負荷バランスを測定するには、まずあなたのトレーニング負荷が低いか、最適か、高いかを判断するために最低7日間のトレーニングを行う必要があります。さらに4週間トレーニングを続けることで、トレーニング負荷の推定精度が向上し、バランスよくトレーニングを行うための指標として役立ちます。

目標未達成：あなたのトレーニング負荷は、すべてのカテゴリーで目標を下回っています。トレーニングの時間を増やしたり、頻度を上げてください。

低強度有酸素 不足：低強度の有酸素運動を増やして、激しい運動とのバランスをとってください。

高強度有酸素 不足：乳酸閾値と VO2 Max の向上のため、徐々に高強度の有酸素運動を増やしてください。

無酸素不足：スピードと無酸素性キャパシティの向上のため、もう少し高強度の無酸素運動を徐々に増やしてください。

バランス：あなたのトレーニング負荷はバランスのとれた良い状態で、トレーニングを続けることでフィットネス全体に良い効果が得られます。

低強度有酸素：あなたのトレーニング負荷は主に低強度の有酸素運動です。これらのトレーニングは、より強度の高い運動を実行するための強固な基盤となります。

高強度有酸素：あなたのトレーニング負荷は主に高強度の有酸素運動です。これらのトレーニングは、乳酸閾値や VO2 Max、持久力の向上に役立ちます。

無酸素：あなたのトレーニング負荷は主に激しい無酸素運動です。トレーニングの効果を急速に得られますが、低強度の有酸素運動もバランスよく実行する必要があります。

目標超過：あなたのトレーニング負荷は、最適な範囲を超過しています。トレーニングの時間を減らしたり頻度を下げることを検討してください。

サイクリング能力を確認する

サイクリング能力の測定には、7日間分のトレーニング履歴と V02 Max(14 ページ V02 Max(最大酸素摂取量))、パワー計(別売)で取得したパワーカーブデータ(20 ページ パワーカーブ)が必要です。

サイクリング能力は、有酸素持久力、有酸素能力、および無酸素能力の3つのカテゴリーにわたるパフォーマンスの測定値です。走行中のデータやユーザープロフィールに登録された情報に基づいて走行タイプなどが判定され、ユーザーの能力理解に役立ちます。(52 ページ ユーザープロフィール)

- 1 ホーム画面で  を押してサイクリング能力の概要情報を表示します。

注意：ホーム画面に概要情報を追加することができます。(2 ページ ホーム画面の概要情報を確認する)

- 2 概要情報を選択してサイクリング能力を確認します。



- 3 [分析を表示]を選択すると、サイクリング能力の詳細を確認できます。

トレーニング効果

トレーニング効果(TE)とは、ユーザーの有酸素運動能力と無酸素運動能力にトレーニングがもたらす効果を数値で示すものです。トレーニング効果は、ユーザープロフィールと心拍数、アクティビティの継続時間や強度、アクティビティタイプ、運動中に蓄積した EPOC 値を基に算出されます。数値はアクティビティ中にトレーニングページに表示可能なため、現在のトレーニングがどの程度自身のフィットネスに効果をもたらしているかをすぐに確認することができます。

トレーニング効果の測定には、心拍計で心拍データを取得してアクティビティを行う必要があります。

有酸素トレーニング効果(有酸素 TE)は、アクティビティ中の心拍データから、トレーニングがもたらす有酸素運動への影響を計測し、フィットネスレベルの維持や向上に対する効果を示します。中強度の一定したペースで行う運動や、180 秒以上継続して運動するインターバルを含むワークアウトは、有酸素性エネルギー代謝を促し、有酸素運動能力に高い向上効果をもたらします。

無酸素トレーニング効果(無酸素 TE)は、アクティビティ中の心拍データとスピード(またはパワー)から、トレーニングがもたらすきわめて高い強度の運動に対するユーザーの能力やパフォーマンスへの効果を示します。10 秒から 120 秒までの短いインターバルを高強度で繰り返し行うワークアウトは、無酸素性キャパシティの向上にかなり高い効果をもたらします。

トレーニング効果の数値は、初めの数回はかなり高く表示されることがありますが、アクティビティを繰り返すにつれユーザーのフィットネスに適応した数値になっていきます。

トレーニング効果を確認する

トレーニング効果は、次のいずれかの方法で確認します。

- トレーニングページのデータ項目に設定し、アクティビティ実行中に確認する
- 履歴から確認する

TE 値	有酸素向上効果	無酸素向上効果
0.0 ～ 0.9	効果なし	効果なし
1.0 ～ 1.9	効果 小	効果 小
2.0 ～ 2.9	有酸素フィットネスの維持	無酸素フィットネスの維持

TE 値	有酸素向上効果	無酸素向上効果
3.0 ～ 3.9	有酸素フィットネスの向上	無酸素フィットネスの向上
4.0 ～ 4.9	有酸素フィットネスの更なる向上	無酸素フィットネスの更なる向上
5.0	過度なトレーニング 十分な休息なしではリスクあり	過度なトレーニング 十分な休息なしではリスクあり

リカバリータイム

リカバリータイムとは、トレーニング後の身体が十分に回復して、次のトレーニングを行うのに最適な状態になるまでの時間をカウントダウンして表示する機能です。リカバリータイムが計測されると、アクティビティデータ保存後に自動で表示されます。リカバリータイムを測定するには、あらかじめ V02 Max を測定し、対応するハートレートセンサー（心拍計）をデバイスにペアリングして接続する必要があります（[44 ページ](#) [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#)）。測定精度向上のため、ユーザープロフィール（[52 ページ](#) [ユーザープロフィール](#)）と心拍ゾーン（[42 ページ](#) [心拍ゾーンを設定する](#)）を正しく設定してください。

注意：初めのうちは測定値が不正確な場合があります。トレーニングを複数回行うことで、デバイスがユーザーのパフォーマンスを学習し、測定精度が向上します。

リカバリータイムを確認する

- 1 ホーム画面から > **[マイデータ]** > **[リカバリー]** > > **[有効]** の順に選択します。
- 2 トレーニングを開始します。
- 3 トレーニング終了後、アクティビティデータを保存します。

リカバリータイムが表示されます。

リカバリータイムは最低 6 時間～最大 96 時間で表示されます。

リカバリータイムは睡眠やストレス、リラックスの状態、身体活動の変化に伴い常時アップデートされます。

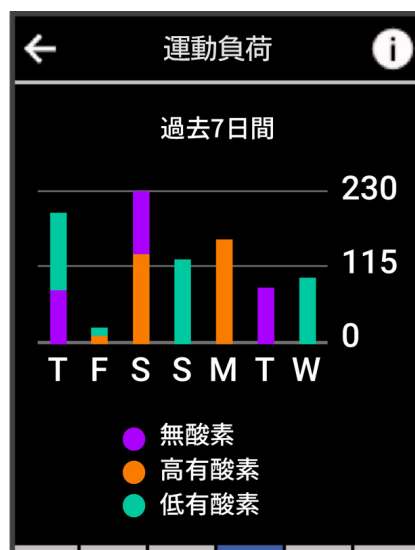
運動負荷を確認する

運動負荷を確認するには、対応するハートレートセンサー（心拍計）とパワー計（別売）をデバイスにペアリングして接続する必要があります。（[44 ページ](#) [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#)）

デバイスに同梱されているハートレートセンサー（心拍計）は、出荷時にデバイスにペアリング済みです。測定精度向上のため、ユーザープロフィール（[52 ページ](#) [ユーザープロフィール](#)）と最大心拍数（[42 ページ](#) [心拍ゾーンを設定する](#)）を正しく設定してください。

注意：初めのうちは測定値が不正確な場合があります。トレーニングを複数回行うことで、デバイスがユーザーのパフォーマンスを学習し、測定精度が向上します。

- 1 7 日間に 1 回以上の頻度でトレーニングを行います。
- 2 ホーム画面から > **[マイデータ]** > **[トレーニングステータス]** の順に選択します。
- 3 を押して運動負荷を確認します。



FTP(機能的作業閾値パワー)

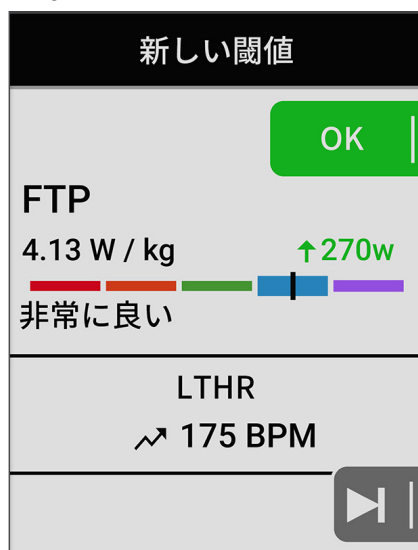
FTP とは Function Threshold Power(機能的作業閾値パワー)の略で、自身が1時間出し続けられるパワーの最高値を指します。定期的に FTP 値を測定することで、パワートレーニングの指標にすることができます。

ユーザープロフィールの情報を基に FTP の推定値を表示します。心拍数とパワーを計測しながら一定の高い強度のアクティビティを実行して、FTP を自動検出することもできます。

FTPを確認する

- 1 ホーム画面から **≡** > **[マイデータ]** > **[パワー]** の順に選択します。

FTP は、パワー出力の測定値(単位は W/kg)とカラーゲージで表示されます。



カラーゲージ	レベル
パープル	優れている
ブルー	非常に良い
グリーン	良い
オレンジ	普通
レッド	一般(未訓練)

FTP レベルについて詳しくは [78 ページ FTP レベル分類表](#) をご参照ください。

FTP 自動計算を有効にする

FTP を測定するには、対応するハートレートセンサー(心拍計)とパワー計(別売)をデバイスにペアリングして接続する必要があります。(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))

注意：初めのうちは測定値が不正確な場合があります。トレーニングを複数回行うことで、デバイスがユーザーのパフォーマンスを学習し、測定精度が向上します。

- 1 ホーム画面から **≡** > **[マイデータ]** > **[パワー]** の順に選択します。
- 2 FTP ページで **⋮** > **[FTP 自動検出]** の順に選択します。
- 3 屋外でライドを開始し、一定のペースで高強度のトレーニングを 20 分間以上行います。
- 4 トレーニングを終了し、アクティビティのデータを保存します。
- 5 ホーム画面から **≡** > **[マイデータ]** > **[パワー]** の順に選択します。

FTP が表示されます。

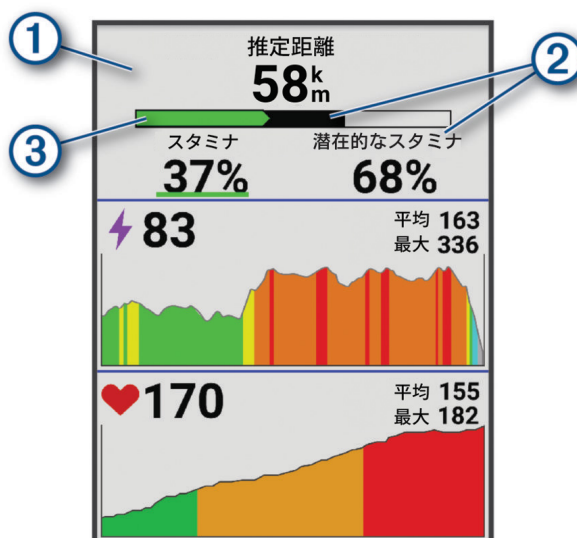
リアルタイムスタミナを確認する

VO2 Max と心拍データをもとに、リアルタイムのスタミナの推定値を表示します。アクティビティ中のデータ項目でスタミナの残量を確認できます。

注意：パワー計を使用して計測した運動強度の異なるトレーニングデータを 2 ～ 3 週間分蓄積することで、スタミナの推定精度が向上します。

- 1 ホーム画面から **≡** > **[ライドプロフィール]** の順に選択します。
- 2 ライドプロフィールを選択します。

- 3 [トレーニングページ]>[スタミナ]の順に選択します。
- 4 [トレーニングページ表示]を選択して、アクティビティ中のリアルタイムスタミナ表示をオン/オフします。
- 5 [現在のエフォートを表示]を選択します。
- 6 [距離を表示]または[時間を表示]を選択します。
- 7 [分割数とデータ項目]を選択します。
- 8 **^**または**^**でトレーニングページのレイアウトを変更し、**✓**を選択して決定します。
- 9 ライドを開始します。(4 ページ ライドを開始する)
- 10 トレーニングページを**^**または**^**でスクロールしてスタミナページを表示します。



①	プライマリスタミナ 現在の運動量でのスタミナの残量を距離 / 時間で表示
②	潜在的なスタミナ 潜在的なスタミナを燃料タンクに例えると、タンクの総容量にあたります。潜在的なスタミナは、高い運動量で走行すると急激に減少します。運動量を減らしたり休息することで潜在的なスタミナの減少が緩やかになります。
③	現在のスタミナ 現在のスタミナを燃料タンクに例えると、タンクに残っている燃料にあたります。一般的な疲労とスプリントやクライム、アタックといった無酸素性の運動を統合した値です。 ■ レッド：スタミナが消耗しています。 ■ オレンジ：スタミナが安定しています。 ■ グリーン：スタミナが回復しています。

ストレススコア

自身のストレススコアを測定します。

心拍計を装着して、3 分間リラックスした状態で心拍変動を測定し、体にどれくらいのストレス(負荷)がかかっているかを数値化します。ストレススコアは、1～100 で表示され、数値が低いほど負荷が少ないことを示します。ストレススコアを測定するには、ペアリング済みの心拍計を装着する必要があります。(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))

ヒント：ストレススコアは毎日決まった時間、同じコンディションでの測定を推奨します。

- 1 ホーム画面から **≡**>[マイデータ]>[ストレススコア]>**目**の順に選択します。
 - 2 3 分間リラックスして静止してください。
- 計測が終了すると、ストレススコアが表示されます。

パワーカーブ

各時間ブロックの平均パワー値をグラフとワット数の一覧で表示します。

パワーカーブを確認するには、あらかじめ別売のパワー計をペアリングしてトレーニングを行う必要があります。(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))

- 1 ホーム画面から **≡**>[マイデータ]>[パワー]の順に選択します。

2  を押してパワーカーブページを表示します。

3  を選択します。

4 表示期間を選択します。

アクティビティとパフォーマンス測定結果を同期する

他の Garmin デバイスで記録したアクティビティやパフォーマンス測定結果を Garmin Connect アカウント経由でデバイスに同期することができます。これにより、より正確なトレーニングステータスとフィットネスがデバイスに反映されます。例えば、Forerunner デバイスのランの履歴を同期して、Edge デバイスでアクティビティの詳細と総合的な負荷を確認することができます。

Edge デバイスを他の Garmin デバイスを Garmin Connect アカウントに同期します。

ヒント：Garmin Connect アプリで優先トレーニングデバイスと優先ウェアラブルを設定できます。(4 ページ [統合トレーニングステータス](#))

他のデバイスで記録した最近のアクティビティとパフォーマンス測定結果が Edge デバイスに反映されます。

パフォーマンス通知の有効 / 無効を設定する

パフォーマンス通知とは、新しいパフォーマンス測定値 (VO2 Max の新記録など) が検出された場合に、画面に通知する機能です。初期設定では、すべてのパフォーマンス通知が有効に設定されています。

1 ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[パフォーマンス通知]** の順に選択します。

2 オプションを選択して有効 / 無効を切り替えます。

トレーニングステータスを一時停止する

けがや病気をしているときなどには、トレーニングステータス機能を一時停止することができます。一時停止すると、トレーニングステータスとトレーニング負荷、リカバリーアドバイザー、おすすめワークアウトの機能が無効になります。

1 次のいずれかのオプションを選択します。

- ・ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[トレーニングステータス]** >  > **[トレーニングステータス停止]** の順に選択します。
- ・Garmin Connect の設定から **[パフォーマンス統計]** > **[トレーニングステータス]** >  > **[トレーニングステータス停止]** の順に選択します。

2 Garmin Connect アカウントとデバイスを同期し、デバイスに設定を反映させます。

トレーニングステータスを再開する

1 次のいずれかのオプションを選択します。

- ・ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[トレーニングステータス]** >  > **[トレーニングステータス再開]** の順に選択します。
- ・Garmin Connect の設定から **[パフォーマンス統計]** > **[トレーニングステータス]** >  > **[トレーニングステータス再開]** の順に選択します。

2 Garmin Connect アカウントとデバイスを同期し、デバイスに設定を反映させます。

フィットネス年齢

フィットネス年齢の測定精度向上のため、Garmin Connect アプリのユーザープロフィールを正しく設定してください。

フィットネス年齢で、実年齢に対する自分のフィットネスレベルを同性のユーザーと比較することができます。フィットネス年齢は、ユーザープロフィールの年齢やボディマス指数 (BMI)、安静時心拍数のデータ、高強度運動の履歴をもとに推定されます。Garmin Index 体重計 (別売) をお持ちの場合は、フィットネス年齢の推定に BMI の代わりに体脂肪率が使用されます。運動習慣やライフスタイルの変化がフィットネス年齢に影響します。

ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[フィットネス年齢]** の順に選択します。

フィットネス年齢が表示されます。

週間運動量

週間運動量を計測するには、対応するハートレートセンサー (心拍計) をデバイスにペアリングして接続する必要があります。(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))

世界保健機関などによると、一週間に 150 分以上のウォーキングなどの中強度の運動 (ランニングなどの高強度の運動であれば、一週間に 75 分以上) を行うことが健康増進に効果的とされています。Edge デバイスに対応するハートレートセンサー (心拍計) をペアリングして接続すると、運動強度をモニタリングして、中強度以上の運動量を記

録します。週の合計運動量と目標までの残り運動量を確認できます。

ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[週間運動量]** の順に選択します。

週間運動量が表示されます。

自己ベスト

アクティビティ中に自己ベストを更新すると、アクティビティデータを保存した際に自己ベストページが表示されます。自己ベストの記録は、履歴データとは別にデバイスに記録されます。

一つのアクティビティデータから、複数の自己ベストが記録される場合もあります。自己ベストの新記録が検出されると、自動で上位 2 件までの記録が保存されます。

自己ベストを確認する

- 1 ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[自己ベスト]** の順に選択します。

自己ベスト一覧が表示されます。

自己ベストを前回の記録に変更する

- 1 ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[自己ベスト]** の順に選択します。

- 2 前回の記録に戻す自己ベストを選択します。

- 3 **[前回の記録]** >  の順に選択します。

ヒント：自己ベストを変更しても、自己ベストを記録したアクティビティデータ自体が変更されたり、削除されることはありません。

自己ベストを削除する

- 1 ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[自己ベスト]** の順に選択します。

- 2 削除する自己ベストを選択します。

- 3  >  の順に選択します。

ヒント：自己ベストを削除しても、自己ベストを記録したアクティビティデータ自体が削除されることはありません。

トレーニングゾーン

- 42 ページ [心拍ゾーンを設定する](#)
- 45 ページ [パワーゾーンを設定する](#)

ナビゲーション

ナビゲーションの機能と設定は、コース(26 ページ コース)とセグメント(8 ページ セグメント)にも適用されます。

ポイント

デバイスにポイントを登録して保存することができます。

現在地をポイント登録する

ポイントを登録するには、あらかじめ GPS を受信する必要があります。

目印や後で戻りたい地点などをポイントとして登録すると便利です。

- 1 ライドを開始します。
- 2 ホーム画面から【ナビゲーション】> ⋮ > 【ポイント登録】> ✓ の順に選択します。

地図上の地点をポイント登録する

- 1 ホーム画面から【ナビゲーション】> 【地図表示】の順に選択します。
- 2 〽️ または 〽️ で地図をスクロールして地点を表示します。
ヒント：⋯を押して地図の操作を切り替えられます。
- 3 ⋯を長押ししてオプションを表示します。
- 4 任意の地点を選択します。
- 5 【ポイント登録】> ✓ の順に選択します。

ポイントを編集する

- 1 ホーム画面から【ナビゲーション】> 【保存済みポイント】の順に選択します。
- 2 ポイント一覧から、編集するポイントを選択します。
- 3 【詳細】を選択します。
- 4 【編集】を選択します。
- 5 オプションを選択して編集します。
- 6 編集が完了したら、✓を選択して終了します。

ポイントを削除する

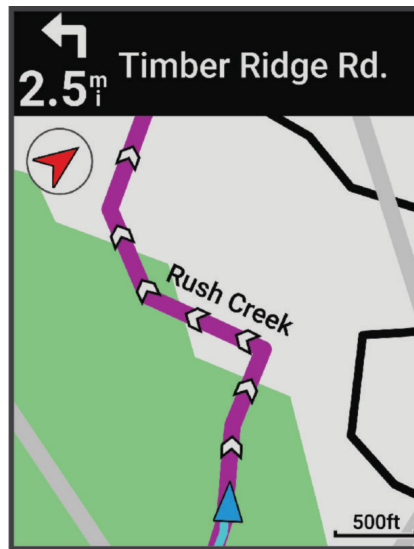
- 1 ホーム画面から【ナビゲーション】> 【保存済みポイント】の順に選択します。
- 2 ポイント一覧から、削除するポイントを選択します。
- 3 【ポイント削除】> ✓ の順に選択します。

ナビゲーション

ナビゲーションを開始する

- 1 ホーム画面から【ナビゲーション】を選択します。
- 2 次のいずれかのオプションから、目的地を選択します。
 - ・【地図表示】 地図上で目的地を選択します。
ヒント：【地図表示】のオプションを選択した場合は、23 ページ 地図上の地点をポイント登録するの手順 2～4 を行い、任意の地点を選択します。
 - ・【コース】 保存済みコースを使用してナビゲーションを開始します。(26 ページ コース)
 - ・【MTB トレイルナビゲーション】 条件を設定してコースを検索し、ナビゲーションを開始します。
 - ・【検索】 カテゴリーから目的地を検索します。
 - ・【保存済みポイント】 保存済みポイントから目的地を選択します。
 - ・【検索履歴】 検索履歴から目的地を選択します。
 - ・ ⋮ > 【周辺の検索】 検索カテゴリーを絞り込みます。

- 3 【ライド】を選択します。
地図ページにナビゲーション情報が表示されます。



現在のアクティビティのスタート地点へナビゲーションする(トラックバック)

アクティビティのスタート地点に戻るナビゲーションを開始します。

- 1 ライドを開始します。
- 2 ...を押します。
- 3 **[スタート地点]**を選択します。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ **[走行ルート]** アクティビティの軌跡に沿って開始地点に戻ります。
 - ・ **[最短ルート]** 最短のルートを探索して開始地点に戻ります。
- 5 **[ライド]**を選択してトラックバックのナビゲーションを開始します。

共有された地点へのナビゲーションを開始する

Apple のマップアプリからデバイスに共有された地点へのナビゲーションを開始します。(25 ページ [Garmin Connect アプリでマップ上の地点を共有する](#))

- 1 ホーム画面の共有された地点の情報 ① を選択します。



地図ページ上に共有された地点の名称と座標が表示されます。

ヒント：共有された地点は、デバイスの**[ナビゲーション]**>**[検索履歴]**に保存されます。

- 2 **[ライド]**を選択します。



ナビゲーションが開始します。

- 3 必要な場合は、▶を押してアクティビティのタイマーを開始します。
- 4 画面に表示される案内に従って目的地に進みます。

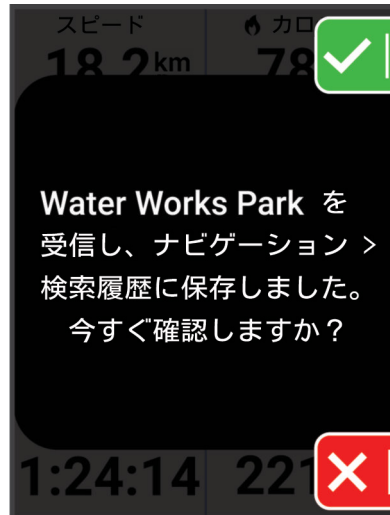
ライド中に共有された地点へのナビゲーションを開始する

この機能はGPSを利用した屋外ライドプロフィール向けの機能です。GPSがオフのライドを実行中に共有された地点は、後から確認できます。

ヒント：共有された地点は、デバイスの【検索履歴】に保存されます。

デバイスに共有された地点へのナビゲーションを開始することができます。(25 ページ [Garmin Connect アプリでマップ上の地点を共有する](#))

- 1 GPSを利用した屋外ライドを開始します。(4 ページ [ライドを開始する](#))
地点が共有されると、共有された地点名を示す通知がデバイスに表示されます。



- 2 ✓を選択すると、デバイスの地図ページ上に地点が表示されます。
- 3 【ライド】を選択します。
- 4 画面に表示される案内に従って目的地に進みます。

ナビゲーションを中止する

- 1 ナビゲーション実行中に、...を押します。
- 2 【ナビゲーション中止】> ✓の順に選択します。

Garmin Connect アプリでマップ上の地点を共有する

注意

位置情報を他のユーザーに共有する際は、ご自身の判断と責任で行ってください。位置情報の共有相手をよく確認

してください。

注意：この機能を利用するには、コース機能に対応する Garmin デバイスと iPhone® デバイスを Bluetooth 接続する必要があります。

Apple® のマップアプリから対応する Garmin デバイスに位置情報およびデータを共有することができます。

- 1 Apple のマップアプリで任意の地点を選択します。
- 2  >  の順に選択します。
- 3 必要な場合は、Garmin Connect アプリで共有先の Garmin デバイスを選択します。
Garmin デバイスに地点が共有されると、Garmin Connect アプリにメッセージが表示されます。(24 ページ [共有された地点へのナビゲーションを開始する](#))

危険箇所を報告する

⚠ 警告

この機能でライド中に発見した危険箇所を報告することができます。Garmin は、ユーザーが報告した情報の正確性、完全性、または適時性について、いかなる表明も行いません。ライド中は、周囲の状況に注意し、掲示されている案内に従ってください。これらを怠った場合、物的損害や重傷につながるおそれがあります。

ライド中に発見した穴や倒木などの危険箇所を報告することができます。また、報告されている危険箇所が存在しない場合にも報告することができます。一定期間報告がない危険箇所は削除されます。

注意：危険箇所を報告するには、Garmin Connect アプリでデバイスをスマートフォンなどのモバイル端末とペアリングする必要があります。

- 1 ライドを開始します。(4 ページ [ライドを開始する](#))
- 2 ...を押します。
- 3 **【危険箇所を報告】**を選択します。
- 4 危険箇所のタイプを選択します。
ナビゲーションの地図上に危険箇所が表示され、接近したときにアラート音でお知らせします。(54 ページ [アラートとプロンプトの設定](#))

コース

⚠ 警告

この機能により、ユーザーは他のユーザーが作成したルートをダウンロードすることができます。Garmin は、第三者が作成したルートの安全性、正確性、信頼性、完全性、または適時性について、いかなる表明も行いません。第三者が作成したルートを使用したり、情報源として信頼する際は、ユーザーの自己責任で行ってください。

Garmin Connect アカウントで作成したコースをデバイスに送信できます。デバイスに保存されたコースを使用してナビゲーションを開始できます。

通勤などの決まったルートをコースとして作成したり、コース走破のタイムと競いながらトレーニングすることができます。

アクティビティデータからコースを作成する

保存済みアクティビティからコースを作成します。

- 1 ホーム画面から**【履歴】**>**【アクティビティ履歴】**の順に選択します。
- 2 アクティビティ履歴一覧からアクティビティを選択します。
- 3 **⋮**>**【コースとして保存】**の順に選択します。
- 4 コース名を入力し、**✓**を選択します。

コースをデバイスに転送する

デバイスにコースデータをダウンロードするには、Garmin Connect アカウントが必要です。(50 ページ [Garmin Connect](#))

Garmin Connect アプリからコースをデバイスにダウンロードする

- 1 Garmin Connect アプリを開きます。
- 2 保存済みコースを選択するか、コースを新規作成します。
- 3 **⋮**>**【デバイスへの送信】**の順に選択します。

4 画面の指示に従い操作を完了します。

次回デバイスと同期したときに、コースデータがデバイスにダウンロードされます。

Garmin Connect からコースをデバイスにダウンロードする

- 1 PC にデバイスを接続します。
- 2 [connect.Garmin.com](https://connect.garmin.com) にアクセスし、サインインします。
- 3 保存済みコースを選択するか、コースを新規作成します。
- 4 **【デバイスへの送信】**を選択し、画面の指示に従い操作します。

コースの詳細を確認する

- 1 ホーム画面から**【ナビゲーション】**>**【コース】**の順に選択します。
- 2 詳細を確認するコースを選択します。
- 3 次のオプションを選択します。
 - ・コースを選択して地図上で確認します。
 - ・クライムグラフを選択して各クライム区間の高度グラフを確認します。
 - ・**【概要】** コースデータ概要を確認します。
 - ・**【コースのニーズ】** コースのサイクリング能力の分析を確認します。
 - ・**【パワーガイド】** コースのパワーガイドを確認します。

コースを地図上に表示する

デバイスに保存したコースは、コースごとに地図の表示設定をカスタマイズできます。例えば、使用頻度の高い通勤のコースを常に表示させておいたり、ナビゲーション中のコースとは別のコースを表示させることができます。

- 1 ホーム画面から**【ナビゲーション】**>**【コース】**の順に選択します。
- 2 コースを選択します。
- 3 **⋮**を選択します。
- 4 **【常に表示】**を選択してコースを地図に表示します。
- 5 **【カラー】**を選択して表示カラーを選択します。
- 6 **【コースポイント】**を選択してコースポイントを地図に表示します。

コースオプション

- 1 ホーム画面から**【ナビゲーション】**>**【コース】**>**⋮**の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・**【コースナビゲーション】** コースナビゲーションの転換点案内の有効 / 無効を設定します。
 - ・**【コース逸脱警告】** コースから外れた際のアラートの有効 / 無効を設定します。
 - ・**【検索】** コースを名前で検索します。
 - ・**【並べ替え】** コースを並べ替えます。
 - ・**【削除】** 選択した複数のコースを削除します。

コースから外れたときにルートを再計算する

コースナビゲーション中にコースから外れたときに、コースナビゲーションを一時停止するか、元のコースに戻るルートを再計算します。

- 1 コースナビゲーション中にコースから外れると、次のオプションが表示されます。
 - ・**【ナビゲーション停止】** 実行中のコースナビゲーションを一時停止します。
 - ・**【ルート再設定】** 元のコースに戻るルートを計算します。元のコースの位置と現在地を基に、合流、近道、スキップのルートが提示されます。

注意：初めてコースから外れたときは、元のコースに戻る最短のルートが提示され、10 秒後に自動でナビゲーションが開始します。

コースナビゲーションを中止する

- 1 コースナビゲーション実行中に、地図ページを表示します。
- 2 **⋯**を押します。
- 3 **【コース中止】**>**✓**の順に選択します。

コースを削除する

- 1 ホーム画面から**【ナビゲーション】**>**【コース】**の順に選択します。

- 2 **⋮** > **【削除】**の順に選択します。
- 3 削除するコースにチェックマークを入れて、**✓**を選択します。
- 4 **✓**を選択します。

Trailforks

Trailforks アプリでお気に入りのルートや近くのルートを検索してデバイスにダウンロードできます。ダウンロードしたルートは、保存済みコース一覧に表示されます。

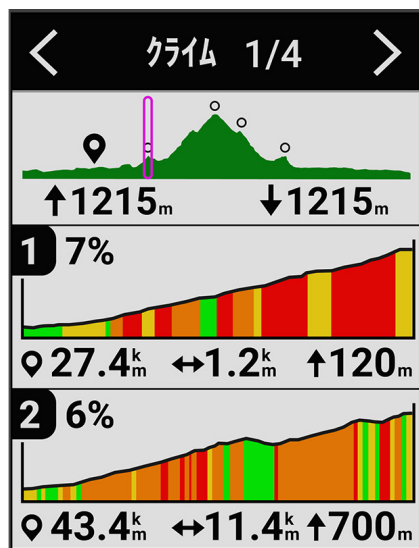
Trailforks メンバーシップへのサインアップと、Trailforks のデータに関するお問い合わせは、www.trailforks.com にアクセスしてください。

Trailforks アプリを利用するには、あらかじめデバイスとスマートフォンなどのモバイル端末をペアリングする必要があります。

ClimbPro を使用する

ClimbPro 機能でコースの先にあるクライム区間を把握することで、運動量の管理に役立ちます。コース上のクライム区間を自動検出し、上昇開始地点から終了地点までの残り距離、残り上昇量、平均勾配とグラフを表示します。クライムスコアは、距離と勾配に基づいて色分けされます。(29 ページ [クライムカテゴリー](#))

- 1 ライドプロフィール設定で ClimbPro をオンに設定します。(53 ページ [ライドプロフィールの各種設定を行う](#))
- 2 **【クライム検知】**を選択します。
- 3 検出するクライムのクライムカテゴリーを選択します。
- 4 **【モード】**を選択します。
- 5 次のオプションを選択します。
 - ・ **【ナビゲーション中】** ClimbPro 機能をコースナビゲーション実行中(26 ページ [コース](#))または目的地へのナビゲーション実行中(23 ページ [ナビゲーションを開始する](#))のみ使用します。
 - ・ **【常時】** ClimbPro 機能をライド中に常に使用します。
- 6 **【地形タイプ】**を選択してオプションを選択します。
- 7 Climb Explore ウィジェットでクライム区間を確認します。
ヒント：クライム区間はコース詳細からも確認できます。(27 ページ [コースの詳細を確認する](#))
- 8 各クライム区間の開始地点に到達すると、ClimbPro ページが表示されます。



ライドを保存すると、履歴からクライム区間のスプリットを確認できます。

Climb Explore ウィジェットを使用する

- 1 Climb Explore ウィジェットを表示します。
ヒント：必要な場合は、Climb Explore ウィジェットをウィジェット一覧に追加します。(58 ページ [ウィジェットを管理する](#))
- 2 **⋮** を選択します。
- 3 次のオプションを選択します。

- ・【**検索範囲**】 クライムの検索範囲の半径の距離を入力します。
- ・【**最低難度**】 クライムカテゴリーの最低難度を設定します。(29 ページ [クライムカテゴリー](#))
- ・【**最高難度**】 クライムカテゴリーの最高難度を設定します。(29 ページ [クライムカテゴリー](#))
- ・【**地形タイプ**】 クライムの地形タイプを選択します。
- ・【**並べ替え基準**】 クライムを距離、上昇量、全長、勾配でソートします。
- ・【**並べ替え順序**】 クライムを昇順または降順でソートします。

クライムカテゴリー

クライムカテゴリーは、勾配かける長さで求められるクライムスコアに基づいて設定されます。距離が 500m 以上かつ平均勾配が 3% 以上の区間がクライムとして分類されます。

カテゴリー	クライムスコア	カラー
カテゴリー超級 (HC)	80,000 以上	
カテゴリー 1	64,000 以上	
カテゴリー 2	32,000 以上	
カテゴリー 3	16,000 以上	
カテゴリー 4	8,000 以上	
カテゴリーなし	1,500 以上	

地図設定

地図表示に関する設定を行います。

- 1 ホーム画面から  > 【**ライドプロフィール**】の順に選択します。
- 2 設定を変更するライドプロフィールを選択します。
- 3 【**ナビゲーション**】>【**地図**】の順に選択します。
- 4 次のオプションを選択します。
 - ・【**表示方向**】:
 - 【**ノースアップ**】 常に北を地図画面の上方に表示します。
 - 【**トラックアップ**】 進行方向を常に地図画面の上方に表示します。
 - ・【**自動ズーム**】: ナビゲーション中に地図の縮尺を自動調整します。オフに設定した場合、地図の縮尺は手動で変更します。
 - ・【**案内テキスト**】: 地図ページの情報ウィンドウに表示されるナビゲーションの文字案内の表示 / 非表示を設定します。
 - 【**ナビゲーション中**】 ナビゲーション中のみ表示します。
 - 【**常に表示**】 常に表示します。
 - 【**表示しない**】 常に非表示にします。
 - ・【**表示**】: 地図の外観設定を行います。(29 ページ [地図の外観設定](#))
 - ・【**地図情報**】: デバイスに格納されている地図データの有効 / 無効を設定します。地図名称を選択して、有効 / 無効を設定します。
 - 【**有効**】 地図を表示します。
 - 【**無効**】 地図を非表示にします。

地図の外観設定

- 1 ホーム画面から  > 【**ライドプロフィール**】の順に選択します。
- 2 設定を変更するライドプロフィールを選択します。
- 3 【**ナビゲーション**】>【**地図**】>【**表示**】の順に選択します。
- 4 次のオプションを選択します。
 - ・【**地図テーマ**】:
 - 【**マウンテンバイク**】 地図表示をマウンテンバイクの走行環境に最適化します。
 - 【**クラシック**】 標準的なカラーで地図を表示します。
 - 【**ハイコントラスト**】 視認性を高めるために地図をハイコントラストで表示します。
 - ・【**人気のマップ**】: 人気の道路やトレイルを強調表示します。スイッチで有効 / 無効を切り替えます。
 - ・【**地図詳細度**】: 地図の詳細度を変更します。
 - ・【**履歴ラインカラー**】: 地図上の履歴を表示するラインの色を変更します。

- ・ **【詳細】**：地図上の文字の大きさや地形陰影の表示など地図の表示方法に関する設定を行います。
- ・ **【地図のデフォルトにリセット】**：地図の外観設定をリセットします。

ルート探索方法

ナビゲーションのルーティングに関する設定を行います。

- 1 ホーム画面から  > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 設定を変更するライドプロフィールを選択します。
- 3 **【ナビゲーション】** > **【ルーティング】** の順に選択します。
- 4 次のオプションを選択します。選択したアクティビティによって、表示される項目が異なります。
 - ・ **【Popularity Routing】**：Garmin Connect に蓄積されたルートデータをフィードバックし、最適なルートを検索します。（サイクリングアクティビティのみ設定可）
 - ・ **【アクティビティ】**：選択したアクティビティに最適なルートを探します。**【ロードサイクリング】** / **【ミックスサーフェスサイクリング】** / **【グラベルサイクリング】** / **【マウンテンバイク】** / **【自動車】** / **【バイク】** / **【徒歩】** / **【直行】** から選択します。
 - ・ **【ルート探索方法】**：ルートの計算方法を選択します。選択したアクティビティによって、表示される項目が異なります。**【距離優先】** / **【時間優先】** / **【標高差優先】** から選択します。
 - ・ **【マップマッチ】**：地図上の至近道路に現在地を位置付けます。オン / オフを設定します。
 - ・ **【回避】**：ルート探索時に回避したい道路や走行条件を設定します。選択したアクティビティによって、表示される項目が異なります。**【主要幹線道路】** / **【有料道路】** / **【未舗装道路】** / **【フェリー】** / **【狭い山道】** から選択します。
 - ・ **【コース再計算】**：コースナビゲーション実行中、コースから逸脱した際の挙動を選択します。
 - 【自動ルート再計算確認】** コースから逸脱したときにコースに戻るルートを再計算するか毎回確認します。
 - 【毎回確認】** コースから逸脱したときにコース再計算のオプションを毎回選択します。
 - 【自動ルート再計算】** コースから逸脱したときにコースに戻るルートを自動で再計算します。
 - 【自動ポーズ】** コースから逸脱したときに自動ポーズでタイマーを一時停止します。
 - ・ **【ルート再計算】**：ナビゲーション実行中、ルートから外れた場合、外れた地点から目的地までのルートを再計算します。
 - 【スタート警告】** ルートから外れた都度、再計算するか選択します。
 - 【自動】** ルートから外れた際に、自動で再計算します。
 - 【オフ】** 再計算を行いません。

ワイヤレス接続機能

⚠ 警告

サイクリング中にタッチスクリーンを操作して情報を入力したり、メッセージを読んだり、返信しないでください。注意が散漫になり、重大なけがや死亡につながる事故を引き起こすおそれがあります。

スマートフォンとペアリングする

デバイスのスマートフォン連携機能を利用するには、Garmin Connect アプリでスマートフォンなどのモバイル端末とデバイスをペアリングする必要があります。

- 1  を長押ししてデバイスの電源を入れます。

初めて電源を入れたときは、初期設定で言語を選択します。次の画面で、スマートフォンとのペアリングを確認するメッセージが表示されます。

ヒント：初期設定がすでに完了している場合は、ホーム画面から  > [ワイヤレス接続機能] > [スマートフォン] > [ペアリング] の順に選択します。

- 2 デバイスの画面に表示される二次元コードをスマートフォンでスキャンして、画面の指示に従ってペアリングとセットアップを完了します。

注意：Garmin Connect アカウントとセンサーの情報をもとに、セットアップ中におすすめのライドプロフィールとデータ項目が提案されます。以前のデバイスに接続済みのセンサーがある場合、セットアップ中にセンサー情報を転送できます。

注意：Wi-Fi 接続とスリープモードをセットアップすると、トレーニングの統計やコースのダウンロード、ソフトウェア更新を含むすべてのデータをデバイスに同期できます。

ペアリング完了後、デバイスのデータがスマートフォンに同期されます。

Bluetooth 接続機能

デバイスをスマートフォンなどのモバイル端末に Bluetooth 接続することで、次の機能が利用できます。一部の機能は、スマートフォンに Garmin Connect アプリや Connect IQ アプリをインストールする必要があります。

自動アップロード：トレーニング終了時に保存したデータを Garmin Connect に自動アップロードします。

オーディオアラート：トレーニング中のアラートを Garmin Connect アプリを介してスマートフォンなどのモバイル端末に接続したイヤホンで再生します。

バイクアラーム：バイクアラーム設定中にデバイスがモーションを検知すると、デバイスが警告音を発し、接続済みスマートフォンに通知します。

Connect IQ ストア：Connect IQ コンテンツ(アプリケーション、データ項目、ウィジェット)をダウンロードします。

ワークアウト / コース / セグメントのダウンロード：ワークアウト / コース / セグメントの作成や検索、デバイスへの転送を行います。

デバイス探索機能：手元から見失ってしまったデバイスをスマートフォンで探索します。

メッセージ返信：対応する Android スマートフォンの着信やメッセージに定型文の返信メッセージを送信します。

通知機能：スマートフォンなどのモバイル端末の着信やメッセージ、アプリなどの通知をデバイスに表示します。

セーフティ&トラッキング機能：事故検出や援助要請などのセーフティ機能と、LiveTrack などの位置情報追跡機能を利用できます。

SNS 共有：Garmin Connect にアップロードしたアクティビティを、Garmin Connect アプリを介して任意の SNS に共有することができます。

天気情報：Garmin Connect アプリを介して現在地の天気予報をデバイスのウィジェットに表示します。(ウェザーアラート機能は、米国国内でのみ有効です。)

セーフティ&トラッキング機能

⚠ 注意

セーフティ&トラッキング機能は補助的な機能のため、本機能に依存せず、万が一の事故に備えて他の連絡手段を用意してください。Garmin Connect アプリがユーザーに代わって救急医療機関等への連絡や救助の要請を行うことはありません。

注意

セーフティ&トラッキング機能を利用するには、デバイスの GPS が有効で、Garmin Connect アプリに Bluetooth

接続されている必要があります。また、緊急連絡先の情報は、あらかじめ Garmin Connect アカウントに登録する必要があります。

デバイスでセーフティ & トラッキング機能を利用するには、Garmin Connect アプリでセットアップする必要があります。

セーフティ & トラッキング機能について、詳しくは [Garmin.com/safety](https://garmin.com/safety) をご参照ください。

援助要請：緊急連絡先に名前と LiveTrack リンク、現在の位置情報(利用可能な場合)を含むメッセージを送信します。

事故検出：屋外アクティビティ実行中にデバイスが事故を検出した場合、緊急連絡先に LiveTrack リンク、現在の位置情報(利用可能な場合)を含むメッセージを送信します。

LiveTrack：友人や家族にリアルタイムで実行中のアクティビティやレースを共有できます。メールまたは SNS で Garmin Connect の LiveTrack 追跡用 URL を送信し、閲覧者を招待します。

GroupRide：共有のコースを作成して、グループメッセージ、ライブ位置情報を他のライダーと共有します。

GroupTrack：LiveTrack の位置情報を複数のユーザー間で共有し、GroupTrack 対応デバイスの地図上に各ユーザーの位置をリアルタイム表示します。

事故検出

⚠ 注意

事故検出機能は、一部の屋外アクティビティでのみ使用可能な補助的な機能です。本機能に依存せず、万が一の事故に備えて他の連絡手段を用意してください。Garmin Connect アプリがユーザーに代わって救急医療機関等への連絡や救助の要請を行うことはありません。

注意

事故検出機能を利用するには、あらかじめ Garmin Connect アプリで緊急連絡先を登録する必要があります。また、デバイスとペアリングするスマートフォンなどのモバイル端末がデータ通信をご利用できる環境にあり、緊急連絡先の受信者が、テキストメッセージを受信する必要があります。(規定の通信料が発生する場合があります。)

GPS 受信中にデバイスが事故を検出すると、Garmin Connect アプリを介して登録済みの緊急連絡先にユーザーの名前と GPS 位置情報をメッセージとして送信します。

事故を検出すると、デバイスの画面と Garmin Connect アプリの画面に事故検出確認メッセージが表示されます。確認メッセージの表示から 30 秒以内であれば、事故検出をキャンセルすることができます。

事故検出の有効 / 無効を設定する

事故検出の有効 / 無効を設定します。ライドプロフィールごとに設定することができます。

1 ホーム画面から  > **[セーフティ & トラッキング]** > **[事故検出]** の順に選択します。

2 ライドプロフィール名の横のスイッチのオン / オフで、事故検出の有効 / 無効を設定します。

注意：事故検出は、初期設定で一部のライドプロフィールで有効に設定されています。地形や走行スタイルによっては、事故を誤検出する場合があります。

援助要請

⚠ 注意

援助要請機能は補助的な機能です。本機能に依存せず、万が一の事故に備えて他の連絡手段を用意してください。Garmin Connect アプリがユーザーに代わって救急医療機関等への連絡や救助の要請を行うことはありません。

注意

援助要請機能を利用するには、あらかじめ Garmin Connect アプリで緊急連絡先を登録する必要があります。また、デバイスとペアリングするスマートフォンなどのモバイル端末がデータ通信をご利用できる環境にあり、緊急連絡先の受信者が、テキストメッセージを受信する必要があります。(規定の通信料が発生する場合があります。)

デバイスの GPS が有効で、Garmin Connect アプリに接続されているときは、登録済みの緊急連絡先にユーザーの名前と GPS 位置情報をメッセージとして送信できます。

援助要請の送信操作後、デバイスの画面に援助要請送信確認メッセージが表示されます。確認メッセージに表示されているカウントダウン中であれば、援助要請送信をキャンセルすることができます。

援助要請を送信する

注意

援助要請機能を利用するには、デバイスの GPS が有効で、Garmin Connect アプリに緊急連絡先が登録されている

必要があります。また、デバイスとペアリングするスマートフォンなどのモバイル端末がデータ通信をご利用できる環境にあり、緊急連絡先の受信者が、テキストメッセージを受信する必要があります。(規定の通信料が発生する場合があります。)

- 1  を 5 秒間長押しします。
- 2 デバイスが鳴動して援助要請の送信確認画面が表示されます。
5 秒間のカウントダウンが終了すると、緊急連絡先にメッセージが送信されます。
ヒント：カウントダウン終了前に  を選択すると、援助要請の送信をキャンセルできます。
- 3 カウントダウン終了前に **【送信】** を選択すると、直ちに援助要請を送信することができます。

緊急連絡先を追加する

- 1 Garmin Connect アプリの詳細(•••)を開きます。
- 2 **【セーフティ&トラッキング】** > **【セーフティ機能】** > **【緊急連絡先】** の順に選択します。
- 3 画面に表示される指示に従い、操作を完了します。

緊急連絡先に追加した宛先に、ユーザーの緊急連絡先に追加されたことを通知するメッセージが送信されます。受信者は登録を承諾または拒否することができます。登録が拒否された場合は、別の連絡先を選択する必要があります。

緊急連絡先を確認する

デバイスで緊急連絡先を確認する前に、Garmin Connect アプリでライダー情報と緊急連絡先をセットアップする必要があります。

- 1 ホーム画面から  > **【セーフティ&トラッキング】** > **【緊急連絡先】** の順に選択します。
緊急連絡先情報が表示されます。

事故検出メッセージ送信をキャンセルする

事故検出時の緊急連絡先へのメッセージ送信を送信前にキャンセルします。

- 1 デバイスで事故が検出されたら、事故検出確認メッセージが表示されている 30 秒以内に、**【キャンセル】** >  の順に選択します。
- 2 緊急連絡先へのメッセージ送信がキャンセルされます。

無事を知らせるメッセージを送信する

緊急連絡先に事故検出のメッセージを送信後、自分の無事を知らせるメッセージを送信することができます。

- 1 ステータスページから **【事故検出】** > **【無事です】** の順に選択します。
緊急連絡先に無事を知らせるメッセージが送信されます。

LiveTrack

注意

位置情報を他のユーザーに共有する際は、自己責任で慎重に行ってください。位置情報を共有するライダーのことを常に認識してください。

LiveTrack 機能で、スマートフォンの連絡先またはソーシャルメディアアカウントから共有先を選択してバイクアクティビティを共有できます。アクティビティを共有中は、閲覧者はウェブページでリアルタイムのユーザーの現在位置とライブデータを追跡できます。

この機能を使用するには、デバイスの GPS が有効で、Bluetooth 接続で Garmin Connect アプリに接続する必要があります。

LiveTrack を開始する

LiveTrack セッションを開始する前に、Garmin Connect アプリで受信者を設定する必要があります。

- 1 ホーム画面から  > **【セーフティ&トラッキング】** > **【LiveTrack】** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・ **【自動スタート】** アクティビティを開始するごとに LiveTrack セッションを開始します。
 - ・ **【LiveTrack 名】** LiveTrack のセッション名を編集します。
 - ・ **【受信者】** LiveTrack の受信者リストを確認します。
 - ・ **【コース共有】** LiveTrack セッションの受信者に、あなたのアクティビティのコースが確認できるようにします。
 - ・ **【観客メッセージ】** 観客からのテキストメッセージを受け取ることができます。(38 ページ [観客メッセージ](#))

- ・ **[LiveTrack の延長]** LiveTrack セッションの閲覧期限を 24 時間に延長します。

3 **[LiveTrack 開始]** を選択します。

LiveTrack セッションが開始します。

ヒント: **[コース共有]** をオンにして、**[LiveTrack 開始]** を選択すると「保存済みコースを選択しますか？」の表示が出ます。✓を選択すると、使用するコースを選択してから LiveTrack を開始することができます。

GroupTrack を開始する

Garmin Connect アプリを介して LiveTrack の位置情報を複数のユーザー間で共有し、GroupTrack 対応デバイスの地図ページ上に表示します。

Garmin Connect アプリでデバイスとスマートフォンなどのモバイル端末をペアリングして接続し、アプリを起動する必要があります。

注意: この機能は、Edge 1030/830/530 またはそれ以前のデバイスとグループで走行するときに利用できます。

Edge 1040/840/540 以降のデバイスと走行する場合は、GroupRide 機能を利用してください。(34 ページ [GroupRide を使用する](#))

- 1 ホーム画面から **≡** > **[セーフティ & トラッキング]** > **[GroupTrack]** の順に選択します。
- 2 ペアリング済みスマートフォンで Garmin Connect アプリを起動します。
- 3 アプリの詳細(●●)から、**[セーフティ & トラッキング]** > **[LiveTrack]** > **⋮** > **[設定]** > **[GroupTrack]** > **[すべてのコネクション]** の順に選択します。
- 4 **[LiveTrack を開始]** を選択します。
- 5 **▶** を押してライドを開始します。
- 6 地図上に近くのコネクションの位置を示すアイコンが表示されます。コネクションが範囲内にいる時は、GroupTrack リストページが表示されます。



- 7 スクロールして GroupTrack リストを表示します。

リストからライダーを選択すると、選択したライダーが地図の中央に表示されます。

GroupTrack のヒント

GroupTrack を利用するには、以下の条件を満たしている必要があります。

- GroupTrack に参加するユーザー同士が、Garmin Connect のコネクションであること
- GroupTrack を利用するデバイスがネットワークに接続されたスマートフォンとペアリング済みで、Bluetooth 通信が有効であること
- GroupTrack に参加するユーザーが LiveTrack を開始し、GroupTrack を有効(オン)に設定していること
- GroupTrack に参加するユーザーが範囲内(40km または 25mi)にいること

GroupRide を使用する



警告

走行中は、常に周囲の状況に注意して、自転車を安全に運転してください。この警告に従わなかった場合、重症または死亡するおそれがあります。

注意

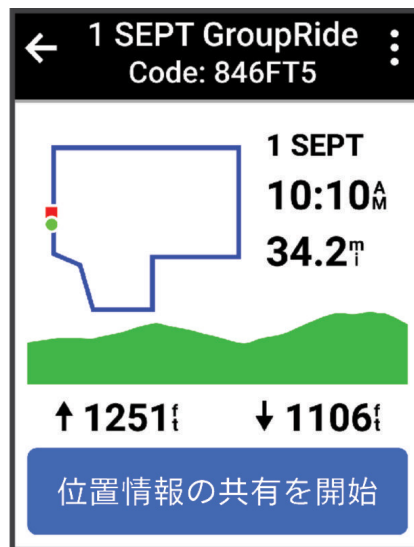
位置情報を他のユーザーに共有する際は、自己責任で慎重に行ってください。位置情報を共有するライダーのことを常に認識してください。

対応する Edge デバイスの GroupRide 機能では、共有コードを使用してグループのメンバー間でコースを共有したり、グループメッセージングやライブ位置情報を利用できます。

注意：GroupRide 機能を使用してライド中は、Edge デバイスと対応するスマートフォンをペアリングして Garmin Connect アプリを起動する必要があります。また、スマートフォンがデータ通信を利用できる環境にある必要があります。

GroupRide を作成する

- 1 GroupRide ウィジェットを表示します。
- 2 **✓** を選択して位置情報の共有に同意します。
- 3 **+** を選択します。
- 4 必要に応じて GroupRide 設定をカスタマイズします。
- 5 コースを追加するには、**【コースの追加】** を選択して任意のコースを選択して追加します。
保存済みのコースを選択するか、**【新規作成】** を選択して新しいコースを作成できます。(26 ページ [コース](#))
- 6 ほかのライダーとランキングや賞を競う場合は、**【競争】** を選択します。
- 7 **【コードの生成】** を選択します。
他のライダーに共有可能なコードが生成されます。



- 8 **...** > **【コードの共有】** > **✓** の順に選択します。
- 9 Garmin Connect アプリに確認メッセージが表示されます。**【コードを表示】** > **【共有】** の順に選択します。
- 10 他のライダーへのコードの共有方法を選択します。
Garmin Connect アプリから連絡先に GroupRide コードを共有できます。
- 11 Edge デバイスで、**【位置情報の共有を開始】** を選択します。
- 12 **▶** を押してライドを開始します。
ライドプロフィールに GroupRide ページが追加されます。
- 13 GroupRide ページからライダーを選択して、選択したライダーの地図上の位置を確認します。地図をスクロールして他のライダーを確認します。(37 ページ [GroupRide 地図ステータス](#))



GroupRide セッションに参加する

GroupRide の共有コードを入力して、Edge デバイスで GroupRide のセッションに参加できます。

- 1 GroupRide ウィジェットを表示します。

ヒント：GroupRide ウィジェットをウィジェット一覧に追加できます。(58 ページ [ウィジェットを管理する](#))

- 2 **[コードを入力]** を選択します。
- 3 6 桁のコードを入力して、**✓** を選択します。
Edge デバイスに自動でコースがダウンロードされます。
- 4 **[位置情報の共有を開始]** を選択します。
- 5 **▶** を押してライドを開始します。

GroupRide メッセージを送信する

GroupRide セッション中に他のライダーにメッセージを送信できます。

- 1 Edge デバイスの GroupRide ページで **...** を長押しします。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・プリセットメッセージの一覧からメッセージを選択します。
 - ・**[メッセージ入力]** を選択して、メッセージを入力します。

注意：Garmin Connect アプリのデバイス設定でプリセットメッセージをカスタマイズできます。設定を変更したあとは、Edge デバイスを同期して変更を適用してください。



注意：古いメッセージを表示するには、メッセージページをスクロールします。GroupRide に参加する前のメッセージの履歴を確認することができます。(36 ページ [GroupRide セッションに参加する](#))

GroupRide 地図ステータス

ライド中は、地図上で GroupRide セッションのライダーを確認できます。

ヒント：地図上のアイコンの文字は、ライダー名のイニシャルを示します。

アイコン	形	カラー	移動中	アプリと接続
	丸	白	はい	いいえ
	丸	青	はい	はい
	四角	白	いいえ	いいえ
	四角	赤	いいえ	はい
	丸	グレー	不明	不明

注意：地図の設定を変更するには、GroupRide ページで・・・を選択します。

GroupRide セッションを終了する

GroupRide セッションの他のライダーの地図やライダー一覧から離脱するには、インターネット接続が必要です。

いつでも GroupRide を終了することができます。

次のいずれかのオプションを選択します。

- ・ライド中に・・・を押して、**[GroupRide を終了]**を選択します。
- ・GroupRide ページで**[GroupRide を終了]**を選択します。
- ・▶を押して**[保存]**を選択してライドを終了します。

GroupRide セッションの期限が切れると、自動で Edge デバイスでセッションを終了します。[\(37 ページ GroupRide セッションのヒント\)](#)

GroupRide セッションのヒント

- ・GPS を使用して屋外でライドを実行してください。
- ・Edge デバイスとスマートフォンを Bluetooth 接続でペアリングしてください。
- ・ライダーは GroupRide のセッションにいつでも参加できます。セッションの有効期限は、開始時刻から 24 時間です。
- ・GroupRide のコードをライド中に共有するには、Edge デバイスの GroupRide ページで・・・>**[コードの共有]**の順に選択します。
- ・・・・>**[メッセージをミュート]**の順に選択して GroupRide のすべてのメッセージをミュートできます。
- ・ライダーの一覧は、15 秒ごとに更新され、40km 以内の 25 人の最寄りのライダーの詳細を確認できます。40km より離れたライダーを確認するには、**[さらに表示]**を選択します。[\(37 ページ GroupRide 地図ステータス\)](#)
- ・ライド中に・・・を押すと、オプションが表示されます。
- ・GroupRide セッションの他のライダーの情報を確認するときは、自転車の走行を一時停止してください。[\(37 ページ GroupRide 地図ステータス\)](#)

ライブイベント共有

大会やイベントなどに参加するときに、アクティビティの開始から終了までのタイムやラップ取得などの経過を、テキストメッセージでリアルタイムに共有します。ライブイベント共有を開始する前に、共有する観客のリストとメッセージの内容を編集できます。

ライブイベント共有をオンにする

ライブイベント共有を開始するには、あらかじめ Garmin Connect アプリで LiveTrack 機能をセットアップする必要があります。

注意：ライブイベント共有は、対応する Android のスマートフォンで Garmin Connect アプリにデバイスを接続する必要があります。

- 1 Edge デバイスの電源を入れます。
- 2 Garmin Connect アプリの詳細(・・・)から、**[セーフティ&トラッキング]**>**[ライブイベント共有]**の順に選択します。

- 3 Edge デバイスが選択されていることを確認します。
 - 4 **[ライブイベント共有]**のスイッチをオンにします。
 - 5 **[完了]**を選択します。
 - 6 **[受信者]**を選択して連絡先から受信者を選択します。
 - 7 **[メッセージオプション]**を選択してメッセージの送信トリガーと内容をカスタマイズします。
 - 8 屋外に出て、Edge デバイスで屋外バイクアクティビティを開始します。
- ライブイベント共有は 24 時間有効です。

観客メッセージ

注意：デバイスとペアリングするスマートフォンなどのモバイル端末がデータ通信をご利用できる環境にある必要があります。

観客メッセージ機能で、実行中のバイクアクティビティの LiveTrack の閲覧者からテキストメッセージを受け取ることができます。この機能は、Garmin Connect アプリの LiveTrack 設定でセットアップします。

観客メッセージをブロックする

観客メッセージをオフに設定します。アクティビティ開始前に設定することをおすすめします。

- 1 ホーム画面から  > **[セーフティ&トラッキング]** > **[LiveTrack]** > **[観客メッセージ]** をオフに設定します。

バイクアラーム

バイクアラーム設定中にデバイスがモーションを検知すると、デバイスが警告音を発します。デバイスがペアリング済みスマートフォンと接続中で Garmin Connect アプリが起動している場合、スマートフォンにもバイクアラームの作動が通知されます。(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))

バイクアラームを設定する

- 1 ホーム画面から  > **[セーフティ&トラッキング]** > **[バイクアラーム]** の順に選択します。
- 2 パスコードを作成または更新します。
ヒント：バイクアラームをオフにするときに、パスコードの入力が必要になります。
- 3  を長押しして、**[バイクアラーム設定]** を選択します。

デバイスがモーションを検知すると警告音を発します。接続中のスマートフォンにバイクアラームが作動したことが通知されます。

オーディオアラート

オーディオアラート機能を利用するには、あらかじめ Garmin Connect アプリでデバイスとスマートフォンなどのモバイル端末をペアリングして接続し、アプリを起動する必要があります。

- 1 Garmin Connect アプリの詳細(•••)を開きます。
- 2 **[Garmin デバイス]**を選択します。
- 3 接続中のデバイスを選択します。
- 4 **[デバイス設定]** > **[オーディオアラート]** の順に選択します。

ミュージックコントロール

警告

不注意運転により死亡または重傷を負うおそれがあるため、公道を走行中に音楽を聴かないでください。サイクリング中のヘッドホンの使用に関する地域の法律や規制を把握し理解することはユーザーの責任です。

- 1 ホーム画面で、ウィジェットが表示されるまで  を押します。
- 2  または  でウィジェットをスクロールします。
- 3 ミュージックコントロールウィジェットを表示します。
注意：表示するウィジェットをカスタマイズできます。(58 ページ [ウィジェットを管理する](#))
- 4 デバイスとペアリング済みのスマートフォンで、音楽を再生します。
Edge デバイスでスマートフォンの音楽再生をコントロールできます。

注意

位置情報を他のユーザーに共有する際は、ご自身の判断と責任で行ってください。位置情報の共有相手をよく確認してください。

Garmin シェア機能で、デバイスのデータをほかの対応する Garmin デバイスに Bluetooth 接続でワイヤレスに共有することができます。スマートフォン接続や Wi-Fi 接続なしで、Garmin シェアが有効な対応するデバイス間で、直接ポイントやコース、ワークアウトを安全に転送できます。

Garmin シェアでデータを共有する

この機能を利用するには、デバイスの Bluetooth 接続がオンで、デバイス同士が 3m 以内にある必要があります。Garmin シェアで、ほかのデバイスとデータを共有することに同意を求められた場合、同意する必要があります。ほかの対応する Garmin デバイスと接続中にデータを送受信することができます(39 ページ [Garmin シェアでデータを受信する](#))。異なるデバイス間でもデータを転送することができます。例えば、Garmin ウォッチに Edge デバイスのコースデータを転送できます。

- 1 ホーム画面から  > **[Garmin シェア]** > **[共有]** の順に選択します。
- 2 カテゴリーを選択して、一つ以上のアイテムを選択します。
- 3 **[共有]** を選択します。
- 4 送信先のデバイスが検索されるのを待ちます。
- 5 デバイスを選択します。
- 6 送信デバイスと受信デバイスで 6 桁のコードが一致することを確認して、 を選択します。
- 7 データの転送完了を待ちます。
- 8 別のデバイスに同じアイテムを再共有するには、**[再度共有する]** を選択します。(任意)
- 9 **[完了]** を選択します。

Garmin シェアでデータを受信する

この機能を利用するには、デバイスの Bluetooth 接続がオンで、デバイス同士が 3m 以内にある必要があります。Garmin シェアで、ほかのデバイスとデータを共有することに同意を求められた場合、同意する必要があります。

- 1 ホーム画面から  > **[Garmin シェア]** の順に選択します。
- 2 範囲内のデバイスが検索されるのを待ちます。
- 3 **[OK]** を選択します。
- 4 送信デバイスと受信デバイスで 6 桁のコードが一致することを確認して、 を選択します。
- 5 データの転送完了を待ちます。
- 6 **[完了]** を選択します。

受信したアイテムは、**[トレーニング]** または **[ナビゲーション]** のメニューから確認できます。前回受信したアイテムはホーム画面にも表示されます。

Garmin シェア設定

ホーム画面から  > **[Garmin シェア]** >  の順に選択します。

[ステータス] : Garmin シェア機能のオン / オフを設定します。

[デバイスを削除] : Garmin シェアで以前にデータを共有したデバイスを削除します。

Wi-Fi 接続機能

デバイスを Wi-Fi 接続して、次の機能を利用できます。

自動アップロード : デバイスでアクティビティを保存後、データを自動で Garmin Connect にアップロード (同期) します。

ワークアウトとトレーニングプランの転送 : Garmin Connect で選択したワークアウトデータまたはトレーニングプランデータをワイヤレス受信します。

ソフトウェアダウンロード : 利用可能なソフトウェア更新データをデバイスにダウンロードしてインストールします。

Wi-Fi 接続設定を行う

- 1 次のいずれかのオプションを選択します。

- ・ スマートフォンなどのモバイル端末に Garmin Connect アプリをダウンロード・インストールし、デバイスをペアリングします。(31 ページ スマートフォンとペアリングする)
- ・ PC から [Garmin.com/ja-JP/software/express/](https://garmin.com/ja-JP/software/express/) にアクセスして Garmin Express アプリケーションをダウンロードしてインストールし、デバイス追加の操作を行います。

2 画面に表示される指示に従い、Wi-Fi 接続設定をセットアップします。

Wi-Fi 設定

1 ホーム画面から  > **[ワイヤレス接続機能]** > **[Wi-Fi]** の順に選択します。

2 次のオプションを選択します。

- ・ **[有効]** スイッチで Wi-Fi 接続の有効 / 無効を設定します。

注意：以下の設定は Wi-Fi 接続が有効に設定されているときに表示されます。

- ・ **[自動アップロード]** スイッチで Wi-Fi 経由のアクティビティデータの自動アップロードの有効 / 無効を設定します。
- ・ **[Wi-Fi 同期]** 手動で Wi-Fi と同期します。
- ・ **[ネットワークを追加]** 接続可能なワイヤレスネットワークに接続します。

3 マイネットワークに表示される接続済みネットワーク名を選択すると、ステータスの切り替え、パスワードの変更、ネットワークの削除が行えます。

ワイヤレスセンサー

デバイスは別売の ANT+ センサーまたは Bluetooth センサーを接続して使用することができます。ペアリングしたセンサーのデータは、トレーニングページのデータ項目に表示することができます(53 ページ [トレーニングページを追加する](#))。付属のセンサーは、あらかじめデバイスとペアリングされた状態で出荷されています。デバイスに対応するワイヤレスセンサーについて、詳しくは Garmin のウェブサイトをご参照ください。

センサータイプ	説明
e- バイク	e- バイクとペアリングします。ライド中に e- バイクのバッテリーやシフティング情報を確認できます。
Edge リモート	Edge 用リモコンとペアリングします。タイマーの開始 / 停止、ラップの取得、トレーニングページのスクロールなどの操作をリモートコントロールできます。
拡張ディスプレイ	対応する Garmin ウォッチのデータ項目を Edge デバイスに表示します。
心拍計(ハートレートセンサー)	HRM-Fit や HRM-Pro シリーズなどの心拍計とペアリングします。心拍データを確認できます。
inReach	inReach デバイスとペアリングします。inReach リモート機能を利用できます。
ライト	Varia スマートバイクライトとペアリングします。
パワー	Rally、Vector などのパワー計とペアリングします。パワーデータを計測できます。
レーダー	Varia リアビューレーダーとペアリングして、後方車両の接近レベルを確認できます。カメラ機能付きの Varia リアビューレーダーとペアリングして、カメラをリモート操作できます。
シフトセンサー	電動シフター (Shimano Di2™ 電動シフターを除く) とペアリングします。ライド中のシフティング情報を表示できます。
Shimano Di2	Shimano Di2 電動シフターとペアリングできます。ライド中のシフティング情報を表示できます。
Shimano E-Bike	Shimano® eBike システムとペアリングします。ライド中に e- バイクのバッテリーやシフティング情報を確認できます。
スマートトレーナー	屋内バイクスマートトレーナーとペアリングします。ライドやコースの負荷をシミュレーションできます。
スピード / ケイデンス	スピードセンサー、ケイデンスセンサーとペアリングします。スピードとケイデンスを計測できます。
tempe	tempe ワイヤレス温度センサーとペアリングします。気温を計測できます。
VIRB	VIRB アクションカメラとペアリングします。VIRB リモート機能を利用できます。

ハートレートセンサーを装着する

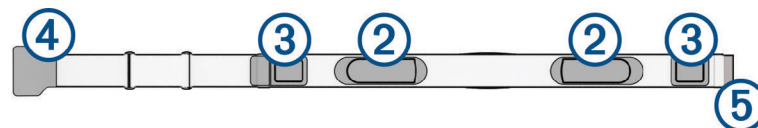
ハートレートセンサーは素肌の上に直接装着します。トレーニング中にずり落ちないように、胸部にしっかりと装着します。

- 1 ハートレートセンサーの発信部 ① を導電ストラップのスナップボタン部に取り付けます。



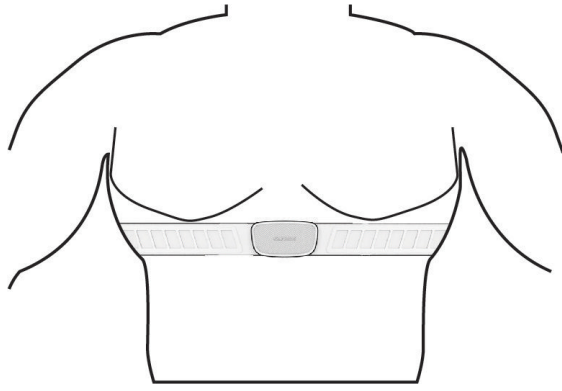
この時、Garmin ロゴが上向きになるよう取り付ける向きに注意してください。

- 2 導電ストラップに電極部 ② と接地部 ③ を少量の水で濡らします。



- 3 ストラップを胸部に巻きつけ、フック ④ をループ ⑤ にかけます。

注意： ケアタグが導電ストラップの電極部等に重ならないようにしてください。



発信部の Garmin ロゴが上向きになるように装着します。

4 デバイスとハートレートセンサーを 3m 以内に近づけます。

ハートレートセンサーは、体に装着時にのみ起動し、ペアリングおよびデータの取得、送信が可能になります。

ヒント：心拍データが不規則な値を示したり、計測できない場合は、[42 ページ 心拍データが不規則な値を示す場合の対処法](#)をご参照ください。

心拍ゾーンを設定する

心拍ゾーンは、ユーザープロフィールの情報を基にあらかじめ推定値が入力されています。心拍ゾーンは手動でカスタマイズすることができます。より正確なアクティビティ中のカロリー計算を行うために、最大心拍数、安静時心拍、心拍ゾーンを正しく設定してください。

1 ホーム画面から **【マイデータ】 > 【トレーニングゾーン】 > 【心拍ゾーン】** の順に選択します。

2 最大心拍数、乳酸閾値、安静時心拍数の値を入力します。

最大心拍数と乳酸閾値の自動検出機能をオンにすることができます。心拍ゾーンは自動更新されますが、手動でゾーンをカスタマイズすることもできます。

3 **【基準：】** を選択して、心拍ゾーンの計算基準を選択します。

- **【bpm】** 心拍ゾーンを bpm (毎分の心拍数) 表示で設定します。
- **【%Max】** 心拍ゾーンを最大心拍数に対するパーセンテージ表示で設定します。
- **【%HRR】** 心拍ゾーンを心拍予備量 (最大心拍数と安静時心拍数の差) に対するパーセンテージ表示で設定します。
- **【%LTHR】** 心拍ゾーンを乳酸閾値心拍数に対するパーセンテージ表示で設定します。

トレーニングの目標と心拍ゾーン

自身のトレーニングレベルを測る際には、心拍ゾーンが計測のよい指標となります。

心拍数は、運動強度を客観的に測るための一つの物差しです。トレーニングの目標に合った適切な心拍ゾーンでトレーニングを行うことで、心肺機能の向上に役立つほか、オーバートレーニングを防いだり、けがのリスクを減らすことができます。

一般的に、心拍ゾーンは最大心拍数に対する割合を基に計算され、ゾーン 1 ～ゾーン 5 の 5 つのゾーンに分けられます。ゾーンの数字が大きいくほど運動強度が高いことを示します。

付録に掲載の表で、心拍ゾーンのゾーン別の状態と効果を確認することができます。[\(78 ページ 心拍ゾーン参考表\)](#)

最大心拍数は、あらかじめ 220 - (年齢) で求められた推定値が使用されています。自身の正確な最大心拍数が分からない場合は、インターネット等で計算方法をお調べください。または、ジムや専門の医療機関で最大心拍数を計測するテストを行っていることがあります。

心拍データが不規則な値を示す場合の対処法

ハートレートセンサーで計測した心拍データが不規則な値を示す または 計測できない場合には、次の方法をお試しください。

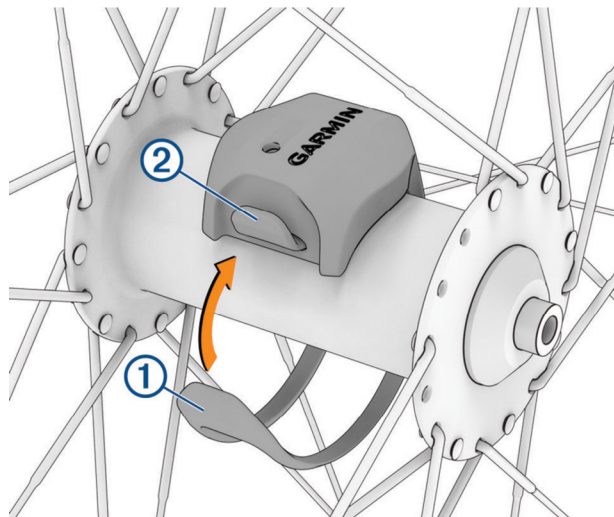
- 導電ストラップ裏側のセンサー部分を少量の水で湿らせてください。
- ストラップが緩んでいる場合は、体にフィットするよう締め直してください。
- 体が温まるまで、5 ～ 10 分程度のウォームアップを行ってください。
- ハートレートセンサーのクリーニングを行ってください。[\(66 ページ ハートレートセンサーのお取り扱い上の注意事項\)](#)
- 化繊のシャツを着用している場合、静電気によりセンサーの発信を阻害するおそれがあります。綿のシャツを着用するか、導電ストラップの両面を水で湿らせて静電気の発生を防いでください。

- 次のような環境下では、センサーの発信に望ましくない影響が生じるおそれがあります。
強い電磁波が発生する場所、周囲に他の 2.4GHz 無線センサーのある場所、高圧電線、電気モーター、電子レンジ(オーブン)、2.4GHz コードレス電話、無線 LAN アクセスポイントが周囲にある場所

スピードセンサーを装着する

ヒント：センサーを取り付ける際は、自転車をスタンド等に固定してください。

- 1 スピードセンサーをホイールハブの上に置きます。
- 2 ゴム製ストラップ ① を図のように伸ばし、ツメ ② に引っかけて固定します。



左右非対称のハブ上にセンサーを設置した場合にセンサーが傾くことがありますが、動作に影響はありません。

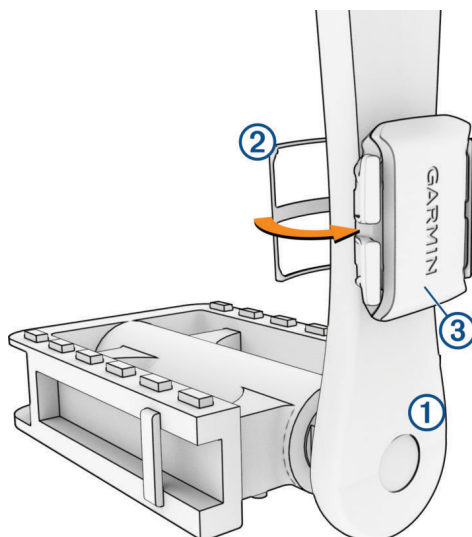
- 3 ホイールが回転したときに、センサーが自転車の他のパーツ等に接触せず、しっかりと固定されていることを確認します。

注意：タイヤを 2 回転させると、センサーの LED ランプが緑色に 5 秒間点滅し、センサーが起動していることを確認できます。

ケイデンスセンサーを装着する

ヒント：センサーを取り付ける際は、自転車をスタンド等に固定してください。

- 1 自転車のクランクアーム ① に合うサイズの固定用バンドを選定します。
バンドは伸縮しますので、少し短めのバンドを使用してください。
- 2 ノンドライブサイドのクランクアームの内側に、ケイデンスセンサーの平らな面を置きます。
- 3 固定用バンド ② を図のように巻き付け、センサーのツメ ③ に引っかけて固定します。



- 4 ペダルを回したときに、センサーや固定用バンドが自転車やシューズに接触せず、しっかりと固定されていることを確認します。

注意：クランクアームを2回転させると、センサーのLEDランプが緑色に5秒間点滅し、センサーが起動していることを確認できます。

5 15分程度試乗し、センサーや固定用バンドがペダル操作の妨げにならないか確認します。

スピードセンサー・ケイデンスセンサーについて

スピードセンサー・ケイデンスセンサーがデバイスにペアリングされていない場合、スピードと距離はGPSデータを基に算出されます。

ケイデンスとは、一分間あたりのクランクアームの回転数(rpm)を表します。

ケイデンスまたはパワーデータの平均値

ケイデンスセンサーまたはパワー計で計測したデータの平均値は、初期設定でゼロを含まない平均で算出されています。

データ記録設定から設定を変更することができます。(58 ページ [データ記録設定](#))

スピードセンサーのタイヤ周長を設定する

- 1 デバイスにスピードセンサーをペアリングして接続します。
- 2 ホーム画面から  > **[センサー]** の順に選択します。
- 3 接続中のスピードセンサーを選択します。
- 4 **[センサー詳細]** を選択します。
- 5 **[タイヤ周長]** を選択します。
- 6 次のオプションを選択します。
 - ・ **[自動]** タイヤ周長を自動検出します。
 - ・ **[手動]** タイヤ周長を手動で入力します。(78 ページ [タイヤサイズと周長](#))

ワイヤレスセンサーをペアリングする

ペアリングを開始する前に、センサーを正しく装着してください。

初めてワイヤレスセンサーをデバイスで使用するときは、ANT+ 接続または Bluetooth 接続でセンサーをペアリングする必要があります。センサーが ANT+ 接続と Bluetooth 接続の両方に対応している場合、Garmin は ANT+ 接続でペアリングすることをおすすめします。ペアリングが完了すると、ライドを開始するときにセンサーがアクティブで接続範囲内にあれば、デバイスに自動接続されます。

ヒント：製品本体に標準付属のセンサーは、あらかじめデバイスにペアリング済みです。

- 1 デバイスとセンサーを 3m 以内に近づけます。

注意：ペアリング中は、他のセンサーから 10m 以上離れてください。
- 2 ホーム画面から  > **[センサー]** > **[センサー追加]** の順に選択します。
- 3 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ **[すべて検索]** 検索可能なすべてのセンサータイプのセンサーを検索します。
 - ・ **任意のセンサータイプを選択**
センサータイプを選択して、センサーを検索します。
- 4 センサーを起動します。

(例) ハートレートセンサーを体に装着する、スピードセンサー / ケイデンスセンサーを装着した自転車のペダルを漕ぐ、等
- 5 接続可能なセンサー一覧が表示されます。

ヒント：ANT+ センサーと Bluetooth センサーが接続可能な場合、**[ANT センサー表示]** または **[Bluetooth センサー表示]** を選択して一覧に表示するセンサーを切り替えられます。
- 6 一覧から接続するセンサーを 1 つ以上選択します。
- 7 **[追加]** を選択します。
- 8 センサー追加後、トレーニングページをカスタマイズすることができます。

カスタムトレーニングページ追加の確認メッセージが表示されたら、 を選択してトレーニングページを編集します。

ワイヤレスセンサーのバッテリー残量

ライドを終了してアクティビティのデータを保存した後、ライドで使ったセンサーのバッテリー残量を一覧で確認できます。

パワー計

別売のパワー計(Rally または Vector シリーズなど)を接続してデータを取得することができます。センサーの使用前に、次のことを必ず確認してください。

- ・ センサーの装着方法や使用前の準備、取り扱い方法については、お買い求めのパワー計の操作マニュアルをご参照ください。
- ・ ご自身の能力や目標に合わせてパワーゾーンを設定してください。

パワーゾーンを設定する

パワーゾーンは、FTP(機能的作業閾値パワー)の値を基にあらかじめ推定値が入力されています。パワーゾーンは手動でカスタマイズすることができます。

- 1 ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[トレーニングゾーン]** > **[パワーゾーン]** の順に選択します。
- 2 **[FTP:]** を選択して、自身の FTP 値を入力します。
- 3 **[基準:]** を選択して、ゾーンの計算基準を選択します。
 - ・ **[ワット]** パワーゾーンをワット表示で設定します。
 - ・ **[%FTP]** パワーゾーンを FTP に対するパーセンテージ表示で設定します。
- 4 **[環境設定]** を **[7 ゾーン]** または **[9 Coggan iLevels]** から選択します。
- 5 各ゾーン表示を選択すると、ゾーンの範囲をカスタマイズすることができます。
 - ・  を選択すると、ゾーンをリセットできます。
- 6 すべて設定し終えたら、 を選択して終了します

パワー計を校正する

パワー計を校正するには、あらかじめパワー計を正しく自転車に取り付け、デバイスとのペアリングを完了して接続する必要があります。

使用するパワー計により、校正手順が異なる場合があります。その場合は、使用するパワー計の説明書等の指示に従ってください。

- 1 ペアリング済みのパワー計を起動します。
- 2 ホーム画面から  > **[センサー]** の順に選択します。
- 3 ペアリング済みセンサー一覧から、校正するパワー計を選択します。
- 4 **[校正]** を選択します。
- 5 画面に表示される指示に従い、校正を完了します。

サイクリングダイナミクス

合計パワー、ケイデンス、左 / 右バランスのほか、パワーフェーズや PCO をはじめとする高度なサイクリングダイナミクスを測定できます。これらのデータを分析して、フォームの改良につなげることもできます。

シッティング / ダンシングを検出してそれぞれの時間とパワー値を測定し、ポジションによる差異を確認できます。パワーフェーズはペダリングにおけるトルクのかかり始めと終わりを表示し、プラットフォームセンターオフセットはペダル面に対するトルクの分布を表示します。

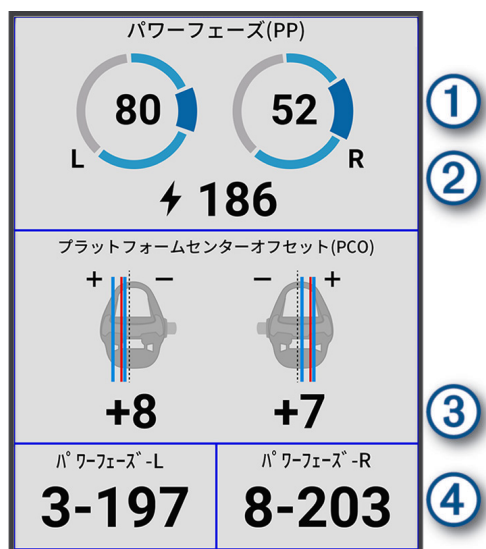
注意：サイクリングダイナミクス機能を利用するには、別売のデュアルセンサーの Garmin のパワー計(Rally または Vector)と Edge デバイスを ANT+ 接続でペアリングして接続する必要があります。シングルセンサーの Rally または Vector は、サイクリングダイナミクス機能と左右バランス測定に対応していません。

詳しくは Garmin.co.jp/minisite/garmin-technology/cycling/ をご参照ください。

サイクリングダイナミクスページ

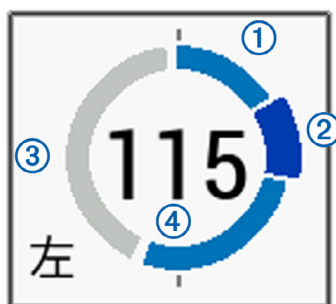
サイクリングダイナミクス機能を利用するには、別売のデュアルセンサーの Garmin のパワー計(Rally または Vector)をデバイスにペアリングして接続する必要があります。

- 1 デバイスにペアリング済みのパワー計(Rally または Vector)を使用してライドを開始します。
- 2 トレーニングページをスクロールして、サイクリングダイナミクスページを表示します。



①	パワーフェーズ(左右)
②	左右の合計パワー
③	プラットフォームセンターオフセット(左右)
④	データ項目(オプションからカスタマイズ可能)

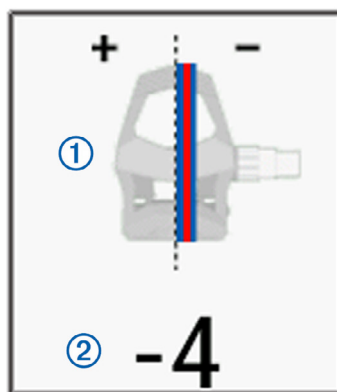
パワーフェーズ



①	パワーフェーズ(プラス)	プラスのパワーを出力している位置をブルーで表示します。
②	パワーフェーズピーク	出力しているプラスのパワーのうち、全体の 50 パーセント(数値変更可能)のパワーを出力している位置を濃いブルーで表示します。
③	パワーフェーズ(マイナス)	パワー出力されていない位置をグレーで表示します。
④	パワー値	出力したパワー値を表示します。

注意：デバイスにペアリング済みのパワー計(Rally または Vector)が接続されていない場合や、サイクリングダイナミクス機能非対応のパワー計が接続されている場合、パワーフェーズを示す図はグレイアウトします。

プラットフォームセンターオフセット(PCO)



①	プラットフォームセンターオフセット	ペダルにかかる力がペダルの中心からどの程度離れているかをブルーとレッドの線で表示します。ブルーの線は、過去 30 秒のペダルの踏み込み位置、レッドの線は、過去 10 秒間の平均踏み込み位置を表します。ブルーの線が少ない方がほぼ一定の場所を踏み込んで効率よくペダリングできています。
②	プラットフォームセンターオフセット値	ペダルの中心を 0、外側をプラス(+)、内側をマイナス(-)として、プラットフォームセンターオフセットを数値化して表示します。単位はミリメートル(mm)です。

注意：デバイスにペアリング済みのパワー計(Rally または Vector)が接続されていない場合や、サイクリングダイナミクス機能非対応のパワー計が接続されている場合、プラットフォームセンターオフセットを示すペダル図は表示されず、代替のデータ項目としてパワーグラフが表示されます。

サイクリングダイナミクス機能をカスタマイズする

- 1 デバイスにパワー計(Rally または Vector)をペアリングして接続します。
- 2 ホーム画面から  > **[センサー]** の順に選択します。
- 3 ペアリング済みセンサー一覧から、接続中のパワー計(Rally または Vector)を選択します。
- 4 **[センサー詳細]** > **[サイクリングダイナミクス]** の順に選択します。
- 5 オプションを選択して設定を変更します。

Edge デバイスで Rally / Vector のソフトウェアを更新する

あらかじめデバイスに Rally または Vector をペアリングして接続する必要があります。

- 1 Edge デバイスのデータを Garmin Connect に同期します。
利用可能な更新ソフトウェアがある場合、Garmin Connect から Edge デバイスに更新データが転送されます。
- 2 Edge デバイスと Rally または Vector を 3m 以内に近づけます。
- 3 Rally または Vector を取り付け済みのクランクアームを数回回転させ、Rally または Vector を起動します。Edge デバイスに更新確認のメッセージが表示されます。
- 4 画面に表示される指示に従い、更新します。

Varia センサー

⚠ 警告

Varia シリーズのデバイスは後方からの車両接近状況等を検知し、自転車の運転者に注意を促しますが、それは自転車を運転する方自身の注意力と判断力に代わるものではありません。デバイスからの通知を参考に、常に運転者自身が最適な判断をし、安全な運転を心がけてください。警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあります。

別売の Varia シリーズのデバイス(Varia スマートヘッドライト、Varia リアビューレーダー等)と接続して使用することができます。センサーの使用前に、次のことを必ず確認してください。

- センサーの装着方法や使用前の準備、取り扱い方法については、お買い求めの Varia センサーに付属の操作マニュアルをご参照ください。

Varia デバイスのカメラ機能を使用する

注意

一部の法域では、録画・録音・撮影行為について規制または禁止されている場合があります。また、これらの行為に関して必要な説明を行ったうえで、すべての関係者の同意を得ることが必要になる場合があります。ユーザーの責任において、このデバイスを使用する地域で適用されるすべての法律、規制、およびその他の制限事項を確認、遵守してください。

Varia のカメラ機能を使用するには、あらかじめデバイスに Varia をペアリングして接続する必要があります。

- 1 ホーム画面で  を押してウィジェットを表示します。
- 2  または  でウィジェットを切り替え、Varia カメラコントロールウィジェットを表示します。
- 3 次のオプションを選択します。
 - ・ **[レーダーカメラ]** カメラ設定を表示します。
 - ・  静止画を保存します。
 - ・  映像を保護します。

グリーンレベル接近トーンをオンにする

グリーンレベル接近トーンをオンにするには、あらかじめデバイスと対応する Varia リアビューレーダー（別売）をペアリングして接続する必要があります。

レーダーの接近レベルがグリーンになったときに、音でお知らせします。

- 1 ホーム画面から  > **[センサー]** の順に選択します。
- 2 接続済みのリアビューレーダーを選択します。
- 3 **[センサー詳細]** > **[アラート設定]** の順に選択します。
- 4 **[グリーンレベル接近トーン]** のスイッチでオンにします。

電動シフター

別売の電動シフター (Shimano Di2、SRAM® AXS 等) をペアリングして接続することができます。(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))

Edge デバイスでのタイマーの開始 / 停止やラップ取得などの操作をコントロールするシフターボタンをカスタマイズしたり、データ項目をカスタマイズすることができます(53 ページ [トレーニングページを追加する](#))。電動シフターのポジションをファインチューニングする際、Edge デバイスにトリム調整値を表示することができます。

注意：一部の Shimano Di2 とデバイスを ANT+ でワイヤレス接続するには、別途専用のワイヤレスユニットが必要です。

e- バイク

別売の Shimano eBike システムなどの対応する e- バイクと接続して使用することができます(44 ページ [ワイヤレスセンサーをペアリングする](#))。ペアリング完了後、トレーニングページを編集してデータ項目をカスタマイズできます。(53 ページ [トレーニングページを追加する](#))

e- バイクのセンサー詳細を確認する

- 1 ホーム画面から  > **[センサー]** の順に選択します。
 - 2 接続済みの e- バイクを選択します。
 - 3 次のオプションを選択します。
 - ・ **[センサー詳細]** > **[e- バイク詳細]** を選択してオドメーターや走行距離を確認します。
 - ・  を選択してエラーメッセージを確認します。
- e- バイクについて詳しくは対応する操作マニュアル等をご参照ください。

inReach リモート

inReach リモート機能を使用すると、Edge デバイスで inReach デバイスを操作することができます。互換性のある inReach デバイスについては、当社ウェブサイト ([Garmin.co.jp](https://www.garmin.co.jp)) をご参照ください。

inReach リモートを使用する

- 1 inReach デバイスの電源をオンにします。
- 2 ホーム画面から  > **[センサー]** > **[センサー追加]** > **[inReach]** の順に選択します。

3 inReach デバイスを選び、**【追加】**を選択します。

4 ホーム画面で $\wedge$ を押してウィジェットを表示します。

5 $\wedge$ または $\vee$ でウィジェットを切り替え、inReach リモートウィジェットを表示します。

- プリセットのメッセージを送信するには**【メッセージ】**>**【プリセット送信】**の順に選択して、リストからメッセージを選択します。
- テキストメッセージを送信するには**【メッセージ】**>**【会話開始】**の順に選択します。メッセージの宛先を選び、テキストを入力するか、またはクイックテキストオプションを選択します。
- タイマーやトラッキングセッション中の移動距離を確認するには、**【トラッキング】**>**【トラッキング開始】**の順に選択します。
- SOS メッセージを送信するには、**【SOS】**を選択します。

注意：SOS 機能は、緊急の場合のみ使用してください。

履歴

保存済みのアクティビティデータと合計データは、履歴から確認することができます。

空きメモリーがいっぱいになると、メッセージが表示されます。履歴データは自動で上書きまたは消去されることはありません。必要なデータは Garmin Connect アカウントにアップロードして、不要なデータは削除してください。

履歴を確認する

- 1 ホーム画面から **【履歴】** > **【アクティビティ履歴】** の順に選択します。
- 2 履歴一覧から、確認するデータを選択します。
- 3 オプションを選択して詳細を確認します。

心拍ゾーン / パワーゾーンのゾーン別タイムを確認する

アクティビティで心拍データまたはパワーデータを取得するには、ペアリング済みの対応する心拍計またはパワー計をデバイスに接続してアクティビティを実行する必要があります。

心拍ゾーン(42 ページ [心拍ゾーンを設定する](#))またはパワーゾーン(45 ページ [パワーゾーンを設定する](#))は、ご自身の能力や目標に応じてカスタマイズしてください。

- 1 ホーム画面から **【履歴】** > **【アクティビティ履歴】** の順に選択します。
- 2 履歴一覧から、確認するデータを選択します。
- 3 **【概要】** を選択します。
- 4 **【心拍ゾーン】** または **【パワーゾーン】** を選択します。

履歴を一件削除する

- 1 ホーム画面から **【履歴】** > **【アクティビティ履歴】** の順に選択します。
- 2 削除するアクティビティを選択します。
- 3 **⋮** > **【削除】** > **✓** の順に選択します。

合計を確認する

デバイスで実行したすべてのアクティビティの回数、時間、距離、消費カロリーの合計を確認できます。

- 1 ホーム画面から **【履歴】** > **【合計】** の順に選択します。

合計を削除する

- 1 ホーム画面から **【履歴】** > **【合計】** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・ **🗑️** : 全ライドプロフィールで実行したアクティビティの合計を削除します。
 - ・ **各ライドプロフィール名を選択** :
選択したライドプロフィールで実行したアクティビティの合計を削除します。
- 3 **注意** : 合計を削除しても、保存済みのアクティビティデータが削除されることはありません。
- 3 **✓** を選択します。

Garmin Connect

Garmin Connect とは、Garmin が提供する無償のオンラインサービスです。デバイスで記録したアクティビティを保存し、データを閲覧、分析、共有したり、デバイス設定やユーザー設定のカスタマイズなどを行うことができます。Garmin Connect のサービスを利用するには、Garmin Connect アカウントへのサインインが必要です。詳しくは、[connect.Garmin.com](https://connect.garmin.com) にアクセスしてください。

アクティビティデータの保存 : 無制限のストレージにアクティビティデータをアップロードすることができます。

Garmin デバイスを複数台お持ちの場合でも、一つのアカウントでデータの管理が可能です。

アクティビティデータの分析 : タイムや距離、心拍数、ピッチ、ケイデンスなどの様々なデータを、地図やグラフでより詳細に分析することができます。

データの共有 : コネクション (Garmin Connect アカウント上の友人) 同士でデータの閲覧を共有したり、SNS にアクティビティへのリンクを投稿することができます。

設定のカスタマイズ : デバイスの設定やユーザー設定をカスタマイズすることができます。

Connect IQ ストア : Connect IQ コンテンツ (アプリケーション、データ項目、ウィジェット) をダウンロードします。

ライドデータを Garmin Connect に送信する

- スマートフォンの Garmin Connect アプリで Edge デバイスを同期します。
- 付属の USB ケーブルで Edge デバイスを PC に接続し、Garmin Express で Garmin Connect アカウントにデータを同期します。

データの記録

デバイスはデータを毎秒記録しています。データを毎秒で記録すると詳細な軌跡データが得られますが、メモリーを多く使用します。

ケイデンスとパワーの平均化について詳しくは [58 ページ](#) [データ記録設定](#) をご参照ください。

データ管理

注意：このデバイスは Windows® 95, 98, Me, Windows NT® と Mac® OS 10.3 以前のバージョンには対応していません。

デバイスを PC に接続する

注意

さびや腐食の原因となりますので、本体および USB ケーブルの端子や USB ポート、防水カバーの周辺に付着した汚れや水分は、充電または PC 接続の前に必ずクリーニングしてください。

- 1 デバイスの防水カバーをめくります。
- 2 USB ケーブルの一方の端子をデバイスの USB ポートに差し込みます。
- 3 USB ケーブルのもう一方の端子を PC の USB ポートに差し込みます。

Windows コンピューターではリムーバブルドライブとしてデバイスが認識されます。Mac のオペレーティングシステムは MTP ファイル転送モードのサポートに制限があるため、Mac コンピューターでデバイスのファイルを確認するときは Garmin Express を使用してください。

デバイスにファイルを転送する

- 1 デバイスを PC に接続して Garmin ドライブまたはボリュームを開きます。
- 2 フォルダーを開きます。
- 3 PC からファイルをコピー & ペーストします。

注意：デバイスに不必要なファイルは書き込まないでください。

デバイスからファイルを消去する

注意

デバイスのメモリー内には、重要なシステムファイルが保存されています。それらのファイルを消去してしまった場合、デバイスが起動できなくなるおそれがあります。

- 1 デバイスを PC に接続して Garmin ドライブまたはボリュームを開きます。
- 2 フォルダーを開きます。
- 3 ファイルを選択します。
- 4 ファイルを削除します。

注意：Mac のオペレーティングシステムは MTP ファイル転送モードのサポートに制限があります。Garmin ドライブは、Windows オペレーティングシステムで開いてください。

USB 接続時の取り外し方法

USB ケーブルでデバイスを PC に USB 接続した場合の取り外し方法は、以下の手順に従ってください。ただし、デバイスが PC にポータブルデバイスとして認識されている場合は、以下の手順を行う必要はありません。

- 1 次の手順を完了させます。
 - **Windows のコンピュータの場合：**システムトレイの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンを選択 > デバイスを選択
 - **Apple® のコンピュータの場合：**デバイスを選択 > **[ファイル] > [(デバイス名)を取り出す]**を選択
- 2 USB ケーブルを PC の USB ポートから取り外します。

設定

Connect IQ 機能

Garmin またはその他の開発者から提供されたコンテンツをデバイスに追加することができます。

データ項目：アクティビティやセンサー、履歴に表示するデータ項目をダウンロードできます。デバイスにデフォルトで用意されている機能やトレーニングページに追加できます。

ウィジェット：各種センサーの取得データや通知などの情報をまとめて確認できる、便利なウィジェットを利用できます。

アプリケーション：新しく作成されたアクティビティタイプなど、アプリケーションをインストールできます。

PC から Connect IQ をダウンロードする

- 1 チャージングケーブルでデバイスを PC に接続します。
- 2 [apps.Garmin.com](https://apps.garmin.com) にアクセスし、Garmin Connect アカウントでサインインします。
- 3 Connect IQ コンテンツを選択し、ダウンロードします。
- 4 画面に表示される指示に従い、操作を完了します。

ユーザープロフィール

ユーザープロフィールは、より精度の高いトレーニングデータの計測のために正確な値を入力してください。

- 1 ホーム画面から  > **[マイデータ]** > **[ユーザープロフィール]** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・ **[性別]** 性別を選択します。
 - ・ **[誕生日]** 誕生日を入力します。
 - ・ **[身長]** 身長を入力します。
 - ・ **[体重]** 体重を入力します。

ジェンダー設定

デバイスの初期設定では、ユーザーの性別の選択が必須となっています。フィットネスとトレーニングのアルゴリズムは、そのほとんどで性別の選択が必要です。Garmin は、ユーザーの性別は出生時の性別に設定することをおすすめします。初期設定完了後は、Garmin Connect アカウントのプロフィール設定で設定を変更できます。

プロフィールとプライバシー：公開プロフィールのデータをカスタマイズします。

ユーザー設定：性別を設定します。**[回答しない]**を選択した場合、性別の選択が必要なアルゴリズムでは、デバイスの初期設定で選択した性別が使用されます。

ライドプロフィール

ライドプロフィールの各種設定を行います。

ライドプロフィールを新規追加する

- 1 ホーム画面から  > **[ライドプロフィール]** の順に選択します。
- 2 **[新規作成]** を選択します。
- 3 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ **[既存の設定をコピー]** 既存のライドプロフィールの設定をコピーして新規追加します。
 - ・ **[既存の設定から作成]** プリセットのライドプロフィール(グラベル、通勤 等)を新規追加します。
- 4 ライドプロフィール名を入力し、 を選択して決定します。
- 5 必要に応じて、ライドプロフィールの各種設定を行います。(53 ページ [ライドプロフィールの各種設定を行う](#))
- 6 すべて設定し終わったら、 を選択して完了します。

ライドプロフィールの各種設定を行う

ホーム画面から  > **[ライドプロフィール]** の順に選択して、設定を変更するライドプロフィールを選択します。

[トレーニングページ]: トレーニングページの新規追加、編集を行います。(53 ページ [トレーニングページを追加する](#))

[ライドタイプ]: ライドプロフィールのライドタイプを設定します。(通勤など)

注意: ライドタイプは、アクティビティを保存する前に変更することもできます。

[セグメント]: セグメント機能の有効 / 無効を設定します。

ヒント: セグメントごとの有効 / 無効の設定は、セグメントオプションで設定します。(8 ページ [セグメントを有効にする](#))

[クライム]: ClimbPro 機能のオン / オフ、クライム検出の勾配タイプを設定します。(28 ページ [ClimbPro を使用する](#))

[アラートとプロンプト]: ラップ、トレーニング中のアラート、ナビゲーション中のアラートを設定します。(54 ページ [アラートとプロンプトの設定](#))

[タイマー]: アクティビティのタイマーの自動停止(56 ページ [自動ポーズ](#))とタイマーの自動スタート(56 ページ [タイマースタート](#))をカスタマイズします。

[栄養補給 / 水分補給]: 栄養補給 / 水分補給の設定を行います。

[自己評価]: ワークアウトやアクティビティの後の自己評価の有効 / 無効を設定します。(4 ページ [アクティビティを自己評価する](#))

[マウンテンバイク]: グリット / フロー / ジャンプ記録のオン / オフを設定します。

[ナビゲーション]: ナビゲーションの転換点案内、地図設定(29 ページ [地図設定](#))、ルート探索設定(30 ページ [ルート探索方法](#))をカスタマイズします。

[衛星システム]: 衛星受信モードを選択します。(57 ページ [衛星受信モードを変更する](#))

[自動スリープモード]: 自動スリープモードのオン / オフを設定します。(56 ページ [自動スリープモード](#))

トレーニングページを追加する

- 1 ホーム画面から  > **[ライドプロフィール]** の順に選択します。
- 2 トレーニングページを追加するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **[トレーニングページ]** > **[ページ追加]** > **[トレーニングページ]** の順に選択します。
- 4 データ項目のカテゴリを選択し、一覧から表示したいデータ項目を選択します。(72 ページ [データ項目](#))
- 5  を押して前のページに戻ります。
- 6 次のオプションを選択します。
 - ・ 表示するデータ項目を選択し終わるまで、手順 4 ~ 5 を繰り返します。
 - ・ 表示するデータ項目を選択し終わったら、 を選択します。
- ヒント: 既に追加済みまたは追加可能最大ページ数に達しているページタイプは表示されません。
- 7  または  で分割数を選択します。
- 8 ... を押します。
- 9 トレーニングページのプレビューが表示されます。プレビューから、データ項目の変更と並び替えを行うことができます。
 - ・ 項目を選択して別の場所の項目を選択すると、項目の位置を入れ替えることができます。
 - ・ 項目を選択して再度同じ項目を選択すると、データ項目を変更することができます。
- 10 **[完了]** を選択して編集を終了します。
- 11 必要な場合は、ページを並べ替えます。
- 12  を押して編集を終了します。

トレーニングページのデータ項目を編集する

- 1 ホーム画面から  > **[ライドプロフィール]** の順に選択します。
- 2 トレーニングページのデータ項目を編集するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **[トレーニングページ]** を選択します。
- 4 編集するトレーニングページを選択します。
- 5 **[分割数とデータ項目]** を選択します。
- 6  または  で分割数を選択します。

7 ...を押します。

8 トレーニングページのプレビューが表示されます。プレビューから、データ項目の変更と並び替えを行うことができます。

- ・項目を選択して別の場所の項目を選択すると、項目の位置を入れ替えることができます。
- ・項目を選択して再度同じ項目を選択すると、データ項目を変更することができます。

9 [完了]を選択して編集を終了します。

トレーニングページを並べ替える

- 1 ホーム画面から > [ライドプロフィール] の順に選択します。
- 2 トレーニングページを並べ替えるライドプロフィール名を選択します。
- 3 [トレーニングページ] > > [並べ替え] の順に選択します。
- 4 並べ替えるトレーニングページを選択します。
- 5 または で並べ替えます。
- 6 ...で決定し、 を押して終了します。

アラートとプロンプトの設定

アラートは、設定した数値に達した場合や設定範囲外の数値になった場合にピープ音とメッセージでお知らせする機能です。ナビゲーション中のアラートを設定することもできます。アラート設定は、ライドプロフィールに保存されます。

ホーム画面から > [ライドプロフィール] の順に選択して、アラートを設定するライドプロフィールを選択し、[アラートとプロンプト]を選択します。

[急カーブ警告]: ナビゲーション中に急カーブを知らせるアラート機能のオン/オフを設定します。

[高交通量警告]: ナビゲーション中に交通量の多い道路を知らせるアラート機能のオン/オフを設定します。

[道路の危険箇所の警告]: 道路上の穴や障害物などの危険箇所を知らせるアラート機能のオン/オフを設定します。
(26 ページ [危険箇所を報告する](#))

[未舗装路警告]: 未舗装の道路を知らせるアラート機能のオン/オフを設定します。

[ワークアウト目標アラート]: ワークアウトの目標を達成したときにアラートします。スイッチで有効/無効を設定します。

[ラップ]: ラップ設定をカスタマイズします。(55 ページ [自動ラップ](#))

[タイムアラート]: 任意のタイムを設定します。設定した値を達成するごとにアラートします。(55 ページ [繰り返しアラートを設定する](#))

[距離アラート]: 任意の距離を設定します。設定した値を達成するごとにアラートします。(55 ページ [繰り返しアラートを設定する](#))

[カロリー]: 任意の消費カロリーを設定します。設定した値を達成するごとにアラートします。

[心拍アラート]: 心拍数の上限値と下限値を [オフ] [ゾーン1~5] から選択します。設定した値を上回ったときまたは下回ったときにアラートします。(54 ページ [範囲アラートを設定する](#))

[ケイデンスアラート]: ケイデンスの上限値を [オフ] または [50RPM] ~ [150RPM]、下限値を [オフ] または [40 RPM] ~ [140RPM] から選択します。設定した値を上回ったときまたは下回ったときにアラートします。
(54 ページ [範囲アラートを設定する](#))

[パワーアラート]: パワーの上限値と下限値を [オフ] [ゾーン1~9] から選択します。設定した値を上回ったときまたは下回ったときにアラートします。(54 ページ [範囲アラートを設定する](#))

[方向転換アラート]: 任意の距離を設定して、ライド中に方向転換するタイミングをアラートします。

[栄養補給アラート]/[水分補給アラート]: タイプを [距離] または [タイム]、[スマート] から選択します。[距離] または [タイム] を選択した場合は任意の距離またはタイムを設定します。(達成ごとにアラート) [スマート] を選択した場合は、ライド中の気温や高度上昇量、スピード、経過時間、心拍数またはパワー(利用可能な場合)をもとに自動でアラートします。

[Connect IQ アラート]: Connect IQ アプリで設定したアラートをオン/オフします。

範囲アラートを設定する

心拍数またはケイデンス、パワーの範囲アラートを設定します。設定範囲を上回るまたは下回るとアラートします。

注意: 心拍数、ケイデンス、パワーデータの取得には別売のセンサーが必要です。

- 1 ホーム画面から > [ライドプロフィール] の順に選択します。
- 2 アラートを設定するライドプロフィール名を選択します。

- 3 **【アラートとプロンプト】**を選択します。
- 4 **【心拍アラート】**または**【ケイデンスアラート】**または**【パワーアラート】**を選択します。
- 5 アラートの範囲(上限値 / 下限値の値またはゾーン)を設定します。
- 6 すべて設定し終えたら、**←**を選択します。
設定範囲を上回ったとき、または下回ったときにメッセージと音(デバイスのトーン設定がオンのとき)でアラートします。(57 ページ システム設定)

繰り返しアラートを設定する

設定した値を達成するごとに繰り返しアラートします。

- 1 ホーム画面から **≡** > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 アラートを設定するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **【アラートとプロンプト】**を選択します。
- 4 アラートタイプを選択します。
- 5 **【有効】**のスイッチをオンに設定します。
- 6 必要な場合は、**【タイプ】**を選択してアラートの達成値のタイプを選択します。
- 7 **【アラート】**を選択してアラートの達成値を設定します。
設定値を達成するごとにメッセージと音(デバイスのトーン設定がオンのとき)でアラートします。(57 ページ システム設定)

自動ラップ

自動ラップとは、距離または位置、タイムを設定し、その距離または位置に到達、またはタイムが経過するごとに自動的にラップを取得する機能です。

自動ラップ(位置)を設定する

- 1 ホーム画面から **≡** > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 自動ラップを設定するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **【アラートとプロンプト】** > **【ラップ】** の順に選択します。
- 4 **【自動ラップ】**のスイッチをオンにします。
- 5 **【自動ラップ設定】** > **【位置】** の順に選択します。
- 6 **【ラップ】**を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ **【ラップ押しのみ】** アクティビティ実行中に **📍**を押下した地点を通過するごとに自動でラップを取得します。
 - ・ **【開始点とラップ】** アクティビティの開始地点と、アクティビティ実行中に **📍**を押下した地点を通過するごとに自動でラップを取得します。
 - ・ **【登録点とラップ】** アクティビティ開始前に位置登録した地点とアクティビティ実行中に **📍**を押下した地点を通過するごとに自動でラップを取得します。
- 7 **【位置登録】**を選択します。(手順 6 で **【登録点とラップ】**を選択した場合のみ)
衛星を受信して、現在地を登録点として位置登録します。
- 8 ラップ取得時に表示されるページのデータ項目を変更する場合は、**【カスタムラップ表示】**を選択して任意のデータ項目を設定します。

自動ラップ(距離)を設定する

- 1 ホーム画面から **≡** > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 自動ラップを設定するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **【アラートとプロンプト】** > **【ラップ】** の順に選択します。
- 4 **【自動ラップ】**のスイッチをオンにします。
- 5 **【自動ラップ設定】** > **【距離】** の順に選択します。
- 6 **【ラップ】**を選択し、任意の距離を設定します。
- 7 **✓**を選択します。
- 8 ラップ取得時に表示されるページのデータ項目を変更する場合は、**【カスタムラップ表示】**を選択して任意のデータ項目を設定します。

自動ラップ(タイム)を設定する

- 1 ホーム画面から **≡** > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 自動ラップを設定するライドプロフィール名を選択します。

- 3 **【アラートとプロンプト】** > **【ラップ】** の順に選択します。
- 4 **【自動ラップ】** のスイッチをオンにします。
- 5 **【自動ラップ設定】** > **【タイム】** の順に選択します。
- 6 **【ラップ】** を選択し、任意のタイムを設定します。
- 7 **✓** を選択します。
- 8 ラップ取得時に表示されるページのデータ項目を変更する場合は、**【カスタムラップ表示】** を選択して任意のデータ項目を設定します。

ラップ表示をカスタマイズする

- 1 ホーム画面から **≡** > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 自動ラップを設定するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **【アラートとプロンプト】** > **【ラップ】** の順に選択します。
- 4 **【カスタムラップ表示】** を選択します。
- 5 データ項目を選択して編集します。

自動スリープモード

自動スリープモードとは、アクティビティを実行していない(タイマーを稼働していない)間に、5 分間操作を行わないと、自動的にスリープモードに移行する機能です。

スリープモード中は、ANT+ センサー接続、Bluetooth 接続、衛星受信がオフになります。Wi-Fi 接続のみスリープモード中でも有効です。

- 1 ホーム画面から **≡** > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 自動スリープモードを設定するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **【自動スリープモード】** のスイッチで有効 / 無効を切り替えます。

自動ポーズ

走行を停止または設定したスピード以下になった場合に、タイマーを一時停止します。自動ポーズで一時停止したタイマーは、走行再開とともに自動で計測を再開します。信号待ちなどの一時停止時間をタイムから除きたい場合に便利な機能です。

- 1 ホーム画面から **≡** > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 自動ポーズを設定するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **【タイマー】** > **【自動ポーズ】** の順に選択します。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ **【オフ】** 自動ポーズをオフにします。
 - ・ **【停止時】** 走行停止時に自動ポーズでタイマーを一時停止します。
 - ・ **【カスタム】** 任意のスピードを設定し、走行スピードが設定値以下になった場合に自動ポーズでタイマーを一時停止します。

自動スクロール

アクティビティ実行中に、自動でトレーニングページをスクロールします。

- 1 ホーム画面から **≡** > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 自動スクロールを設定するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **【トレーニングページ】** > **⋮** > **【自動スクロール】** を選択します。
- 4 自動スクロール速度を **【オフ】** (利用しない) / **【遅い】** / **【速い】** から選択します。

タイマースタート

衛星捕捉後にタイマーをスタートせずに移動した場合、画面表示とアラートでタイマーのスタートを促すことで、記録忘れなどを防ぐ機能です。スタートスピードを設定することで、設定したスピードに達すると自動でタイマーをスタートさせることができます。

- 1 ホーム画面から **≡** > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 タイマースタートを設定するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **【タイマー】** > **【タイマースタート】** の順に選択します。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ **【手動】** **▶** を押して手動でタイマーを開始します。

- ・ **【スタート警告】** 任意のスタート警告スピードを設定して、タイマーを開始せずに設定スピード以上で走行した場合に警告します。
- ・ **【自動】** 任意のスタートスピードを設定して、タイマーを開始せずに設定スピード以上で走行した場合に、自動でタイマーを開始します。

衛星受信モードを変更する

GPS とその他の衛星システムを同時に使用すると、バッテリーの消費が早まります。

- 1 ホーム画面から  > **【ライドプロフィール】** の順に選択します。
- 2 衛星の受信モードを設定するライドプロフィール名を選択します。
- 3 **【衛星システム】** を選択します。
- 4 オプションを選択します。

スマートフォン設定

ホーム画面から  > **【ワイヤレス接続機能】** > **【スマートフォン】** の順に選択します。

【有効】：スイッチでスマートフォン接続の有効 / 無効を設定します。

以下のオプションは、スマートフォン接続が **【有効】** の場合のみ表示されます。

【表示名】：その他の Bluetooth デバイスと区別するためのデバイスの表示名を設定します。

【ペアリング】：スマートフォンなどのモバイル端末とのペアリングを開始します。すでにペアリング済みの場合は、接続先の端末名、接続状態、ペアリング解除のオプションが表示されます。

【今すぐ同期】：ペアリング済みスマートフォンとの同期を開始します。

【スマート通知】：カテゴリ別のスイッチで、通知のオン / オフを設定します。

【不在通知】：スマートフォンの通知一覧を表示します。

【テキスト返信署名】：スイッチでテキスト返信署名の有効 / 無効を設定します。有効に設定すると、メッセージ返信機能で送信したメッセージに、署名を付けます。

システム設定

ホーム画面から  > **【システム】** の順に選択します。

【ディスプレイ】：ディスプレイに関する設定を行います。(57 ページ [ディスプレイ設定](#))

【ウィジェット】：ウィジェットの表示 / 非表示を設定します。(58 ページ [ウィジェットを管理する](#))

【データ記録】：データ記録に関する設定を行います。(58 ページ [データ記録設定](#))

【単位】：表示単位に関する設定を行います。(58 ページ [単位設定](#))

【高度計】：高度計を校正します。(71 ページ [気圧高度計を校正する](#))

【トーン】：スイッチでアラート音のサウンドの有効 / 無効を設定します。

【キー音】：スイッチでキー操作音の有効 / 無効を設定します。

【言語】：表示言語を選択します。

【全設定リセット】：全設定リセットを行います。(69 ページ [全設定リセット](#))

【バージョン情報】：デバイスの情報を確認します。(65 ページ [デバイスの情報を確認する](#))

【規制情報】：デバイスの電子ラベルと規制情報を確認します。(65 ページ [電子ラベルの規制および準拠情報](#))

ディスプレイ設定

ホーム画面から  > **【システム】** > **【ディスプレイ】** の順に選択します。

【輝度自動調節】：スイッチでバックライト輝度の自動調節の有効 / 無効を設定します。無効(スイッチをオフ)に設定した場合、バックライトレベルを手動調節します。

【輝度】：輝度自動調節をオフに設定した場合のみ、バックライトの輝度を手動で調節します。

【バックライト点灯】：バックライトの点灯時間を選択します。

【表示モード】：表示モードを選択します。**【自動】** のオプションは日の出 / 日の入時刻に合わせて表示モードを自動で切り替えます。**【昼間】** のオプションは 24 時間昼間モードで表示します。**【夜間】** のオプションは 24 時間夜間モードで表示します。

【スクリーンショット】：スイッチでスクリーンショットの有効 / 無効を設定します。有効(スイッチをオン)に設定した場合、 を押すと表示中の画面のスクリーンショットが内蔵メモリー内 **【Garmin】** > **【Screenshot】** フォルダに保存されます。

ホーム画面の概要情報を管理する

ホーム画面の概要情報の表示 / 非表示と並び順を設定します。

- 1 ホーム画面を一番下までスクロールします。
- 2  を選択します。
- 3 次のオプションを選択します。
 - ・表示する概要情報を追加するには、**【一覧追加】**を選択します。
 - ・概要情報を並べ替えるには、概要情報を選択して**【並べ替え】**を選択します。
 - ・概要情報を非表示にするには、概要情報を選択して**【削除】**を選択します。

ウィジェットを管理する

ウィジェットの表示 / 非表示と並び順を設定します。

- 1 ホーム画面から  > **【システム】** > **【ウィジェット】** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・表示するウィジェットを追加するには、**【ウィジェットを追加】**を選択します。
 - ・ウィジェットを並べ替えるには、ウィジェットを選択して**【並べ替え】**を選択します。
 - ・ウィジェットを非表示にするには、ウィジェットを選択して**【削除】**を選択します。

データ記録設定

- 1 ホーム画面から  > **【システム】** > **【データ記録】** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・**【ケイデンス】** ケイデンスの平均データ算出方法を選択します。
 - 【ゼロを含まない平均】** ゼロ値(ペダルを漕いでいない時)を除きます。
 - 【ゼロを含む平均】** ゼロ値を含みます。
 - ・**【パワー平均化】** パワーの平均データ算出方法を選択します。
 - 【ゼロを含まない平均】** ゼロ値(ペダルを漕いでいない時)を除きます。
 - 【ゼロを含む平均】** ゼロ値を含みます。
 - ・**【心拍変動記録】** スイッチで心拍変動記録の有効 / 無効を設定します。有効に設定すると FIT ファイルに心拍変動データを記録します。(要心拍計 / データはサードパーティ製アプリで利用することができます。)

単位設定

- 1 ホーム画面から  > **【システム】** > **【単位】** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・**【距離 / スピード】** 距離とスピードの表示単位を **【メートル】** または **【マイル】** から選択します。
 - ・**【高度】** 高度の表示単位を **【メートル】** または **【マイル】** から選択します。
 - ・**【温度】** 温度の表示単位を **【摂氏】** または **【華氏】** から選択します。
 - ・**【体重】** 体重の表示単位を **【キログラム】** または **【ポンド】** から選択します。
 - ・**【身長】** 身長の表示単位を **【センチメートル】** または **【フィート】** から選択します。
 - ・**【位置フォーマット】** 座標の表示形式を選択します。
 - ・**【時刻表示形式】** 時刻の表示形式を選択します。

タイムゾーンについて

デバイスの電源をオンにして GPS を受信したとき、またはペアリング済みスマートフォンの Garmin Connect アプリと同期したときに、デバイスのタイムゾーンと現在の時刻が自動で設定されます。

拡張ディスプレイモード

Edge デバイスを対応する Garmin マルチスポーツウォッチの拡張ディスプレイとして使用できます。

- 1 Edge デバイスで、ホーム画面から  > **[拡張ディスプレイ]** > **[ウォッチとの接続]** の順に選択します。
- 2 対応する Garmin マルチスポーツウォッチで **[設定]** > **[センサー]** > **[センサー追加]** > **[拡張ディスプレイ]** の順に選択します。

ヒント：デバイスにより操作が異なる場合があります。

- 3 画面に表示される指示に従い、Edge デバイスと Garmin マルチスポーツウォッチをペアリングします。
ペアリングが完了すると、Edge デバイスのディスプレイに Garmin マルチスポーツウォッチのトレーニングページが表示されます。

注意：拡張ディスプレイモード中は、Edge デバイスのその他の機能は使用できません。

初回ペアリング以降は、Edge デバイスを拡張ディスプレイモードにするとペアリング済みの Garmin マルチスポーツウォッチに自動で接続します。

拡張ディスプレイモードを終了する

- 1 拡張ディスプレイモード中に、**...**を押します。
- 2 **[拡張ディスプレイモード終了]** >  の順に選択します。

デバイス情報

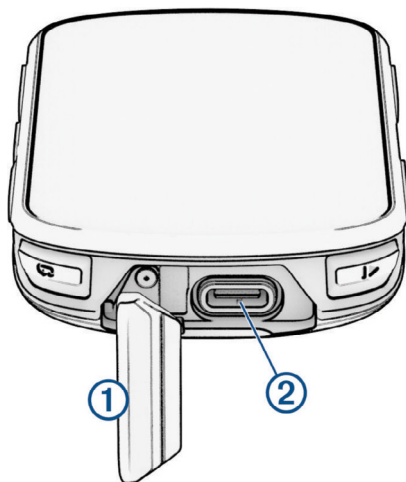
デバイスを充電する

注意

さびや腐食の原因となりますので、本体および USB ケーブルの端子や USB ポート、防水カバーの周辺に付着した汚れや水分は、充電または PC 接続の前に必ずクリーニングしてください。

注意：充電温度範囲外ではデバイスを充電できません。(65 ページ 仕様)

- 1 デバイスの防水カバー ① をめくります。



- 2 USB ケーブルの一方の端子をデバイスの USB ポート ② に差し込みます。
- 3 USB ケーブルのもう一方の端子を充電可能な USB ポートに差し込みます。
デバイスを電源に接続すると、デバイスの電源がオンになります。
- 4 デバイスを充電します。
- 5 充電が完了したら、デバイスから USB ケーブルを取り外し、防水カバーを閉じます。

バッテリーについて

警告

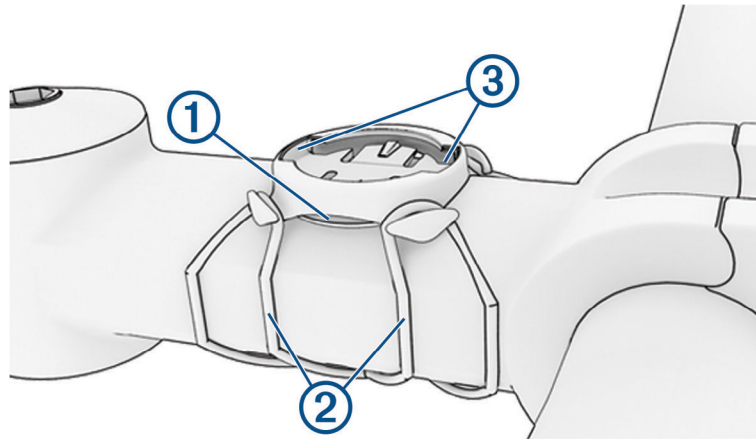
本製品はリチウムイオンバッテリーを内蔵しています。リチウムイオンバッテリーを安全にご使用いただくために、同梱のクイックスタートマニュアルの「安全および製品に関する警告と注意事項」に記載される内容を必ずお読みください。

ハンドル / ステムマウントを取り付ける

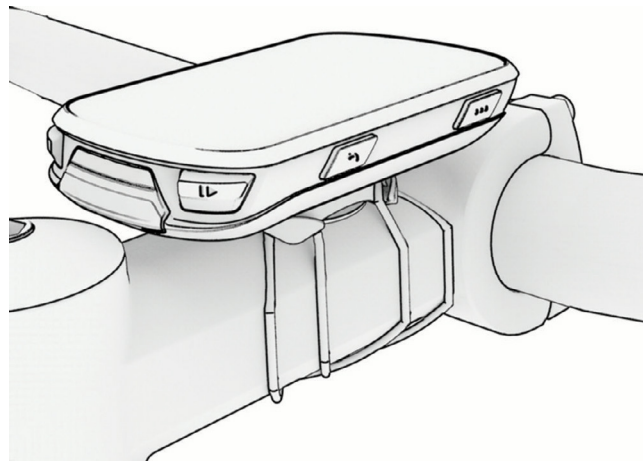
ハンドル / ステムマウントにデバイスを取り付けます。GPS の受信精度と視認性の向上のため、デバイスが地面に対して水平な状態で画面が上空に向くようにマウントしてください。

注意：ハンドル / ステムマウントをお持ちでない場合は、本手順を実施する必要はありません。

- 1 マウントの取り付け位置を選定します。自転車の安全運転の妨げとならない適切な位置を選びます。
- 2 ゴム製ディスク ① を、ハンドル / ステムマウントの裏側にセットします。
ゴム製ディスクは 2 個付属しています。お使いの自転車にフィットするものをご使用ください。



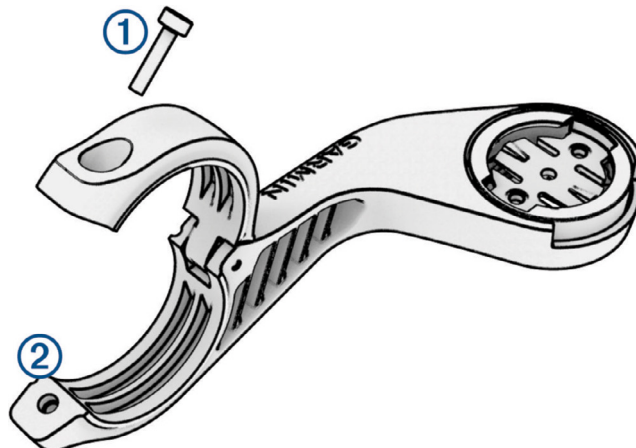
- 3 ハンドル / ステムマウントをマウント取り付け位置にセットします。
- 4 固定用バンド ② を 2 本使用して、クロスするようにマウントの爪にバンドをかけ、ハンドルまたはステムにしっかりと固定します。
- 5 マウントのノッチ ③ (凹部) に、デバイスの裏側にあるタブ (凸部) を合わせます。
- 6 デバイスを軽く押しながら、ロックされるまで時計回りに回し、マウントに固定します。



アウトフロントマウントを取り付ける

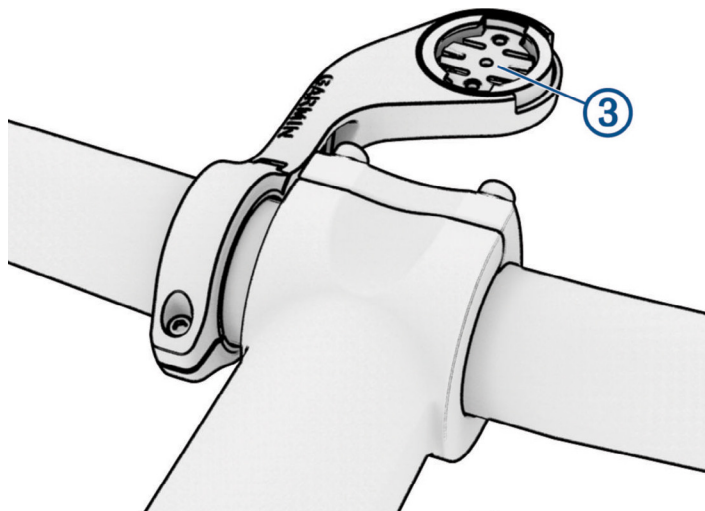
注意：アウトフロントマウントをお持ちでない場合は、本手順を実施する必要はありません。

- 1 マウントの取り付け位置を選定します。自転車の安全運転の妨げとならない適切な位置を選びます。
- 2 六角レンチでねじ ① をハンドルバー取り付け部 ② から取り外します。



- 3 スペーサーをハンドルバーに巻き付けます。
 - ・ 直径 25.4mm、26mm の場合：厚いスペーサー
 - ・ 直径 31.8mm の場合：薄いスペーサー
 - ・ 直径 35mm の場合：スペーサー不要

- 4 スペーサーの上にハンドルバー取り付け部を装着します。
- 5 手順2で取り外したねじを再度取り付け、しっかりと締めます。
注意：マウントをしっかりと固定するため、ねじを締める際には7 lbf-in (0.8 N-m)のトルクを推奨しています。
定期的にねじのゆるみを確認して、締め直してください。
- 6 マウントのノッチ ③ (凹部) に、デバイスの裏側にあるタブ (凸部) を合わせます。



- 7 デバイスを軽く押しながら、ロックされるまで時計回りに回し、マウントに固定します。

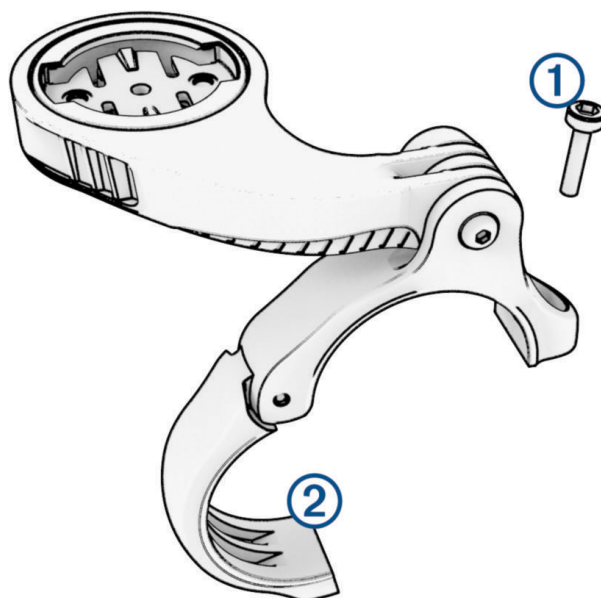
マウントから取り外す

- 1 マウントに設置したデバイスを反時計回りに回転させ、ロックを解除します。
- 2 マウントからデバイス本体を持ち上げます。

マウンテンバイクマウントを取り付ける

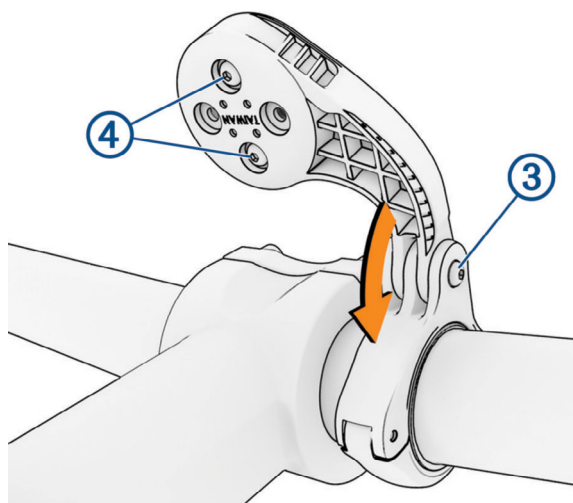
注意：マウンテンバイクマウントをお持ちでない場合は、本手順を実施する必要はありません。

- 1 マウントの取り付け位置を選定します。自転車の安全運転の妨げとならない適切な位置を選びます。
- 2 六角レンチ (3mm) でねじ ① をハンドルバー取り付け部 ② から取り外します。



- 3 スペーサーをハンドルバーに巻き付けます。
 - ・ 直径 25.4mm、26mm の場合：厚いスペーサー
 - ・ 直径 31.8mm の場合：薄いスペーサー
 - ・ 直径 35mm の場合：スペーサー不要
- 4 マウントアームがガステムの上になるように、ハンドルバー取り付け部をハンドルバーに取り付けます。
- 5 六角レンチ (3mm) でマウントアームのねじ ③ を緩め、マウントアームを配置してからねじを締め直します。

注意：マウントアームをしっかりと固定するため、ねじを締める際には 20 lbf-in (2.26 N-m) のトルクを推奨しています。定期的にねじのゆるみを確認して、締め直してください。

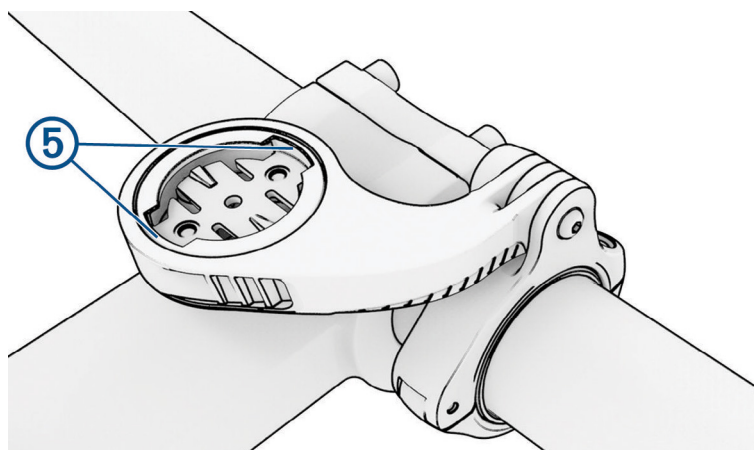


6 必要に応じて、六角レンチ (2mm) でマウント ④ の裏側にある 2 本のねじを取り外し、ハンドルバー取り付け部を外して回転させたあと、ねじを再度取り付けてマウントの向きを変更します。

7 手順 2 で取り外したねじを再度取り付け、しっかりと締めます。

注意：マウントをしっかりと固定するため、ねじを締める際には 7 lbf-in (0.8 N-m) のトルクを推奨しています。定期的にねじのゆるみを確認して、締め直してください。

8 マウントのノッチ ⑤ (凹部) に、デバイスの裏側にあるタブ (凸部) を合わせます。



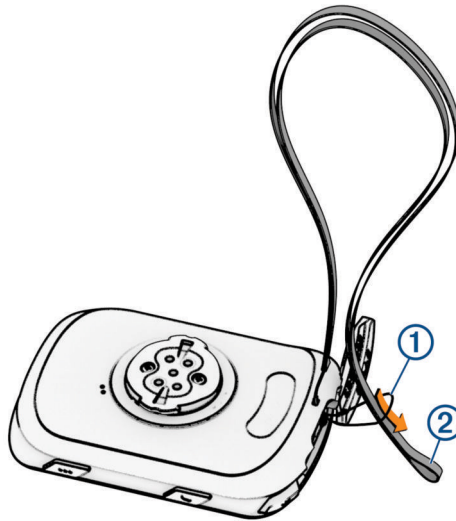
9 デバイスを軽く押しながら、ロックされるまで時計回りに回し、マウントに固定します。

ストラップを取り付ける

デバイスに付属のストラップを取り付けます。ストラップをハンドルバーにかけることで、デバイスの落下を防ぎます。

1 デバイスの防水カバーをめくります。

2 ストラップのループ ① を、デバイスの裏面側からストラップホールに通します。



- 3 ストラップの反対側 ② をループに通し、しっかりと引っ張ります。
- 4 防水カバーを閉じます。ストラップのループが防水カバーに挟まっていないことを確認します。

製品のアップデート

本製品は Bluetooth 通信 または Wi-Fi ネットワークに接続しているときは、デバイスは自動的にアップデートを確認しています。利用可能な更新ソフトウェアがある場合、デバイスに自動でダウンロードされます。ダウンロード済みの更新ソフトウェアの有無は、システム設定から確認できます。(57 ページ システム設定)

PC をご使用の場合は Garmin Express (Garmin.com/ja-JP/software/express/) を、スマートフォンをご使用の場合は Garmin Connect アプリをインストールします。

次のサービスをご利用いただけます。

- ソフトウェアアップデート
- 地図アップデート
- Garmin Connect へデータアップロード
- 製品登録

Garmin Connect アプリでソフトウェアをアップデートする

事前にスマートフォンなどのモバイル端末とデバイスをペアリングする必要があります。(31 ページ スマートフォンとペアリングする)

- 1 ペアリング済みのスマートフォンなどのモバイル端末にデバイスのデータを同期します。
利用可能な更新ソフトウェアがある場合、デバイスに自動でダウンロードされます。
- 2 画面に表示される指示に従い、ソフトウェアを更新します。

Garmin Express でソフトウェアをアップデートする

事前に Garmin Express (Garmin.co.jp/express) を PC にインストールする必要があります。

- 1 チャージングケーブルでデバイスを PC に接続します。
- 2 PC で Garmin Express を起動します。
利用可能な更新ソフトウェアがある場合、Garmin Express からデバイスに更新データを送信できます。
- 3 画面に表示される指示に従い、ソフトウェアを更新します。
- 4 更新中はデバイスを PC から取り外さないでください。

ヒント：Wi-Fi 接続機能をすでに設定している場合は、Wi-Fi に接続すると、利用可能なソフトウェアが Garmin Connect から自動的にダウンロードされます。

仕様

製品の仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

Edge 540/Edge 540 Solar

バッテリータイプ	充電式内蔵リチウムイオンバッテリー
稼働時間	Edge 540：約 26 時間 Edge 540 Solar：約 32 時間 * ¹
動作温度範囲	-20°C～ 60°C
充電温度範囲	0°C～ 45°C
防水性能	IEC 60529 IPX7 * ²

ハートレートセンサー (HRM-Dual)

バッテリータイプ	CR2032 (3V)
バッテリー寿命	約 3.5 年 (1 日 1 時間使用) * ³
動作温度範囲	0°C～ 40°C
防水性能	1 ATM * ² ※水中では心拍データを送信できません。

スピードセンサー Dual・ケイデンスセンサー Dual

バッテリータイプ	CR2032 (3V)
バッテリー寿命	約 12 か月 (1 日 1 時間使用) * ³
スピードセンサーストレージ	最大 300 時間 (アクティビティデータ)
動作温度範囲	-20°C～ 60°C
防水性能	IEC 60529 IPX7 * ²

*¹ 屋外にて 75,000 ルクスの条件下で使用した場合

*² 防水性能について、詳しくは [Garmin.com/ja-JP/legal/waterrating-definitions/](https://garmin.com/ja-JP/legal/waterrating-definitions/) をご参照ください。

*³ 付属の電池は動作確認用のため、記載の寿命まで動作しない場合があります。電池切れの際は、新しい電池に交換してください。

デバイスの情報を確認する

- 1 ホーム画面から  > **【システム】** > **【バージョン情報】** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・ **【ソフトウェア更新】** ソフトウェア更新が可能な場合にインストールできます。
 - ・ **【COPYRIGHT】** ソフトウェアの情報、ユニット ID、使用許諾契約が表示されます。

電子ラベルの規制および準拠情報

本製品では、ラベルを電子的に確認できます。FCC または地域のラベル規制によって提供される識別番号などの規制情報や製品の情報、ライセンスの情報が表示されます。

- 1 ホーム画面から  > **【システム】** > **【規制情報】** の順に選択します。

お取り扱い上の注意事項

注意

高温になるおそれがある場所でデバイスを長期間保管しないでください。デバイスの故障の原因となる可能性があります。

化学洗剤や溶剤、日焼け止めクリーム、防虫剤はデバイスのプラスチック部や塗装を傷めるおそれがあるため使用しないでください。

USB ポートに水などが入るのを防ぐために、ウェザーキャップ(防水カバー)はしっかりと閉めてください。

強い衝撃を与えたり、乱暴な取り扱いをすると製品寿命を縮めるおそれがあります。

デバイスのクリーニング方法

注意

さびや腐食の原因となりますので、本体およびチャージングケーブルの端子やその周辺に付着した汚れや水分は、充電または PC 接続の前に必ずクリーニングしてください。

- 1 薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で、デバイスを優しく拭き取ります。
- 2 乾いた布で水分を拭き取ります。その後、デバイスを完全に乾かしてください。

USB ポートのクリーニング方法

- 1 デバイスの電源をオフにして、外部電源から切断します。
- 2 USB ポートを柔らかい清潔なリントフリースクロスまたは綿棒でクリーニングします。
注意：必要な場合は、少量のイソプロピルアルコールを布または綿棒に含ませてください。
- 3 クリーニング後は、電源に接続する前に完全に乾かしてください。

ハートレートセンサーのお取り扱い上の注意事項

注意

ストラップを洗う前に、センサー発信部を必ず取り外してください。

汗に含まれる塩分や汚れ等がストラップに堆積すると、計測性能が低下するおそれがあります。

- ハートレートセンサーのお手入れ方法について、詳しくは www.Garmin.com/HRMcare をご参照ください。
- 使用後は、ストラップを毎回水ですすいでください。
- 7 回使用ごとに、洗濯機でストラップを洗ってください。
- ストラップを乾燥機に入れないでください。
- ストラップを乾かす際は、ハンガー等に吊るすか、平干ししてください。
- 長くお使いいただくために、未使用時はセンサー発信部をストラップから取り外して保管してください。

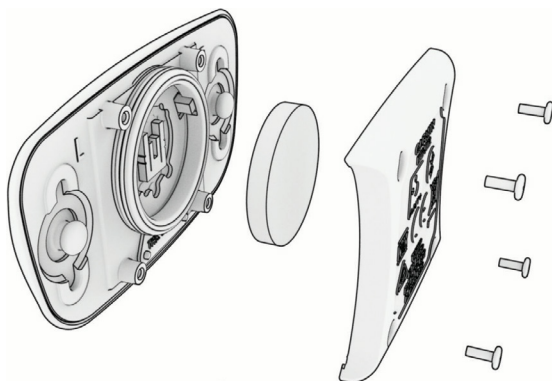
センサーの電池を交換する

⚠ 警告

製品をご使用になる前に、同梱のクイックスタートマニュアルの「安全および製品に関する警告と注意事項」を必ずお読みください。

ハートレートセンサー (HRM-Dual) の電池を交換する

- 1 センサー発信部裏側の 4 本のねじを精密ドライバーで取り外します。
- 2 電池蓋と電池を取り外します。



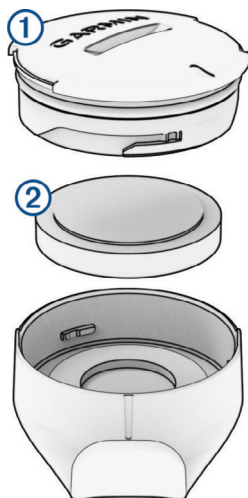
- 3 30 秒間待ちます。
- 4 新しい電池の+極と電池蓋が接するようにセットします。
注意：赤い O リング部分にごみが付着していないことを確認して忘れずに取り付けてください。
- 5 電池蓋を閉めて、ねじで四隅を固定します。
注意：ねじをきつく締めすぎないように注意してください。

ハートレートセンサーの電池交換が完了したら、Edge デバイスとのペアリングを再度行ってください。

スピードセンサー Dual のバッテリーを交換する

CR2032 (1 個) を使います。電池残量が少なくなると、タイヤを 2 回転させたときに、LED ランプが赤色に点滅します。

- 1 センサー前面の電池蓋 ① の位置を確認します。

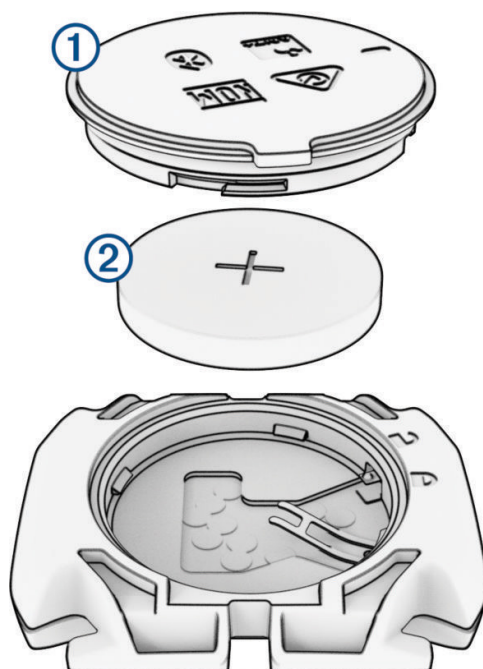


- 2 反時計回りにゆっくりと電池蓋 ① を回します。
- 3 電池蓋と電池 ② を取り外します。
- 4 30 秒間待ちます。
- 5 電池のマイナス極と電池蓋が接するようにセットします。
注意：O リング部分にごみが付着していないことを確認して、忘れずに取り付けてください。
- 6 電池蓋の印がロックマークに合うところまでスライドして、電池蓋を閉めます。
注意：電池交換が完了すると、LED ランプが数秒間、赤と緑の点滅を繰り返します。緑色の点滅に切り替わったのちに点滅が止むと、センサーが起動し、ペアリングおよびデータ送信が可能になります。

ケイデンスセンサー Dual のバッテリーを交換する

CR2032(1 個)を使います。電池残量が少なくなると、クランクアームを 2 回転させたときに、LED ランプが赤色に点滅します。

- 1 センサー背面の電池蓋 ① の位置を確認します。



- 2 電池蓋 ① のレバーにツメをかけて、反時計回りにゆっくりとスライドして、電池蓋の印がロック解除マークに合うまで動かします。
- 3 電池蓋と電池 ② を取り外します。
- 4 電池蓋の内側にある白いシートのつまみをゆっくりと引き上げ、古い電池を取り外し、30 秒間待ちます。
注意：白いシートは電池蓋から剥がさないでください。
- 5 電池のプラス極と電池蓋が接するようにセットします。
注意：O リング部分にごみが付着していないことを確認して、忘れずに取り付けてください。
- 6 電池蓋の印がロックマークに合うところまでスライドして、電池蓋を閉めます。
注意：電池交換が完了すると、LED ランプが数秒間、赤と緑の点滅を繰り返します。緑色の点滅に切り替わったのちに点滅が止むと、センサーが起動し、ペアリングおよびデータ送信が可能になります。

トラブルシューティング

デバイスを再起動する

デバイスがフリーズするなどして応答しない場合は、次の手順でデバイスを再起動してください。データや設定などは消去されません。

- 1 デバイスの電源が切れるまで、を10秒以上長押しします。
デバイスがリセットされ、その後電源がオンになります。

全設定リセット

デバイスの設定を工場出荷状態にリセットします。

- 1 ホーム画面から > **[システム]** > **[全設定リセット]** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・ **[設定リセット]** デバイスの全設定を工場出荷状態にリセットします。(アクティビティ履歴やワークアウトやコースなどのデータは保持されます。)
 - ・ **[データ削除と設定リセット]** デバイスの全設定を工場出荷状態にリセットし、すべてのアクティビティ履歴とワークアウトやコースなどのデータを削除します。(PC からコピーしたデータは保持されます。)

デモモードを終了する

デモモード中は、デバイスの画面に機能のプレビュー画面が表示されます。次の手順でデモモードを終了します。

- 1 を素早く8回押します。

バッテリーの稼働時間を長くするには

- ・ バッテリーセーブモードを有効にしてください。(69 ページ [バッテリー節約モードを有効にする](#))
- ・ バックライトレベル(輝度)を低く設定するか、**[輝度自動調節]** のオプションを有効に設定してください。(57 ページ [ディスプレイ設定](#))
- ・ バックライト点灯時間を短く設定してください。(57 ページ [ディスプレイ設定](#))
- ・ 自動スリープモードを有効にしてください。(56 ページ [自動スリープモード](#))
- ・ スマートフォンの接続機能を無効にしてください。(57 ページ [スマートフォン設定](#))
- ・ 衛星の受信モードを **[GPS]** に設定してください。(57 ページ [衛星受信モードを変更する](#))
- ・ 使用していないセンサーは、ペアリングを解除してください。

バッテリー節約モードを有効にする

バッテリー節約モードでバッテリーの稼働時間に関わる設定をカスタマイズできます。

- 1 ホーム画面から > **[バッテリー節約]** > **[有効]** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・ **[画面を暗くする]** バックライトの輝度を下げます。
 - ・ **[地図を非表示]** 地図を非表示にします。
注意：このオプションを有効にしても、ナビゲーションの転換点アラートは表示されます。
 - ・ **[衛星システム]** 衛星の受信モードを変更します。

画面上部に推定稼働時間が表示されます。

デバイスのすべての機能を使用するには、バッテリー節約をオフにしてデバイスを充電する必要があります。

デバイスとスマートフォンが接続できません

- ・ デバイスとスマートフォンの電源をオフにしてから、再度電源をオンにしてください。
- ・ スマートフォンの Bluetooth 接続をオンに設定してください。
- ・ Garmin Connect アプリを最新のバージョンにアップデートしてください。
- ・ Garmin Connect アプリからデバイスを削除し、再度ペアリングしてください。
Apple デバイスをご利用の場合、Bluetooth 設定からもペアリング済みのデバイスを削除してください。
- ・ 新しいスマートフォンを購入した場合は、古いスマートフォンの Garmin Connect アプリからデバイスを削除してください。
- ・ スマートフォンがデバイスの 10m 以内にあることをお確かめください。

- デバイスとスマートフォンをペアリングするには、次の操作を行ってください。
 - デバイスのホーム画面で **☰** > **【ワイヤレス接続機能】** > **【スマートフォン】** > **【ペアリング】** の順に選択します。
 - スマートフォンで Garmin Connect アプリを開き、アプリの詳細(●●)から **【Garmin デバイス】** > **【デバイス追加】** の順に選択し、画面に表示される指示に従いペアリングを行います。

ソーラー充電対応デバイスのためのヒント

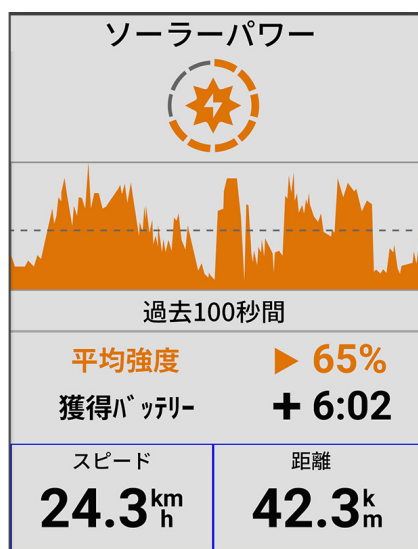
注意：ソーラー充電は Solar モデルのみ対応しています。

ソーラー充電対応のデバイスでは、デバイスを使用しながらバッテリーを充電することができます。また、デバイスの電源がオフのときやスリープモードのときでもソーラー充電しています。

デバイスのバッテリー稼働時間を長持ちさせるために、以下の点にご注意ください。

- デバイスを使用していないときは、蛍光灯や太陽光などが画面に当たるようにしてください。
- アクティビティ中に画面をスクロールしてソーラーデータページを確認できます。

ソーラーデータページでは、現在の光の強さや、ソーラー充電分だけを消費してデバイスを使用した場合に可能な累積ライド時間を確認できます。



GPS 受信精度の向上

- GPS を受信する際は、上空の開けた屋外に出て、デバイスの表面を空に向けて静止してください。通常、30~60 秒程度で受信完了します。
- 次のような場所では、GPS の受信に時間がかかったり、受信できないことがあります。
 - 屋内、ベランダ、住宅街、ビル街、森林内、トンネル内など
- Garmin Express または Garmin Connect アプリでデータの同期を行うと、数日分の衛星軌道情報が自動でデバイスにダウンロードされるため、素早い GPS の受信が可能になります。

日本語で表示されません

- 1 ホーム画面から **☰** を選択します。
- 2 リストの下から 2 番目の項目を選択します。
- 3 リストの上から 10 番目の項目を選択します。
- 4 **【日本語】** を選択します。

高度を校正するには

現在地の正確な高度が分かる場合は、デバイスの高度計を手動で校正できます。

- 1 ホーム画面から **【ナビゲーション】** > **⋮** > **【高度】** の順に選択します。
- 2 高度を入力して、**✓** を選択します。

気温の計測値について

デバイスを直射日光が当たる場所に置いていたり、デバイスを手で持っていたり、拡張バッテリーパックで充電している場合は、実際の気温よりも高い値が表示されることがあります。また、急激な温度変化があった場合に、正しい値が表示されるまでに時間がかかることがあります。

気圧高度計を校正する

気圧高度計は工場出荷時に校正されています。また、初期設定では、自動校正がオンに設定されています。現在地の正確な高度が分かる場合は、手動で気圧高度計を校正できます。

- 1 ホーム画面から  > **[システム]** > **[高度計]** > **[校正]** の順に選択します。
- 2 次のオプションを選択します。
 - ・気圧高度計を自動校正するには、**[自動校正]** を選択し、オプションを選択します。
 - ・現在地の正確な高度を入力するには、**[校正]** > **[手動入力]** を選択します。
 - ・数値標高モデル(DEM)を使用して校正するには、**[校正]** > **[DEMを使用]** を選択します。
注意： DEM 校正を行うには、スマートフォン接続が必要な場合があります。
 - ・GPS を受信して取得した高度データで校正するには、**[校正]** > **[GPSを使用]** を選択します。

コンパスを校正する

注意

コンパス校正は、周辺に磁気を帯びた機器のない場所で実施してください。パソコンの近くやマグネットが張り付く机などの上では、成功しない場合があります。自動車やビルの近く、頭上に電線のある場所を避け、屋外で実施することをお勧めします。

コンパスは工場出荷時に校正されています。また、デフォルトの設定では、自動校正が有効に設定されています。ただし、コンパスが異常な動作をする場合や、長距離を移動した後や極端な温度変化があった場合には、手動で校正を行ってください。

- 1 ホーム画面から  > **[システム]** > **[コンパス校正]** の順に選択します。
- 2 **[校正]** を選択して画面に表示される指示に従います。

マウント固定用バンドを交換するには

マウント固定用バンド(O リング)は交換部品をご購入いただけます。

注意： 交換バンドは、必ず EPDM(エチレンプロピレンジエンモノマー)製のものを使用してください。詳しくは、当社ウェブサイト(Garmin.co.jp)をご覧ください。

デバイスに関するその他の情報

- ・マニュアルや最新ソフトウェアなどの情報は、support.Garmin.com/ja-JP/ をご参照ください。
- ・別売のアクセサリや交換部品に関する情報は、販売店へお問い合わせいただくか、Garmin.co.jp をご参照ください。

付録

データ項目

注意：アクティビティタイプにより、表示可能なデータ項目が異なります。一部のデータ項目を表示するには、対応するアクセサリが必要です。

ヒント：トレーニングページに表示するデータ項目は、Garmin Connect アプリ のデバイス設定からもカスタマイズすることができます。

スピード

スピード	現在の移動速度 (km/h)
平均スピード	アクティビティ中の平均速度 (km/h)
ラップスピード	現在のラップ中の平均速度
前回ラップスピード	前回ラップの平均速度
最高スピード	アクティビティ中の最高速度 (km/h)

距離

距離	現在の走行距離
ラップ距離	現在のラップの走行距離
前回ラップ距離	前回のラップの走行距離
先行距離	バーチャルパートナーからの先行距離
積算距離	これまでの走行距離合計

タイム

タイム	現在のアクティビティタイム
経過時間	タイマーをスタートしてから、アクティビティを終了するまでのタイム(自動ポーズやタイマー停止中も含む、アクティビティを保存するまでのタイム)
ラップタイム	現在のラップタイム
平均ラップタイム	全ラップの平均タイム
前回ラップタイム	前回のラップタイム
先行時間	バーチャルパートナーからの先行時間
区間タイム	現在のアクティビティのセグメントレースの合計タイム

高度

高度	現在の高度(海拔)
勾配	勾配角度(%) 水平方向 100m に対して垂直方向に何 m 上がったかを割合(%)で表示
ラップ上昇量	現在のラップの上昇量
ラップ下降量	現在のラップの下降量
総上昇量	上昇の合計距離
総下降量	下降の合計距離
上昇速度	垂直に移動した速度 (m/h)
30 秒上昇速度	30 秒間に垂直に移動した平均速度 (m/h)
平均上昇速度	アクティビティ中の平均上昇速度 (m/h)
ラップ上昇速度	現在のラップの平均上昇速度 (m/h)
残り総上昇量	目的地までの残り上昇量
経由地までの上昇量	次の転換点までの残り上昇量

ナビゲーション

目的地までの距離	目的地までの距離
目的地までの時間	目的地へ到着するまでにかかる予想時間 現在のスピードを基に計算され、スピードに応じて変化
目的地到着時刻	目的地に到着する予定時刻
目的地	最終目的地名 または ナビゲーション名
経由地までの距離	次の転換点までの距離
経由地所要時間	次の転換点に到着するまでにかかる予想時間。最終目的地までの間に転換点が無い場合は、目的地への所要時間を表示 現在のスピードを基に計算され、スピードに応じて変化
経由地到着時刻	次の転換点に到着する予定時刻 最終目的地までの間に転換点が無い場合は、目的地到着時刻を表示
経由地名称	次の方向転換地点名
残り総上昇量	目的地までの残り上昇量
経由地までの上昇量	次の転換点までの残り上昇量
ポイント距離	コース上の次のポイントまでの残り距離
進行方位	現在移動している方向
転換点距離	次のポイントまでの残り距離
ポイントまで	次のポイントまでの残り時間

MTB パフォーマンス

グリット	標高、勾配、および方向の急激な変化に基づく現在のアクティビティの難しさをスコアで表示
ラップグリット	現在のラップの全体的なグリットスコア
60 秒グリット	60 秒間の平均グリットスコア
フロー	現在のアクティビティでスピードと滑らかさをどの程度一貫して維持しているかをスコアで表示
ラップフロー	現在のラップの全体的なフロースコア
60 秒フロー	60 秒間の平均フロースコア

グラフィック表示

※グラフカテゴリーの項目は、トレーニングページの分割数によっては表示可能域が狭いためグラフが表示されない場合があります。表示可能域の広い分割レイアウトを選択してください。

スピード	現在の移動速度 (km/h)
スピードバー	アクティビティ中の移動速度 (km/h) を棒グラフで表示
スピードグラフ	アクティビティ中の移動速度 (km/h) を折れ線グラフで表示
高度グラフ	高度を棒グラフで表示
コンパス	コンパスを表示
地図	現在地周辺の地図を表示
ケイデンス	クランクアームの毎分の回転数
ケイデンスバー	アクティビティ中のクランクアームの毎分の回転数を棒グラフで表示
ケイデンスグラフ	アクティビティ中のクランクアームの毎分の回転数を折れ線グラフで表示
心拍	現在の心拍数
心拍バー	心拍数を棒グラフで表示
心拍グラフ	心拍数を折れ線グラフで表示
心拍ゾーングラフ	心拍ゾーンを折れ線グラフで表示
パワー	現在のパワー (w または %FTP)

パワーバー	アクティビティ中のパワー (w または %FTP) を棒グラフで表示
パワーグラフ	アクティビティ中のパワー (w または %FTP) を折れ線グラフで表示

その他

ラップ	アクティビティで現在までに取得したラップ数
バッテリー残量	バッテリー残量表示
カロリー	消費カロリー
衛星受信強度	GPS 衛星受信強度を表示
時刻	現在地の時刻
パフォーマンスコンディション	パフォーマンスコンディション 現在の自身のパフォーマンスの状態を表した数値
日の出時刻	現在地(当日)の日の出時刻
日の入時刻	現在地(当日)の日の入時刻
温度	現在の気温
最低気温(24 時間)	対応する温度センサーで計測した過去 24 時間の最低気温
最高気温(24 時間)	対応する温度センサーで計測した過去 24 時間の最高気温

ケイデンス

ケイデンス	クランクアームの毎分の回転数
平均ケイデンス	アクティビティ中の平均ケイデンス数
ラップケイデンス	現在のラップの平均ケイデンス数

心拍

心拍	現在の心拍数
平均心拍	アクティビティ中の平均心拍数
ラップ心拍	現在のラップの平均心拍数
前回ラップ心拍	前回のラップの平均心拍数
心拍 %Max	最大心拍数に対する現在の心拍数の割合 (%)
平均心拍 %Max	アクティビティ中の平均最大心拍%
ラップ心拍 %Max	現在のラップの最大心拍%
心拍 %HRR	現在の心拍予備量 (%) 最大心拍数と安静時心拍数の差に対する現在の心拍予備量 (最大心拍数と現在の心拍数の差)
平均 %HRR	現在のラップの心拍予備量 (%)
ラップ %HRR	現在のラップの平均心拍予備量 (%)
心拍ゾーン	現在の心拍ゾーン
タイム(心拍ゾーン 1 ~ 5)	設定したゾーンで何分間トレーニングを行っているかを表示
有酸素トレーニング効果	有酸素トレーニング効果
無酸素トレーニング効果	無酸素トレーニング効果
負荷	現在のトレーニング負荷
呼吸数	1 分間当たりの呼吸数 (要 ハートレートセンサー)

パワー

パワー	現在のパワー (w または %FTP)
平均パワー	アクティビティ中の平均パワー値

平均パワー 3 秒	3 秒間の平均パワー値
平均パワー 10 秒	10 秒間の平均パワー値
平均パワー 30 秒	30 秒間の平均パワー値
ラップパワー	現在のラップの平均パワー値
前回ラップパワー	前回のラップの平均パワー値
最大パワー	アクティビティ中の最大パワー出力値
ラップ最大パワー	現在のラップの最大パワー出力値
パワー -KJ	パワーを kj(キロジュール) パワー値(累積総量)で表示
パワー -w/kg	1kg 単位毎の総パワー出力をワット(w)で表示
パワー - w/kg 平均	1kg 単位毎の平均パワー出力をワット(w)で表示
パワー - 3s 平均 w/kg	3 秒間の平均パワー出力(1kg 単位毎)をワット(w)で表示
パワー - 10s 平均 w/kg	10 秒間の平均パワー出力(1kg 単位毎)をワット(w)で表示
パワー - 30s 平均 w/kg	30 秒間の平均パワー出力(1kg 単位毎)をワット(w)で表示
パワー - w/kg ラップ	現在のラップの平均パワー出力(1kg 単位毎)をワット(w)で表示
パワーゾーン	現在のパワーゾーン(設定した FTP 値に基づきます。)
タイム(パワーゾーン 1 ~ 9)	設定したゾーンで何分間トレーニングを行っているかを表示
ペダルスムーズネス	ペダリングサイクル毎の平均出力と最大出力の比(パーセンテージで測定)
トルク効率	ペダリング毎の総出力に対する有効出力の割合がパーセントで測定された値(100%の場合、抗力は 0)
パワーバランス	現在の左右のバランス値
平均バランス	アクティビティ中の平均バランス値
平均バランス 3 秒	3 秒間の左右の平均バランス値
平均バランス 10 秒	10 秒間の左右の平均バランス値
平均バランス 30 秒	30 秒間の左右の平均バランス値
ラップバランス	現在のラップの平均バランス値
パワー IF	強度係数 FTP に対する NP の比率を表示 アクティビティ中の時間経過による変化、個人の能力差を考慮して運動強度を指標として数値化したもの
パワー TSS	パワートレーニングストレススコア IF(強度係数)とトレーニング時間をスコア表示し、トレーニングの質と量を考慮することで、トレーニングの負荷(ストレス)を数値化したもの TSS を知ることで、オーバートレーニングを回避し、練習量のコントロールが可能
標準化パワー	標準化パワー 風や坂など変動が大きい外的要因を考慮して運動強度を指標として数値化したもの
ラップ NP	現在のラップの標準化パワー
L LAP NP	前回ラップの標準化パワー
パワー %FTP	機能的作業閾値パワー (Functional Threshold Power) 1 時間継続して出力できる最大パワー値を 100%とし、現在のトレーニングが何%の負荷(ストレス)であるかを表示

サイクリングダイナミクス

ダンシングタイム	アクティビティ中の合計ダンシング(立ち漕ぎ)タイムを表示
ラップダンシングタイム	現在ラップの合計ダンシングタイムを表示
シットイングタイム	アクティビティ中の合計シットイング(座り漕ぎ) タイムを表示
ラップシットイングタイム	現在ラップの合計シットイングタイムを表示
PCO	ペダルの中心から左右に何ミリの位置でペダリングを行っているかを表示
平均 PCO	アクティビティ中の平均プラットフォームセンターオフセットを表示

ラップ PCO	現在ラップのプラットフォームセンターオフセットを表示
パワーフェーズ-R	右ペダルのトルクがかかっている範囲(開始地点と終了地点)を度数で表示
平均パワーフェーズ R	アクティビティ中の右ペダルの平均パワーフェーズを表示
ラップパワーフェーズ R	現在ラップの右パワーフェーズを表示
パワーフェーズピーク R	右ペダルのパワーの 50 パーセントを作り出している範囲(開始地点と終了地点)を度数で表示
平均パワーフェーズピーク R	アクティビティ中の右ペダルの平均パワーフェーズピークを表示
ラップパワーフェーズピーク R	現在ラップの右パワーフェーズピークを表示
パワーフェーズ-L	左ペダルのトルクがかかっている範囲(開始地点と終了地点)を度数で表示
平均パワーフェーズ L	アクティビティ中の左ペダルの平均パワーフェーズを表示
ラップパワーフェーズ L	現在ラップの左パワーフェーズを表示
パワーフェーズピーク L	左ペダルのパワーの 50 パーセントを作り出している範囲(開始地点と終了地点)を度数で表示
平均パワーフェーズピーク L	アクティビティ中の左ペダルの平均パワーフェーズピークを表示
ラップパワーフェーズピーク L	現在ラップの左パワーフェーズピークを表示

ギア

ギア	現在の各ギアの位置を表示
フロントギア	現在のフロント(前)ギアの位置を表示
リアギア	現在のリア(後)ギアの位置を表示
ギアバッテリー	ギアのバッテリー残量を表示 SRAM、Campagnolo 社の電動コンポーネントでバッテリー残量を表示させる際は こちらを選択してください。
ギア比	現在の各ギアの歯数を表示
ギアコンボ	ギアポジションセンサーから現在のギアの組み合わせを表示
Di2 バッテリー残量	Di2 のバッテリー残量を表示
Di2 シフトモード	Di2 のシフトモードを表示

ライト

バッテリーステータス	バッテリー残量の表示
ビームアングル	ヘッドライトの角度
ライトモード	ライト構成を表示
ライト接続数	接続されているライト数の表示

ワークアウト

達成値	現在のワークアウトの残り時間
第 1 ターゲット	ワークアウトの第一目標
第 2 ターゲット	ワークアウトの第二目標
ワークアウト比較	ワークアウトの目標に対する現在のパフォーマンスをグラフで比較
ステップタイム	現在のワークアウトの経過時間
ステップ距離	現在のステップの距離
ワークアウトステップ	ワークアウトの全ステップ数と現在のステップ数を表示
目的地距離	ステップが終了するまでの残り距離
所要時間	ステップが終了するまでの残り時間
残り回数	リピートステップが終了するまでの残りの繰り返し数
目標カロリー	ステップが終了するまでの残りのカロリー値

目標心拍数	ステップが終了するまでの残り心拍数
-------	-------------------

スマートトレーナー

トレーナーコントロール	ワークアウト中にスマートトレーナーによって加えられる負荷
-------------	------------------------------

e- バイク

アシストモード	e- バイク のアシスタンスモードを表示
e- バイクバッテリー	e- バイク のバッテリー残量
スマート航続可能距離	地形を考慮した e- バイクがアシストする残り走行距離
航続可能距離	現在の e- バイクの設定とバッテリー残量を基にした残り走行可能距離
シフティングアドバイス	e- バイク がマニュアルシフトモードの時、現在のパフォーマンスに基づいたシフティングに関するアドバイスを表示

スタミナ

潜在的スタミナ	残りの潜在的なスタミナ
スタミナ	現在の残りスタミナ
推定距離	現在のスタミナで走行可能な推定距離
推定時間	現在のスタミナで走行可能な推定時間

VO2 Max レベル分類表

これらの表は、VO2 Max の推定値を年齢や性別により標準化して分類したものです。

男性		20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-79 歳
優れている	上位 5%以上	55.4	54	52.5	48.9	45.7	42.1
非常に良い	上位 6 ~ 20%以上	51.1	48.3	46.4	43.4	39.5	36.7
良い	上位 21 ~ 40%以上	45.4	44	42.4	39.2	35.5	32.3
普通	上位 41 ~ 60%以上	41.7	40.5	38.5	35.6	32.3	29.4
悪いまたは非常に悪い	上位 60%未満	<41.7	<40.5	<38.5	<35.6	<32.3	<29.4

女性		20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-79 歳
優れている	上位 5%以上	49.6	47.4	45.3	41.1	37.8	36.7
非常に良い	上位 6 ~ 20%以上	43.9	42.4	39.7	36.7	33	30.9
良い	上位 21 ~ 40%以上	39.5	37.8	36.3	33	30	28.1
普通	上位 41 ~ 60%以上	36.1	34.4	33	30.1	27.5	25.9
悪いまたは非常に悪い	上位 60%未満	<36.1	<34.4	<33	<30.1	<27.5	<25.9

本データは、The Cooper Institute により許可・提供されています。詳しくは www.CooperInstitute.org をご覧ください。

FTP レベル分類表

これらの表は、機能的作業閾値パワー (FTP) の推定値を性別で分類したものです。

男性	FTP レート (W/kg)	女性	FTP レート (W/kg)
優れている	5.05 以上	優れている	4.30 以上
非常に良い	3.93 ~ 5.04	非常に良い	3.33 ~ 4.29
良い	27.9 ~ 3.92	良い	2.36 ~ 3.32
普通	2.23 ~ 2.78	普通	1.90 ~ 2.35
一般(未訓練)	2.23 以下	一般(未訓練)	1.90 以下

FTP レートは Hunter Allen and Andrew Coggan, PhD, Training and Racing with a Power Meter (Boulder, CO: VeloPress, 2010) を基にしています。

心拍ゾーン参考表

最大心拍数に対する割合 (%Max) を基準にした場合の心拍ゾーン別の状態と効果

ゾーン	%Max	状態	効果
1	50-60%	- 心身ともにリラックスしたペース - リズムカルな呼吸で、会話に支障がない	【有酸素性能力の基礎作り】 - 有酸素性能力向上の初期レベルのトレーニング - ストレスの軽減
2	60-70%	- 快適さを感じるペース - 少し呼吸が深くなるが、会話は可能	【心肺機能の向上】 - 心肺機能向上の基本となるトレーニング - 脂肪燃焼に効果的 - 高強度トレーニング後の休息に適したペース
3	70-80%	- マラソンをするような標準のペース - 会話を続けるのが難しくなる	【有酸素性能力の向上】 - 心肺機能向上に最適なトレーニング - 持久力の向上
4	80-90%	- ややきついペース - 呼吸が力強くなり会話することができない	【無酸素性能力の向上】 - 無酸素性作業閾値の向上 - スピードの向上
5	90-100%	- 全速力の速さで、長時間維持することはできないペース - 呼吸が相当きつい	【無酸素性持久力の向上】 瞬発力、筋持久力の向上

タイヤサイズと周長

スピードセンサーは、タイヤ周長を自動検出します。スピードセンサーのセンサー設定から、手動で周長を入力できます。

タイヤサイズは自転車のタイヤ側面に記載されています。サイズが記載されていない場合は、周長を手動で測定するか、インターネット上の周長計算ツールなどを使用してください。

商標について

本操作マニュアルの内容の一部または全部を当社の承諾なしに転載または複製することはできません。

本操作マニュアルの内容ならびに製品の仕様は、予告なく変更される場合があります。

製品に関する最新・補足情報については、Garmin.co.jp にアクセスしてください。

Garmin, Garmin ロゴ, ANT+, Auto Lap, Auto Pause, Edge, ForeAthlete, Forerunner, inReach, VIRB, Virtual Partner は、米国またはその他の国における Garmin Ltd. またはその子会社の登録商標です。

Connect IQ, Firstbeat Analytics, Garmin Connect, Garmin Express, Garmin Index, HRM-Dual, HRM-Fit, HRM-Pro, Rally, Varia, Vector は Garmin Ltd. またはその子会社の商標です。Garmin の許可を得ずに使用することはできません。

Android™ は Google LLC の商標です。Apple®, iPhone®, Mac® は米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。BLUETOOTH® ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、Garmin はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。Cooper Institute®, および関連する商標は The Cooper Institute が所有しています。Di2™ は Shimano, Inc の商標です。Shimano® は Shimano, Inc. の登録商標です。Training Stress Score™ (TSS), Intensity Factor™ (IF), Normalized Power™ (NP) は Peaksware, LLC の商標です。SRAM® は SRAM LLC の登録商標です。STRAVA および Strava™ は Strava, Inc の商標です。Wi-Fi® は、Wi-Fi Alliance Corporation の登録商標です。Windows®, Windows NT® は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

M/N: A04394

